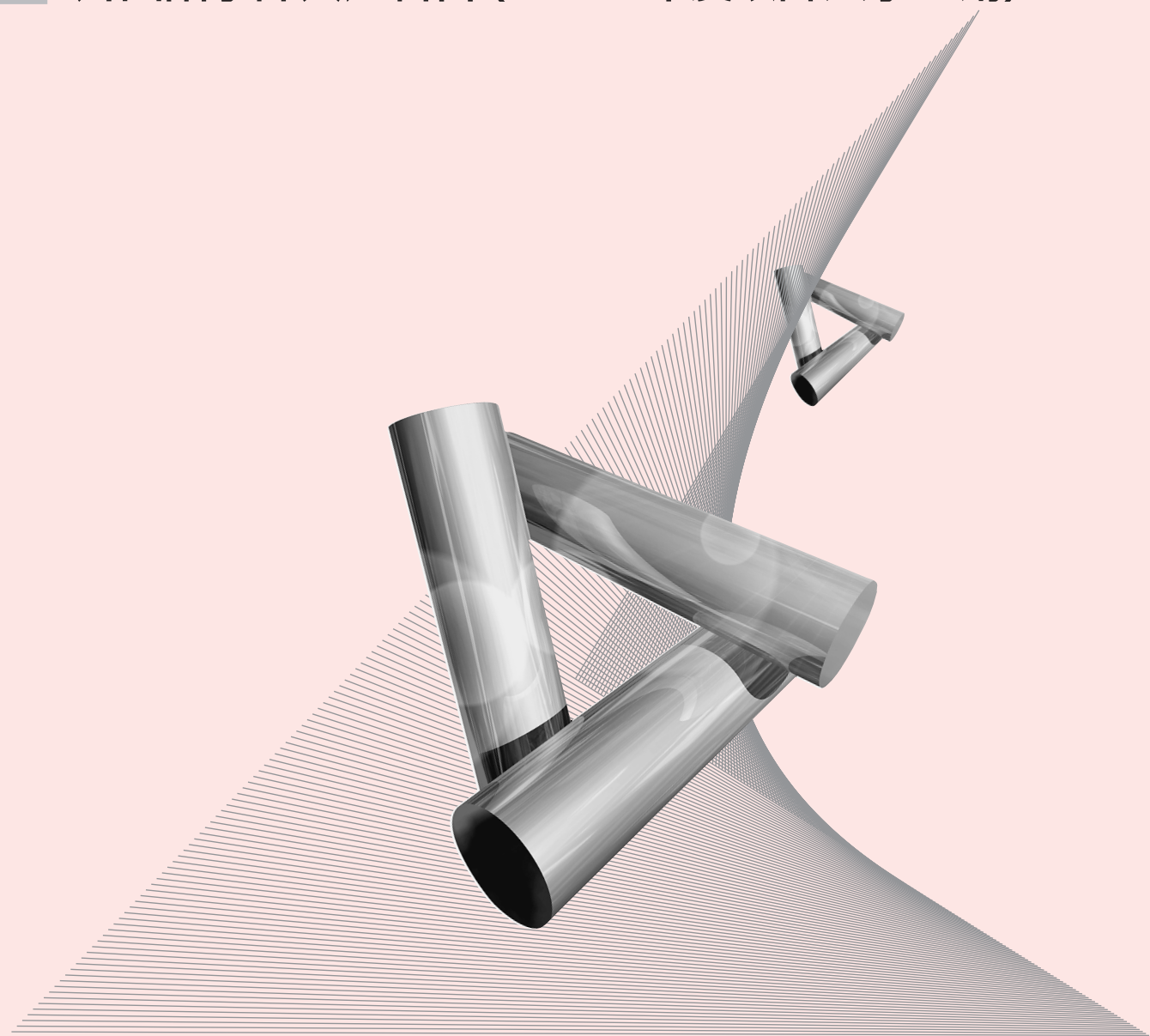


2006年度

# シラバス ドイツ語学科

外国語学部共通科目(2003年度以降入学生用)



獨協大学

# ドイツ語学科 シラバス

## 【総合目次一覧】

### ◆ 【2005/2006年度】入学生用

学則別表…………… I - 1

授業科目目次…………… I - 2~3

外国語学部共通科目…P.76以降に掲載

### ◆ 【2003/2004年度】入学生用

学則別表…………… II - 1

授業科目目次…………… II - 2~4

外国語学部共通科目…P.76以降に掲載

### ◆ 【2002年度以前】入学生用

学則別表…………… III - 1

授業科目目次…………… III - 2~3

英語科目目次…………… III - 4

外国語学部共通科目…全学共通授業科目(別冊子)の  
シラバスに掲載

# 【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

## シラバス掲載事項

： 2003～2006年度入学生・・・「ドイツ語学科授業科目」「外国語学部共通科目」

： 2002年度以前入学生・・・「ドイツ語学科授業科目」「英語授業科目」

各自の入学年度に従い、以下の点に注意し目次を確認してください。

## \*履修不可学科の表記

外：外国語学部	経：経済学部	法：法学部
独：ドイツ語学科	済：経済学科	律：法律学科
英：英語学科	営：経営学科	国：国際関係法学科
仏：フランス語学科		
言：言語文化学科		
言（*1）：言語文化学科、スペイン語履修者		
言（*2）：言語文化学科、中国語履修者		
全：ドイツ語学科以外		

①適用年度	② 科目名	③ 担当者
④ 講義目的、講義概要	⑤ 授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	⑦ 評価方法
①適用年度	② 科目名	③ 担当者
④ 講義目的、講義概要	⑤ 授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	⑦ 評価方法

春学期

秋学期

## \*上段は、春学期科目です。

- ①②入学年度により科目名が異なります。  
 ・05年度以降：2005/2006年度入学生を表します。  
 ・03年度以降：2003/2004年度入学生を表します。  
 ・入学年度で科目名が異なりますので、各自、目次で確認してください。2002年度以前入学生については目次を参照して科目名を確認してください。
- ③ 担当教員氏名  
 ④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。  
 ⑤ 学期の授業計画についての欄です。各週ごとに講義するテーマが記載してあります。  
 ⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。  
 ⑦ 春学期完結科目は春学期終了時に成績評価が出ます。秋学期完結科目と通年科目は秋学期終了時に成績評価が出ます。

## \*下段は、秋学期科目です。

各項目については、春学期と同一です。

## [春・秋共通注意]

1.定員  
 科目の中には定員制のものがあります。それぞれ適用年度の「授業時間割表」を参照してください。

学則別表(2005・2006年度入学者用)

科目	部門	科目	単位	I類			II類			III類			
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
学科基礎科目	ドイツ語	総合ドイツ語 I	1	3			3			3			
		総合ドイツ語 II	1	3			3			3			
		総合ドイツ語 III	1	3			3			3			
		総合ドイツ語 IV	1	3			3			3			
		基礎ドイツ語 I	1	2			2			2			
		基礎ドイツ語 II	1	2			2			2			
		基礎ドイツ語 III	1	2			2			2			
		基礎ドイツ語 IV	1	2			2			2			
		ドイツ語 LL I	1	1			1			1			
		ドイツ語 LL II	1	1			1			1			
		ドイツ語圏入門 I	2	2			2			2			
		ドイツ語圏入門 II	2	2			2			2			
基礎演習 I	2	2			2			2					
基礎演習 II	2	2			2			2					
授業科目共通	英語			10		4***	10		4***	10		4***	
学科共通科目	ドイツ語	総合ドイツ語 V	1	2			2			2			
		総合ドイツ語 VI	1	2			2			2			
		上級ドイツ語(時事)	2		4			4			4		
		上級ドイツ語(会話)	2										
		上級ドイツ語(作文)	2										
		上級ドイツ語特殊演習	2										
		中世ドイツ語 I	2										
		中世ドイツ語 II	2										
		通訳特殊演習 I	2										
		通訳特殊演習 II	2										
		CAI特殊演習	2										
		学科専門科目	I 言語・文学	ドイツ語学概論 I	2								
ドイツ語学概論 II	2				4								
ドイツ文学概論 I	2												
ドイツ文学概論 II	2												
ドイツ語学各論 I	2												
ドイツ語学各論 II	2												
ドイツ文学各論 I	2				8								
ドイツ文学各論 II	2												
ドイツ語学・文学特殊講義	2												
ドイツ語講読(語学)	2												
ドイツ語講読(文学)	2				8			8**			8**		
ドイツ語学・文学特殊講読	2												
専門演習(言語・文学)	2			4	4*								
II 思想・芸術	ドイツ文化史概論 I			2									
	ドイツ文化史概論 II			2					2				
	ドイツの思想 I		2										
	ドイツの思想 II		2										
	ドイツの音楽 I		2										
	ドイツの音楽 II		2										
	ドイツの美術 I		2										
	ドイツの美術 II		2										
	ドイツの演劇 I		2			24				8		24	
	ドイツの演劇 II		2										
	ドイツ思想・芸術各論 I		2										
	ドイツ思想・芸術各論 II		2										
	ドイツ思想・芸術特殊講義		2										
	ドイツ語講読(思想)		2										
	ドイツ語講読(芸術)		2		8**				8		8**		
ドイツ思想・芸術特殊講読	2												
専門演習(思想・芸術)	2						4	4*					
III 歴史・社会	ドイツ史概論 I	2											
	ドイツ史概論 II	2											
	ドイツの歴史 I	2											
	ドイツの歴史 II	2											
	ドイツの社会・事情 I	2											
	ドイツの社会・事情 II	2											
	ドイツの地誌・民俗 I	2											
	ドイツの地誌・民俗 II	2											
	ドイツの政治・対外関係 I	2											
	ドイツの政治・対外関係 II	2											
	ドイツの経済 I	2											
	ドイツの経済 II	2											
	ドイツの法律 I	2											
	ドイツの法律 II	2											
	ドイツ史・社会各論 I	2											
ドイツ史・社会各論 II	2												
ドイツ史・社会特殊講義	2												
ドイツ語講読(歴史)	2		8**						8				
ドイツ語講読(社会)	2												
ドイツ史・社会特殊講読	2												
専門演習(歴史・社会)	2												
総合講座	2								4	4*			
卒業論文	8												
外国語学部共通科目(別表 I-5)													
全学(別表 IV) 共通授業科目	外国語科目	カテゴリー I		4			4			4			
		カテゴリー II			8			8			8		
		カテゴリー III			4			4			4		
		カテゴリー IV				4***			4***			4***	
		カテゴリー V			4			4			4		
外国語科目	古典語科目												
卒業に必要な単位数合計				52	48	28	56	44	28	56	44	28	
備考				128			128			128			

- (1) 主として履修する1部門より、「演習」4単位必修、他に「概論」4単位(Ⅱ類、Ⅲ類では必修)、「各論」8単位、「ドイツ語講読」8単位を  
選択必修として履修する。各類とも他の部門より「ドイツ語講読」8単位(\*\*印)を選択必修として履修する。主専攻以外の「ドイツ語講読」に  
換えて「専門演習」(\*印)を上限4単位まで履修できる。
- (2) 卒業に必要な選択科目のうち20単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。  
ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。なお、教職課程科目の単位の代用については別に定める。
- (3) \*\*\*全学共通授業科目の英語も含めた科目から4単位選択。
- 本表は、2005年度入学者から適用する。

# ドイツ語学科授業科目 (2005/2006年度入学生用)

## 目次

### 学科基礎科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	総合ドイツ語Ⅰ	各担当教員		1	1	全	1
	秋	総合ドイツ語Ⅱ	各担当教員		1	1	全	1
	春	基礎ドイツ語Ⅰ	各担当教員		1	1	全	2
	秋	基礎ドイツ語Ⅱ	各担当教員		1	1	全	2
	春	ドイツ語LLⅠ	各担当教員		1	1	全	3
	秋	ドイツ語LLⅡ	各担当教員		1	1	全	3
	春	総合ドイツ語Ⅲ	各担当教員		1	2	全	4
	秋	総合ドイツ語Ⅳ	各担当教員		1	2	全	4
	春	基礎ドイツ語Ⅲ	各担当教員		1	2	全	5
	秋	基礎ドイツ語Ⅳ	各担当教員		1	2	全	5
09966	春	ドイツ語圏入門Ⅰ	木内 基実	水3	2	1	全	6
09967	秋	ドイツ語圏入門Ⅱ	木内 基実	水3	2	1	全	6
	春	基礎演習Ⅰ	各担当教員		2	2	全	7
	秋	基礎演習Ⅱ	各担当教員		2	2	全	7

### 学科専門科目

#### 「Ⅰ類」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
09968	春	ドイツ語学概論Ⅰ	柿沼 義孝	金4	2	1		21
09969	秋	ドイツ語学概論Ⅱ	柿沼 義孝	金4	2	1		21
09970	春	ドイツ文学概論Ⅰ	工藤 達也	月4	2	1		22
09971	秋	ドイツ文学概論Ⅱ	工藤 達也	月4	2	1		22
11726	春	ドイツ語学各論Ⅰ	諏訪 功	木3	2	2		23
11727	秋	ドイツ語学各論Ⅱ	諏訪 功	木3	2	2		23
11728	春	ドイツ文学各論Ⅰ	小島 康男	木2	2	2		24
11729	秋	ドイツ文学各論Ⅱ	小島 康男	木2	2	2		24

#### 「Ⅱ類」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
09974	春	ドイツ文化史概論Ⅰ	渡部 重美	木4	2	1		32
09975	秋	ドイツ文化史概論Ⅱ	渡部 重美	木4	2	1		32
11734	春	ドイツの思想Ⅰ	船戸 満之	月2	2	2		33
11735	秋	ドイツの思想Ⅱ	船戸 満之	月2	2	2		33
11732	春	ドイツの音楽Ⅰ	木村 佐千子	木2	2	2		34
11733	秋	ドイツの音楽Ⅱ	木村 佐千子	木2	2	2		34
11736	春	ドイツの美術Ⅰ	青山 愛香	火2	2	2		35
11737	秋	ドイツの美術Ⅱ	青山 愛香	火2	2	2		35
11730	春	ドイツの演劇Ⅰ	越部 暹	火3	2	2		36
11731	秋	ドイツの演劇Ⅱ	越部 暹	火3	2	2		36
11738	春	ドイツ思想・芸術各論Ⅰ	下川 浩	火4	2	2		37
11739	秋	ドイツ思想・芸術各論Ⅱ	下川 浩	火4	2	2		37

## 「Ⅲ類」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
09976	春	ドイツ史概論Ⅰ	黒田 多美子	火4	2	1		46
09977	秋	ドイツ史概論Ⅱ	黒田 多美子	火4	2	1		46
11740	春	ドイツの歴史Ⅰ	増谷 英樹	火3	2	2		47
11741	秋	ドイツの歴史Ⅱ	増谷 英樹	火3	2	2		47
11744	春	ドイツの社会・事情Ⅰ	H. H. ゲートケ	木3	2	2		48
11745	秋	ドイツの社会・事情Ⅱ	H. H. ゲートケ	木3	2	2		48
11746	春	ドイツの地誌・民俗Ⅰ	大串 紀代子	火3	2	2		49
11747	秋	ドイツの地誌・民俗Ⅱ	大串 紀代子	火3	2	2		49
11748	春	ドイツの政治・対外関係Ⅰ	古田 善文	火2	2	2		50
11749	秋	ドイツの政治・対外関係Ⅱ	古田 善文	火2	2	2		50
11750	春	ドイツの経済Ⅰ	大重 光太郎	木2	2	2		51
11751	秋	ドイツの経済Ⅱ	大重 光太郎	木2	2	2		51
11742	春	ドイツの法律Ⅰ	滝沢 誠	木3	2	2	法	52
11743	秋	ドイツの法律Ⅱ	滝沢 誠	木3	2	2	法	52

学則別表(2003・2004年度入学者用)

科目群	部門	科目	単位	I類			II類			III類			
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
学科基礎科目	ドイツ語	ドイツ語 I a	1	6			6			6			
		ドイツ語 I b	1	6			6			6			
		ドイツ語 II a	1	5			5			5			
		ドイツ語 II b	1	5			5			5			
		ドイツ語圏入門a	2	2			2			2			
		ドイツ語圏入門b	2	2			2			2			
		基礎演習a	2	2			2			2			
		基礎演習b	2	2			2			2			
		全学共通授業科目	英語		10		4	10		4	10		4
		学科共通科目	ドイツ語	総合ドイツ語 III a	1	2			2			2	
総合ドイツ語 III b	1			2			2			2			
ドイツ語 III (会話)	2				4		4				4		
ドイツ語 III (作文)	2											4	
上級ドイツ語 (会話)	2												
上級ドイツ語 (作文)	2												
上級ドイツ語特殊演習	2												
中世ドイツ語 I	2												
中世ドイツ語 II	2												
通訳特殊演習 I	2												
通訳特殊演習 II	2												
CAI特殊演習	2												
学科専門科目	I 言語・文学			ドイツ語学概論a	2		4						
				ドイツ語学概論b	2								
				ドイツ文学概論a	2								
		ドイツ文学概論b	2										
		ドイツ語学各論a	2		8								
		ドイツ語学各論b	2										
		ドイツ文学各論a	2										
		ドイツ文学各論b	2										
		ドイツ語学・文学特殊講義	2										
		ドイツ語講読(語学)	2		8		8**			8**			
	ドイツ語講読(文学)	2								8**			
	ドイツ語学・文学特殊講読	2											
	専門演習(言語・文学)a	2	2	2*									
	専門演習(言語・文学)b	2	2	2*									
	II 思想・芸術	ドイツ文化史概論a	2				2						
		ドイツ文化史概論b	2				2						
		ドイツの思想a	2										
		ドイツの思想b	2										
		ドイツの音楽a	2										
		ドイツの音楽b	2										
		ドイツの美術a	2										
		ドイツの美術b	2										
		ドイツの演劇a	2			24			24				
		ドイツの演劇b	2								24		
	ドイツ思想・芸術各論a	2											
ドイツ思想・芸術各論b	2												
ドイツ思想・芸術特殊講義	2												
ドイツ語講読(思想)	2		8**		8			8**					
ドイツ語講読(芸術)	2								8**				
ドイツ思想・芸術特殊講読	2												
専門演習(思想・芸術)a	2	2	2*										
専門演習(思想・芸術)b	2	2	2*										
III 歴史・社会	ドイツ史概論a	2								2			
	ドイツ史概論b	2								2			
	ドイツの歴史a	2											
	ドイツの歴史b	2											
	ドイツの社会・事情a	2											
	ドイツの社会・事情b	2											
	ドイツの地誌・民俗a	2											
	ドイツの地誌・民俗b	2											
	ドイツの政治・対外関係a	2								8			
	ドイツの政治・対外関係b	2											
	ドイツの経済a	2											
	ドイツの経済b	2											
	ドイツの法律a	2											
	ドイツの法律b	2											
	ドイツ史・社会各論a	2											
ドイツ史・社会各論b	2												
ドイツ史・社会特殊講	2												
ドイツ語講読(歴史)	2		8**		8**			8					
ドイツ語講読(社会)	2												
ドイツ史・社会特殊講読	2												
専門演習(歴史・社会)a	2	2	2*					2	2*				
専門演習(歴史・社会)b	2	2	2*					2	2*				
総合講座	2												
卒業論文	8												
外国語学部共通科目(別表 I-5)													
全学共通授業科目(別表 I)	カリコリ-I		4			4			4				
	カリコリ-II			8			8			8			
	カリコリ-III			4	4		4	4		4			
	カリコリ-IV			4	4		4	4		4			
	カリコリ-V												
英語以外の外国語科目													
古典語科目													
卒業に必要な単位数合計				52	48	28	56	44	28	56	44	28	
				128			128			128			

備考

- (1) 主として履修する1部門より、「演習」4単位必修、他に「概論」4単位(II類、III類では必修)、「各論」8単位、「講読」8単位を選択必修として履修する。各類とも他の部門よりドイツ語講読8単位(\*\*印)を選択必修として履修する。主専攻以外のドイツ語講読に換えて専門演習(\*印)を履修できる。
  - (2) 卒業に必要な選択科目のうち20単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。なお、教職課程科目の単位の代用については別に定める。
  - (3) \*\*\*全学共通授業科目の英語も含めた科目から4単位選択。
- 本表は、2003年度入学者から適用する。

# ドイツ語学科授業科目 (2003/2004年度入学生用)

## 目次

### 学科基礎科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	ドイツ語 I a(総合)	各担当教員		1	1	全	1
	秋	ドイツ語 I b(総合)	各担当教員		1	1	全	1
	春	ドイツ語 I a(基礎)	各担当教員		1	1	全	2
	秋	ドイツ語 I b(基礎)	各担当教員		1	1	全	2
	春	ドイツ語 I a(LL)	各担当教員		1	1	全	3
	秋	ドイツ語 I b(LL)	各担当教員		1	1	全	3
	春	ドイツ語 II a(総合)	各担当教員		1	2	全	4
	秋	ドイツ語 II b(総合)	各担当教員		1	2	全	4
	春	ドイツ語 II a(応用)	各担当教員		1	2	全	5
	秋	ドイツ語 II b(応用)	各担当教員		1	2	全	5
00510	春	ドイツ語圏入門a	木内 基実	水3	2	1	全	6
00511	秋	ドイツ語圏入門b	木内 基実	水3	2	1	全	6
	春	基礎演習a	各担当教員		2	2	全	7
	秋	基礎演習b	各担当教員		2	2	全	7

### 学科共通科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	総合ドイツ語 III a	各担当教員		1	3	全	8
	秋	総合ドイツ語 III b	各担当教員		1	3	全	8
10018	春	ドイツ語 III(会話)	Ch. W. シュパング	木3	2	3		9
10019	秋	ドイツ語 III(会話)	Ch. W. シュパング	木3	2	3		9
10011	春	ドイツ語 III(会話)	D. フュルンケース	月1	2	3		10
10012	秋	ドイツ語 III(会話)	D. フュルンケース	月1	2	3		10
10017	春	ドイツ語 III(会話)	H. J. トロル	金1	2	3		11
10137	秋	ドイツ語 III(会話)	H. J. トロル	金1	2	3		11
10013	春	ドイツ語 III(会話)	H. シュツテレ	月4	2	3		12
10014	秋	ドイツ語 III(会話)	H. シュツテレ	月4	2	3		12
10015	春	ドイツ語 III(会話)	T. マイヤー	金4	2	3		13
10016	秋	ドイツ語 III(会話)	T. マイヤー	金4	2	3		13
10021	春	ドイツ語 III(作文)	H. J. トロル	月1	2	3		14
10020	秋	ドイツ語 III(作文)	H. J. トロル	月1	2	3		14
10028	春	ドイツ語 III(作文)	T. マイヤー	月4	2	3		15
10027	秋	ドイツ語 III(作文)	T. マイヤー	月4	2	3		15
10026	春	上級ドイツ語(会話)	M. 鮎貝	火4	2	3		16
10025	秋	上級ドイツ語(会話)	M. 鮎貝	火4	2	3		16
10023	春	上級ドイツ語(会話)	T. カーラー	木2	2	3		17
10024	秋	上級ドイツ語(会話)	T. カーラー	木2	2	3		17
10029	春	上級ドイツ語(作文)	K. O. バイスヴェンガー	水1	2	3		18
10030	秋	上級ドイツ語(作文)	K. O. バイスヴェンガー	水1	2	3		18
12381	春	上級ドイツ語特殊演習	H. ルップ	木5	2	3		76
10031	春	中世ドイツ語 I	I. アルブレヒト	水1	2	3		19
10032	秋	中世ドイツ語 II	I. アルブレヒト	水1	2	3		19
11481	春	通訳特殊演習 I	矢羽々 崇	金2	2	3		20
11482	秋	通訳特殊演習 II	矢羽々 崇	金2	2	3		20



## 学科専門科目

### 「Ⅰ類」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
00681	春	ドイツ語学概論a	柿沼 義孝	金4	2	1		21
06751	秋	ドイツ語学概論b	柿沼 義孝	金4	2	1		21
06690	春	ドイツ文学概論a	工藤 達也	月4	2	2		22
06691	秋	ドイツ文学概論b	工藤 達也	月4	2	2		22
06604	春	ドイツ語学各論a	諏訪 功	木3	2	2		23
06605	秋	ドイツ語学各論b	諏訪 功	木3	2	2		23
08095	春	ドイツ文学各論a	小島 康男	木2	2	2		24
08096	秋	ドイツ文学各論b	小島 康男	木2	2	2		24
10033	春	ドイツ語講読(語学)	A. リプスキ	金4	2	3		25
10034	秋	ドイツ語講読(語学)	A. リプスキ	金4	2	3		25
10035	春	ドイツ語講読(語学)	永岡 敦	火3	2	3		26
10036	秋	ドイツ語講読(語学)	永岡 敦	火3	2	3		26
10037	春	ドイツ語講読(語学)	金井 満	木3	2	3		27
10038	秋	ドイツ語講読(語学)	金井 満	木3	2	3		27
10039	春	ドイツ語講読(文学)	山路 朝彦	水2	2	3		28
10040	秋	ドイツ語講読(文学)	山路 朝彦	水2	2	3		28
10041	春	ドイツ語講読(文学)	酒井 府	水1	2	3		29
10042	秋	ドイツ語講読(文学)	酒井 府	水1	2	3		29
10043	春	ドイツ語講読(文学)	洲崎 惠三	火1	2	3		30
10044	秋	ドイツ語講読(文学)	洲崎 惠三	火1	2	3		30
10045	春	ドイツ語講読(文学)	小島 康男	木3	2	3		31
10046	秋	ドイツ語講読(文学)	小島 康男	木3	2	3		31

### 「Ⅱ類」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
06740	春	ドイツ文化史概論a	渡部 重美	木4	2	1		32
06741	秋	ドイツ文化史概論b	渡部 重美	木4	2	1		32
06679	春	ドイツの思想a	船戸 満之	月2	2	2		33
06643	秋	ドイツの思想b	船戸 満之	月2	2	2		33
06544	春	ドイツの音楽a	木村 佐千子	木2	2	2		34
06545	秋	ドイツの音楽b	木村 佐千子	木2	2	2		34
06709	春	ドイツの美術a	青山 愛香	火2	2	2		35
06710	秋	ドイツの美術b	青山 愛香	火2	2	2		35
06579	春	ドイツの演劇a	越部 暹	火3	2	2		36
06580	秋	ドイツの演劇b	越部 暹	火3	2	2		36
06626	春	ドイツ思想・芸術各論a	下川 浩	火4	2	2		37
06627	秋	ドイツ思想・芸術各論b	下川 浩	火4	2	2		37
10051	春	ドイツ語講読(思想)	開内 英司	金3	2	3		38
10052	秋	ドイツ語講読(思想)	開内 英司	金3	2	3		38
10047	春	ドイツ語講読(思想)	桜井 より子	火3	2	3		39
10048	秋	ドイツ語講読(思想)	桜井 より子	火3	2	3		39
10049	春	ドイツ語講読(思想)	小島 康男	水2	2	3		40
10050	秋	ドイツ語講読(思想)	小島 康男	水2	2	3		40
10053	春	ドイツ語講読(思想)	渡部 重美	水2	2	3		41
10054	秋	ドイツ語講読(思想)	渡部 重美	水2	2	3		41
10055	春	ドイツ語講読(芸術)	K. O. バイスヴェンガー	火3	2	3		42
10056	秋	ドイツ語講読(芸術)	K. O. バイスヴェンガー	火3	2	3		42
10062	春	ドイツ語講読(芸術)	前田 智	木1	2	3		43
10063	秋	ドイツ語講読(芸術)	前田 智	木1	2	3		43
10057	春	ドイツ語講読(芸術)	辻本 勝好	金3	2	3		44
10058	秋	ドイツ語講読(芸術)	辻本 勝好	金3	2	3		44
10059	春	ドイツ語講読(芸術)	木村 佐千子	月3	2	3		45
10060	秋	ドイツ語講読(芸術)	木村 佐千子	月3	2	3		45
12380	春	ドイツ思想・芸術特殊講読	H. ルップ	水4	2	3		76

## 「Ⅲ類」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
00610	春	ドイツ史概論a	黒田 多美子	火4	2	1		46
00611	秋	ドイツ史概論b	黒田 多美子	火4	2	1		46
06676	春	ドイツの歴史a	増谷 英樹	火3	2	2		47
06677	秋	ドイツの歴史b	増谷 英樹	火3	2	2		47
06577	春	ドイツの社会・事情a	H. H. ゲートケ	木3	2	2		48
06578	秋	ドイツの社会・事情b	H. H. ゲートケ	木3	2	2		48
06522	春	ドイツの地誌・民俗a	大串 紀代子	火3	2	2		49
06523	秋	ドイツの地誌・民俗b	大串 紀代子	火3	2	2		49
06528	春	ドイツの政治・対外関係a	古田 善文	火2	2	2		50
06529	秋	ドイツの政治・対外関係b	古田 善文	火2	2	2		50
06526	春	ドイツの経済a	大重 光太郎	木2	2	2		51
06527	秋	ドイツの経済b	大重 光太郎	木2	2	2		51
09693	春	ドイツの法律a	滝沢 誠	木3	2	2	法	52
09694	秋	ドイツの法律b	滝沢 誠	木3	2	2	法	52
12378	春	ドイツ史・社会特殊講義	H. ルップ	火5	2	3		76
10068	春	ドイツ語講読(歴史)	A. ヴェルナー	金2	2	3		53
10069	秋	ドイツ語講読(歴史)	A. ヴェルナー	金2	2	3		53
10066	春	ドイツ語講読(歴史)	井村 行子	火3	2	3		54
10067	秋	ドイツ語講読(歴史)	井村 行子	火3	2	3		54
10064	春	ドイツ語講読(歴史)	増谷 英樹	水2	2	3		55
10065	秋	ドイツ語講読(歴史)	増谷 英樹	水2	2	3		55
10074	春	ドイツ語講読(社会)	I. アルブレヒト	火3	2	3		56
10075	秋	ドイツ語講読(社会)	I. アルブレヒト	火3	2	3		56
10072	春	ドイツ語講読(社会)	大串 紀代子	木3	2	3		57
10073	秋	ドイツ語講読(社会)	大串 紀代子	木3	2	3		57
10070	春	ドイツ語講読(社会)	飯沼 隆一	木1	2	3		58
10071	秋	ドイツ語講読(社会)	飯沼 隆一	木1	2	3		58
10076	春	ドイツ語講読(社会)	本橋 右京	木1	2	3		59
10077	秋	ドイツ語講読(社会)	本橋 右京	木1	2	3		59
12379	春	ドイツ史・社会特殊講読	H. ルップ	水3	2	3		76
08466	通年	卒業論文	矢羽々 崇	水3	8	4		60

学則別表(2001年度・2002年度入学者用)

科目群	部門	科目	単位	I類			II類			III類		
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	ドイツ語	ドイツ語Ⅰ	2	12			12			12		
		ドイツ語Ⅱ	2	10			10			10		
	第二外国語 英語	2	10			10			10			
	ドイツ語圏入門	4	4			4			4			
	基礎演習	4	4			4			4			
学科共通科目	ドイツ語	総合ドイツ語Ⅲ	2	4			4			4		
		ドイツ語Ⅲ(会話)	4		4		4			4		
		ドイツ語Ⅲ(作文)	4									
		上級ドイツ語(会話)	4									
		上級ドイツ語(作文)	4									
		上級ドイツ語特殊演習*	2									
		中世ドイツ語	4									
		通訳特殊演習Ⅰ*	2									
		通訳特殊演習Ⅱ*	2									
		CAI特殊演習*	2									
学科専門科目	I 言語・文学	ドイツ語学概論	4		4							
		ドイツ文学概論	4									
		ドイツ語学各論	4		8							
		ドイツ文学各論	4									
		ドイツ語学・文学特殊講義*	2									
		ドイツ語講読(語学)Ⅰ	4		4		4*			4*		
		ドイツ語講読(文学)Ⅰ	4									
		ドイツ語講読(語学)Ⅱ	4		4		4**			4**		
		ドイツ語講読(文学)Ⅱ	4									
		ドイツ語学・文学特殊講義*	2									
	専門演習(言語・文学)	4	4	4**								
	II 思想・芸術	ドイツ文化史概論	4				4					
		ドイツの思想	4									
		ドイツの音楽	4									
		ドイツの美術	4			24			8	24		24
		ドイツの演劇	4									
		ドイツ思想・芸術各論	4									
		ドイツ思想・芸術特殊講義*	2									
		ドイツ語講読(思想)Ⅰ	4		4*		4			4*		
		ドイツ語講読(芸術)Ⅰ	4									
		ドイツ語講読(思想)Ⅱ	4		4**		4			4**		
	ドイツ語講読(芸術)Ⅱ	4										
	ドイツ思想・芸術特殊講義*	2										
	専門演習(思想・芸術)	4				4	4**					
	III 歴史・社会	ドイツ史概論	4							4		
		ドイツの歴史	4									
		ドイツの社会・事情	4									
		ドイツの地誌・民俗	4									
		ドイツの政治・対外関係	4								8	
		ドイツの経済	4									
ドイツの法律		4										
ドイツ史・社会各論		4										
ドイツ史・社会特殊講義*		2										
ドイツ語講読(歴史)Ⅰ		4		4*		4*			4			
ドイツ語講読(社会)Ⅰ	4											
ドイツ語講読(歴史)Ⅱ	4		4**		4**			4				
ドイツ語講読(社会)Ⅱ	4											
ドイツ史・社会特殊講義*	2											
専門演習(歴史・社会)	4							4	4**			
卒業論文	8											
外国語学部共通科目(別表Ⅰ-5)				28			28			28		
卒業に必要な単位数合計				76	32	24	80	28	24	80	28	24
					132			132			132	

備考

- (1) \*を付した科目は半期完結とする。
  - (2) 各類とも、他の部門より「講読Ⅰ」4単位(\*印)および「講読Ⅱ」4単位(\*\*印)を選択必修として履修する。  
ただし、他の部門の「講読Ⅱ」に代えて専門演習(\*\*印)を履修できる。
  - (3) 卒業に必要な選択科目のうち20単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。  
ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。  
なお、教職課程科目の単位の代用については別に定める。
- 本表は、2001年度入学者から適用する。

# ドイツ語学科授業科目（2002年度以前入学生用）

## 目次

### 学科基礎科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	通年	ドイツ語Ⅰ〔総合〕	各担当教員		2	1	全	1
	通年	ドイツ語Ⅰ〔基礎〕	各担当教員		2	1	全	2
	通年	ドイツ語Ⅰ〔LL〕	各担当教員		2	1	全	3
	通年	ドイツ語Ⅱ〔総合〕	各担当教員		2	2	全	4
	通年	ドイツ語Ⅱ〔応用〕	各担当教員		2	2	全	5
07517	通年	ドイツ語圏入門	木内 基実	水3	4	1	全	6
	通年	基礎演習	各担当教員		4	2	全	7

### 学科共通科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	通年	総合ドイツ語Ⅲ	各担当教員		2	3	全	8
06601	通年	ドイツ語Ⅲ(会話)	Ch. W. シュパンゲ	木3	4	3		9
00357	通年	ドイツ語Ⅲ(会話)	D. フュルンケース	月1	4	3		10
00337	通年	ドイツ語Ⅲ(会話)	H. J. トロル	金1	4	3		11
00336	通年	ドイツ語Ⅲ(会話)	H. シュツテレ	月4	4	3		12
06674	通年	ドイツ語Ⅲ(会話)	T. マイヤー	金4	4	3		13
00656	通年	ドイツ語Ⅲ(作文)	H. J. トロル	月1	4	3		14
06628	通年	ドイツ語Ⅲ(作文)	T. マイヤー	月4	4	3		15
00358	通年	上級ドイツ語(会話)	M. 鮎貝	火4	4	3		16
00540	通年	上級ドイツ語(会話)	T. カーラー	木2	4	3		17
06670	通年	上級ドイツ語(作文)	K. O. バイスヴェンガー	水1	4	3		18
12381	春	上級ドイツ語特殊演習	H. ルツプ	木5	2	3		76
00478	通年	中世ドイツ語	I. アルブレヒト	水1	4	3		19
11481	春	通訳特殊演習Ⅰ	矢羽々 崇	金2	2	3		20
11482	秋	通訳特殊演習Ⅱ	矢羽々 崇	金2	2	3		20

### 学科専門科目

#### 「Ⅰ類」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
07520	通年	ドイツ語学概論	柿沼 義孝	金4	4	1		21
07527	通年	ドイツ文学概論	工藤 達也	月4	4	1		22
07518	通年	ドイツ語学各論	諏訪 功	木3	4	2		23
00643	通年	ドイツ文学各論	小島 康男	木2	4	2		24
00338	通年	ドイツ語講読(語学)Ⅰ	A. リブスキ	金4	4	3		25
06620	通年	ドイツ語講読(語学)Ⅰ	永岡 敦	火3	4	3		26
06603	通年	ドイツ語講読(語学)Ⅰ	金井 満	木3	4	3		27
00644	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅰ	山路 朝彦	水2	4	3		28
07627	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅰ	酒井 府	水1	4	3		29
07629	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅰ	洲崎 恵三	火1	4	3		30
07622	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅰ	小島 康男	木3	4	3		31
07628	通年	ドイツ語講読(語学)Ⅱ	A. リブスキ	金4	4	4		25
07637	通年	ドイツ語講読(語学)Ⅱ	永岡 敦	火3	4	4		26
07621	通年	ドイツ語講読(語学)Ⅱ	金井 満	木3	4	4		27
07623	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅱ	山路 朝彦	水2	4	4		28
06589	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅱ	酒井 府	水1	4	4		29
06602	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅱ	洲崎 恵三	火1	4	4		30
06606	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅱ	小島 康男	木3	4	4		31

## 「Ⅱ類」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
07525	通年	ドイツ文化史概論	渡部 重美	木4	4	1		32
07519	通年	ドイツの思想	船戸 満之	月2	4	2		33
07516	通年	ドイツの音楽	木村 佐千子	木2	4	2		34
00359	通年	ドイツの美術	青山 愛香	火2	4	2		35
07522	通年	ドイツの演劇	越部 暹	火3	4	2		36
07526	通年	ドイツ思想・芸術各論	下川 浩	火4	4	2		37
06756	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅰ	開内 英司	金3	4	3		38
06553	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅰ	桜井 より子	火3	4	3		39
06645	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅰ	小島 康男	水2	4	3		40
06752	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅰ	渡部 重美	水2	4	3		41
07639	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅰ	K. O. バイスヴェンガー	火3	4	3		42
07634	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅰ	前田 智	木1	4	3		43
07638	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅰ	辻本 勝好	金3	4	3		44
07620	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅰ	木村 佐千子	月3	4	3		45
07635	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅱ	開内 英司	金3	4	4		38
07636	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅱ	桜井 より子	火3	4	4		39
07625	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅱ	小島 康男	水2	4	4		40
07640	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅱ	渡部 重美	水2	4	4		41
06717	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅱ	K. O. バイスヴェンガー	火3	4	4		42
06675	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅱ	前田 智	木1	4	4		43
06608	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅱ	辻本 勝好	金3	4	4		44
06552	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅱ	木村 佐千子	月3	4	4		45
12380	春	ドイツ思想・芸術特殊講読	H. ルップ	水4	2	3		76

## 「Ⅲ類」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
07524	通年	ドイツ史概論	黒田 多美子	火4	4	1		46
07529	通年	ドイツの歴史	増谷 英樹	火3	4	2		47
07521	通年	ドイツの社会・事情	H. H. ゲートケ	木3	4	2		48
07523	通年	ドイツの地誌・民俗	大串 紀代子	火3	4	2		49
07515	通年	ドイツの政治・対外関係	古田 善文	火2	4	2		50
07514	通年	ドイツの経済	大重 光太郎	木2	4	2		51
00422	通年	ドイツの法律	滝沢 誠	木3	4	2	法	52
12378	春	ドイツ史・社会特殊講義	H. ルップ	火5	2	3		76
06638	通年	ドイツ語講読(歴史)Ⅰ	A. ヴェルナー	金2	4	3		53
00429	通年	ドイツ語講読(歴史)Ⅰ	井村 行子	火3	4	3		54
06678	通年	ドイツ語講読(歴史)Ⅰ	増谷 英樹	水2	4	3		55
07624	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅰ	I. アルブレヒト	火3	4	3		56
06607	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅰ	大串 紀代子	木3	4	3		57
07631	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅰ	飯沼 隆一	木1	4	3		58
07630	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅰ	本橋 右京	木1	4	3		59
07626	通年	ドイツ語講読(歴史)Ⅱ	A. ヴェルナー	金2	4	4		53
07633	通年	ドイツ語講読(歴史)Ⅱ	井村 行子	火3	4	4		54
07641	通年	ドイツ語講読(歴史)Ⅱ	増谷 英樹	水2	4	4		55
06633	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅱ	I. アルブレヒト	火3	4	4		56
07632	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅱ	大串 紀代子	木3	4	4		57
06521	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅱ	飯沼 隆一	木1	4	4		58
06687	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅱ	本橋 右京	木1	4	4		59
12379	春	ドイツ史・社会特殊講読	H. ルップ	水3	2	3		76
08466	通年	卒業論文	矢羽々 崇	水3	8	4		60

# 英語授業科目（2002年度以前入学生用）

## 目次

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
12273	通年	英語〔上級〕	C. カーペンター	水1	2	1	全	61
12284	通年	英語〔上級〕	D. ブラドリー	火4	2	1	全	62
12279	春	英語〔上級〕	J. スティベンソン	水2	2	1	全	63
12280	秋	英語〔上級〕	J. スティベンソン	水2	2	1	全	63
12277	通年	英語〔上級〕	J. スティベンソン	月3	2	1	全	64
12278	通年	英語〔上級〕	J. スティベンソン	水3	2	1	全	64
12271	通年	英語〔上級〕	M. ウーラートン	木3	2	1	全	65
12283	通年	英語〔上級〕	M. フッド	土1	2	1	全	66
12282	通年	英語〔上級〕	T. J. フォトス	水3	2	1	全	67
12274	通年	英語〔上級〕	笠原 誠也	土2	2	1	全	68
12275	通年	英語〔上級〕	佐々木 恵理	火2	2	1	全	69
12276	通年	英語〔上級〕	佐藤 保	水3	2	1	全	70
12286	通年	英語〔上級〕	松岡 昇	木3	2	1	全	71
12270	通年	英語〔上級〕	石月 正伸	木4	2	1	全	72
12272	通年	英語〔上級〕	大田原 眞澄	水4	2	1	全	73
12285	通年	英語〔上級〕	堀 いづみ	木2	2	1	全	74
12281	通年	英語〔上級〕	高木 亜希子	水3	2	1	全	75

05年度以降 03年度以降	総合ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅰa（総合）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung; dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch.  Durcharbeit von Band I der Stufen International		1. Band I: Lektion 1 2. Band I: Lektion 1 3. Band I: Lektion 1 4. Band I: Lektion 2 5. Band I: Lektion 2 6. Band I: Lektion 2 7. Band I: Lektion 3 8. Band I: Lektion 3 9. Band I: Lektion 3 10. Band I: Lektion 4 11. Band I: Lektion 4 12. Band I: Lektion 4	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Stufen International Band I (Klett)		Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Semesters	

05年度以降 03年度以降	総合ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅰb（総合）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung; dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch.  Durcharbeit von Band I der Stufen International.		1. Band I: Lektion 5 2. Band I: Lektion 5 3. Band I: Lektion 5 4. Band I: Lektion 5 5. Band I: Lektion 6 6. Band I: Lektion 6 7. Band I: Lektion 6 8. Band I: Lektion 6 9. Band I: Lektion 7 10. Band I: Lektion 7 11. Band I: Lektion 7 12. Band I: Lektion 7	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Stufen International Band I (Klett)		Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Semesters	

05年度以降 03年度以降	基礎ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅰa（基礎）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>主にドイツ語文法の基礎を一通り身につけ、読む・書く・話す・聞くという言語の4つの能力の土台作りを目指します。</p> <p>初めて学習する言語ですので、発音から始めて2学期で一通りドイツ語の文法事項ならびに基本的な語彙を習得します。</p> <p>授業時に学ぶだけではなく、予習・復習をしっかりとしてください。語学は積み重ねですのでちょっと気を抜いてしまうとついていくのが大変です。<u>各学期7回以上欠席した学生は期末統一試験の受験資格を失います。</u></p> <p><u>辞書については授業中に推薦できる辞書を指定します。</u></p> <p>既習クラスはネイティブ教員により別メニューの授業を行います。（統一試験は行いません。）</p>		<p>1 発音</p> <p>2 発音</p> <p>3 春学期 Lektion1～Lektion8 2課終了ごとに小テスト</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
中島・平尾・朝倉『練習中心 初級ドイツ文法』白水社		2課ごとの小テストと期末統一試験，出席から判断します。	

05年度以降 03年度以降	基礎ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅰb（基礎）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>主にドイツ語文法の基礎を一通り身につけ、読む・書く・話す・聞くという言語の4つの能力の土台作りを目指します。</p> <p>初めて学習する言語ですので、発音から始めて2学期で一通りドイツ語の文法事項ならびに基本的な語彙を習得します。</p> <p>授業時に学ぶだけではなく、予習・復習をしっかりとしてください。語学は積み重ねですのでちょっと気を抜いてしまうとついていくのが大変です。<u>各学期7回以上欠席した学生は期末統一試験の受験資格を失います。</u></p> <p><u>辞書については授業中に推薦できる辞書を指定します。</u></p> <p>既習クラスはネイティブ教員により別メニューの授業を行います。（統一試験は行いません。）</p>		<p>1 秋学期 Lektion9～Lektion16 2課終了ごとに小テスト</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
中島・平尾・朝倉『練習中心 初級ドイツ文法』白水社		2課ごとの小テストと期末統一試験，出席から判断します。	



05年度以降 03年度以降	ドイツ語LL I ドイツ語I a (LL)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>映像や音声教材を利用して、正確な発音や話す・聞く力を養います。</p> <p>ビデオ教材を中心にして、各課ごとに様々なシチュエーションでの日常会話表現のパターン練習と聞き取り練習を行います。</p> <p>練習教材はMDに録音して各自自宅で聞き取り練習を行います。</p> <p>また正確な発音のために開発された教材で日本人が特に苦手とする発音や聞き取りを練習します。</p> <p>練習が中心の授業ですので毎回の出席を重視します。</p>		1. 春学期 Lektion1～Lektion5	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを配布します。		期末統一試験と出席、平常点。	

05年度以降 03年度以降	ドイツ語LL II ドイツ語I b (LL)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>映像や音声教材を利用して、正確な発音や話す・聞く力を養います。</p> <p>ビデオ教材を中心にして、各課ごとに様々なシチュエーションでの日常会話表現のパターン練習と聞き取り練習を行います。</p> <p>練習教材はMDに録音して各自自宅で聞き取り練習を行います。</p> <p>また正確な発音のために開発された教材で日本人が特に苦手とする発音や聞き取りを練習します。</p> <p>練習が中心の授業ですので毎回の出席を重視します。</p>		1 秋学期 Lektion6～Lektion10	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布。今学期は Deutsche Phonetik für japanische Studenten という教材を用います。授業中に教材購入の指示をします。		期末統一試験と出席、平常点。	

05年度以降 03年度以降	総合ドイツ語 III ドイツ語 IIa(総合)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung; dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch.</p> <p>Durcharbeit von Band I und II der Stufen International.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Band I: Lektion 8</li> <li>2. Band I: Lektion 8</li> <li>3. Band I: Lektion 8</li> <li>4. Band I: Lektion 9</li> <li>5. Band I: Lektion 9</li> <li>6. Band I: Lektion 9</li> <li>7. Band I: Lektion 10</li> <li>8. Band I: Lektion 10</li> <li>9. Band I: Lektion 10</li> <li>10. Band II: Lektion 11</li> <li>11. Band II: Lektion 11</li> <li>12. Band II: Lektion 11</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Stufen International Band I und II (Klett)		Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Semesters	

05年度以降 03年度以降	総合ドイツ語 IV ドイツ語 II b(総合)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung; dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch.</p> <p>Durcharbeit von Band I und II der Stufen International.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Band II: Lektion 12</li> <li>2. Band II: Lektion 12</li> <li>3. Band II: Lektion 12</li> <li>4. Band II: Lektion 12</li> <li>5. Band II: Lektion 13</li> <li>6. Band II: Lektion 13</li> <li>7. Band II: Lektion 13</li> <li>8. Band II: Lektion 13</li> <li>9. Band II: Lektion 14</li> <li>10. Band II: Lektion 14</li> <li>11. Band II: Lektion 14</li> <li>12. Band II: Lektion 14</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Stufen International Band I und II (Klett)		Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Semesters	

05年度以降 03年度以降	基礎ドイツ語 III ドイツ語 II a (応用)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1年次での基礎をふまえ、2年次では残りの文法項目を最初に終え、その後に、中級ドイツ語へのステップアップを目指します。</p> <p>中心となるのは読解力と作文力の養成であり、そのためには体系的な語彙力の強化も必要です。</p> <p>授業時に学ぶだけではなく、予習・復習をしっかりとしてください。また、授業時には教科書、辞書、1年次の文法教科書を必ず持参してください。</p> <p>なお、春学期末試験の試験結果次第では、一部クラス替えを行います。</p> <p>既習クラスはネイティブ教員による作文を中心とした授業を行います。(統一試験は行いません。)</p>		<p>4月 第1週: 統一復習テスト Übung macht den Meister の 17・18 課</p> <p>5月～ 『ドイツ語読みかた教室』 Lektion 1～Lektion 6</p> <p>2課ごとに小テスト</p> <p>春学期学年末 統一試験</p> <p>夏休み 宿題!</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
大谷弘道, ウズラ・大谷『ドイツ語読みかた教室 中級表現練習読本』三修社。 1年次の文法教科書		2課ごとの小テストと期末統一試験, 出席から判断します。	

05年度以降 03年度以降	基礎ドイツ語 IV ドイツ語 II b (応用)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1年次での基礎をふまえ、2年次では残りの文法項目を最初に終え、その後に、中級ドイツ語へのステップアップを目指します。</p> <p>中心となるのは読解力と作文力の養成であり、そのためには体系的な語彙力の強化も必要です。</p> <p>授業時に学ぶだけではなく、予習・復習をしっかりとしてください。また、授業時には教科書、辞書、1年次の文法教科書を必ず持参してください。</p> <p>なお、春学期末試験の試験結果次第では、一部クラス替えを行います。</p> <p>既習クラスはネイティブ教員による作文を中心とした授業を行います。(統一試験は行いません。)</p>		<p>秋学期 『ドイツ語読みかた教室』 Lektion 7～Lektion 12</p> <p>教科書終了後に各クラスごとに練習</p> <p>9月第一週に実力テスト</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
大谷弘道, ウズラ・大谷『ドイツ語読みかた教室 中級表現練習読本』三修社。 1年次の文法教科書		2課ごとの小テストと期末統一試験, 出席から判断します。	

05年度以降 03年度以降	ドイツ語圏入門Ⅰ ドイツ語圏入門 a	担当者	木内基実
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義の目標</p> <p>ドイツ語学科に入学してきた皆さんが、これから大学で学んでいくテーマを発見し、また、それを深めるために必要な知的技術を養成することを目標とします。特に以下のことに重点をおきます。</p> <p>1) ドイツ語学科の学生として知っておくべき、ドイツ語圏に関する基礎的な知識を修得する。</p> <p>2) 同じく1学年から履修できる「ドイツ語学概論」「ドイツ文学概論」「ドイツ文化史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶことの全体像(見取り図)を把握し、将来の専攻・テーマを選ぶ手がかりをつかむ。</p> <p>3) レポートの書き方、参考文献と自分の意見の区別のしかた、参考文献の挙げ方や引用方法を学ぶ。</p> <p>講義概要</p> <p>各担当教員が言語、文化、社会、歴史、政治、芸術などのテーマについて基本的な講義をします。その他、ドイツ語をつかった将来について、先輩の体験談を聞く回なども設けます。</p>		<p>第1回の授業で、本年度の講義計画表を配布します。授業内容・担当者の紹介を行い、出席・課題図書・レポートの書き方、試験方法等、履修上の注意事項を説明しますので、必ず出席してください。</p> <p>5月中旬△切のレポートを課します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
原則として、毎回担当教員が授業レジュメ(プリント)を配布します。また第1回のガイダンス時に基本図書および参考文献一覧を配布します。		出席状況、レポート、および学期末の筆記試験の結果に基づいて評価します。詳細は第1回の授業時に説明します。	

05年度以降 03年度以降	ドイツ語圏入門Ⅱ ドイツ語圏入門 b	担当者	木内基実
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義の目標</p> <p>ドイツ語学科に入学してきた皆さんが、これから大学で学んでいくテーマを発見し、また、それを深めるために必要な知的技術を養成することを目標とします。特に以下のことに重点をおきます。</p> <p>4) ドイツ語学科の学生として知っておくべき、ドイツ語圏に関する基礎的な知識を修得する。</p> <p>5) 同じく1学年から履修できる「ドイツ語学概論」「ドイツ文学概論」「ドイツ文化史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶことの全体像(見取り図)を把握し、将来の専攻・テーマを選ぶ手がかりをつかむ。</p> <p>6) レポートの書き方、参考文献と自分の意見の区別のしかた、参考文献の挙げ方や引用方法を学ぶ。</p> <p>講義概要</p> <p>各担当教員が言語、文化、社会、歴史、政治、芸術などのテーマについて基本的な講義をします。その他、ドイツ語をつかった将来について、先輩の体験談を聞く回なども設けます。</p>		<p>10月中旬△切のレポートを提出します。</p> <p>なお秋学期のみ受講する学生には、第1回の授業で履修上の注意事項等を記したプリントを配布しますので、必ず出席してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
原則として、毎回担当教員が授業レジュメ(プリント)を配布します。また第1回のガイダンス時に基本図書および参考文献一覧を配布します。		出席状況、レポート、および学期末の筆記試験の結果に基づいて評価します。詳細は第1回の授業時に説明します。	

05年度以降 03年度以降	基礎演習 I 基礎演習 a	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1年次の「ドイツ語圏入門」では、おもにドイツ語圏に関する基礎知識の修得とレポート執筆の技術を身につけることを目標にしています。2年次の「基礎演習」では、自ら情報を収集し、それを口頭で発表したり文書（レポート）としてまとめるプレゼンテーションの技術を高めることを目的にしています。</p> <p>春学期では、おもにグループでの共同研究や全体やグループでの討論、ディベートなどを通して、情報検索、口頭発表の作法、討議のしかたなどの基礎を身につけます。</p> <p>3回のグループ研究では「ドイツの都市研究」は必修共通テーマで、残りの2回は「環境問題」、「大学をめぐる」、「グリム童話」、「第2次世界大戦」などから、教員と学生の相談のうえでテーマを決定します。</p>		<p>1. ガイダンス</p> <p>2. 自己紹介（プレゼンテーションの第1歩） ドイツの都市研究の準備</p> <p>3. グループ研究① ドイツの都市研究1</p> <p>4. グループ研究① ドイツの都市研究2</p> <p>5. グループ研究① ドイツの都市研究3</p> <p>6. グループ研究② テーマ1</p> <p>7. グループ研究②</p> <p>8. グループ研究②</p> <p>9. グループ研究③ テーマ2</p> <p>10. グループ研究③</p> <p>11. グループ研究③</p> <p>12. まとめ 秋学期個人自由研究分担最終決定</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業時に指示します。		出席（出欠・遅刻）、授業参加（討論などへの参加）、口頭発表、レポートから総合的に判断します。詳しくは第1回授業時に。	

05年度以降 03年度以降	基礎演習 II 基礎演習 b	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期のうちに決定していた分担にもとづいて、秋学期は個人による自由研究発表を行います。</p> <p>発表はおおよそ20分、質疑応答に10分を予定しています。発表者は、発表の遅くとも2週間前までに担当教員と相談しながら、発表内容を絞り込み、自分なりの問題提起→それに対する解答となるように発表をまとめ、ハンドアウトを作成してください。</p> <p>聞き手も漫然と聞くのではなく、発表者と問題意識を共有しつつ、質疑応答と議論に積極的に参加してください。</p>		<p>1. 前期レポート返却、講評、後期分担の再確認</p> <p>2. 以下、個人自由研究発表、質疑応答</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業時に指示します。		出席（出欠・遅刻）、授業参加（討論などへの参加）、口頭発表、レポートから総合的に判断します。	

03年度以降	総合ドイツ語Ⅲ a	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung; dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch.</p> <p>Durcharbeit von Band II der Stufen International.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Band II: Lektion 15</li> <li>2. Band II: Lektion 15</li> <li>3. Band II: Lektion 15</li> <li>4. Band II: Lektion 15</li> <li>5. Band II: Lektion 16</li> <li>6. Band II: Lektion 16</li> <li>7. Band II: Lektion 16</li> <li>8. Band II: Lektion 16</li> <li>9. Band II: Lektion 17</li> <li>10. Band II: Lektion 17</li> <li>11. Band II: Lektion 17</li> <li>12. Band II: Lektion 17</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Stufen International Band II (Klett)		Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Semesters	

03年度以降	総合ドイツ語Ⅲ b	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung; dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch.</p> <p>Durcharbeit von Band II der Stufen International.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Band II: Lektion 18</li> <li>2. Band II: Lektion 18</li> <li>3. Band II: Lektion 18</li> <li>4. Band II: Lektion 18</li> <li>5. Band II: Lektion 19</li> <li>6. Band II: Lektion 19</li> <li>7. Band II: Lektion 19</li> <li>8. Band II: Lektion 19</li> <li>9. Band II: Lektion 20</li> <li>10. Band II: Lektion 20</li> <li>11. Band II: Lektion 20</li> <li>12. Band II: Lektion 20</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Stufen International Band II (Klett)		Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Semesters	

03 年度以降	ドイツ語 III(会話)	担当者	C. W. Spang (シュパング)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Dieser Kurs richtet sich vor allem an Studentinnen und Studenten, die sich für deutsche Geschichte, Politik, Gesellschaft und Sport interessieren.</p> <p><b>Denjenigen, die als Fachgebiet (学科専門科目)「III 歴史・社会」 gewählt haben, wird hier ein Diskussionsforum geboten. Die Verbesserung der sprachlichen Ausdrucksmöglichkeiten ist das Ziel des Kurses.</b></p> <p>Der Unterricht wird Gelegenheit bieten über verschiedene Themen zu sprechen, die die Teilnehmer interessieren, wobei der Schwerpunkt ganz allgemein auf folgenden Bereichen liegen sollte:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• deutschen Nachkriegsgeschichte (1945/49 - 1989: zweimal „Deutschland“ = BRD &amp; DDR!)</li> <li>• jüngste Vergangenheit (1989-2005: Von der Wiedervereinigung bis zur Regierung Schröder)</li> <li>• Gegenwartsfragen</li> </ul> <p>Aber auch Themen aus dem Bereich des Sports (z.B. die Fußball-Weltmeisterschaft 2006, die Bundesliga etc.) können im Rahmen des Kurses behandelt werden.</p>		<p>Die erste Stunde dient dem gegenseitigen kennenlernen und der Besprechung des Kurses. In der zweiten Stunde werden wir ein wenig „Brainstorming“ betreiben und versuchen eine Liste von Themen zusammenzustellen, mit denen wir uns im weiteren Verlauf des Semesters beschäftigen wollen. Ab der 3. Stunde beginnt der „normale“ Unterricht.</p> <p><b>Als Hausaufgabe sollen die Teilnehmer kurze Texte lesen, die wir dann im Unterricht besprechen.</b> =&gt; Bitte beachten Sie, daß man nur über etwas sprechen kann, das man gelesen (&amp; verstanden) hat!</p> <p>Bei der Textarbeit werden wir uns auch mit Wortschatzfragen beschäftigen (müssen) und mit Fragen der Grammatik – allerdings nur in so weit wie es für das Verständnis der Texte notwendig ist.</p> <p><b>Interesse an den Themen sollten die Studentinnen und Studenten mitbringen. Die regelmäßige Teilnahme am Kurs ist Voraussetzung dafür, daß es zu einem Unterrichtsgespräch (会話!) kommen kann!</b></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Die nötigen Unterlagen werden vom Dozenten verteilt. Anregungen der Studenten sind sehr willkommen!</p> <p><b>Basistext:</b> Hellmut M. Müller, Schlaglichter der deutschen Geschichte, Bonn: BpB, 2004.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.) Kurze inhaltliche Vorstellung von Texten (宿題、発表)</li> <li>2.) Wortschatzlisten zu den Texten erstellen (宿題)</li> <li>3.) Eventuell biographische Kurzvorstellungen von Politikern, Künstlern, Sportlern etc. (発表)</li> </ol>	

03 年度以降	ドイツ語 III(会話)	担当者	C. W. Spang (シュパング)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Der Unterricht wird im Herbst/Winter weitgehend dem Muster des ersten Semesters entsprechen.</b></p> <p><b>Weiterführende Bemerkungen:</b> Verwiesen sei hier auf die Homepage der Bundeszentrale für Politische Bildung (BpB) in Bonn: <a href="http://www.bpb.de">http://www.bpb.de</a></p> <p>Sollten die Teilnehmer Interesse daran haben, könnte das oben erwähnte Buch „Schlaglichter der deutschen Geschichte“ (sowie andere Materialien) sehr preiswert als Sammelbestellung in Deutschland angefordert werden.</p>		<p>Als Alternative zu den Texten, die im ersten Semester besprochen werden, könnten unter anderem auch Filme angesehen &amp; besprochen werden.</p> <p>Hierbei kommen vor allem die politisch-historisch interessanten Filme „Goodbye Lenin!“ und „Das Wunder von Bern“ in Frage.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント、ビデオ等		前期と同じ：出席、宿題（単語リスト等）、発表	

03年度以降	ドイツ語Ⅲ(会話)	担当者	D. Fürnkäs
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>GESPRÄCHE</p> <p>Ziel der Übung ist, sich auf Deutsch über aktuelle Aspekte von Gesellschaft, Ökologie, Politik und Kultur in Deutschland, in Österreich und in der Schweiz zu unterhalten.</p> <p>Die Themen werden im Laufe der Semesterwochen von den Teilnehmern ausgewählt und dann gemeinsam besprochen.</p>		<p>初回の授業で説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Fotokopien werden verteilt.		Mündliche und schriftliche Aufgaben.	

03年度以降	ドイツ語Ⅲ(会話)	担当者	D. Fürnkäs
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上		同上	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上		同上	



03年度以降	ドイツ語 III (会話)	担当者	H.J. トロル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Nach anfänglicher Wiederholung und fundamentalen Sprechübungen wollen wir verschiedene aktuelle Themen besprechen, in nicht zu schwierigem Deutsch.</p> <p>Die Themenauswahl richtet sich nach dem Niveau und Interesse der Teilnehmer, ein Lehrbuch werden wir aber dennoch benutzen.</p> <p>Wir beginnen einfach... Regelmäßige Teilnahme ist aber nötig.</p> <p>現代的なテーマをドイツ語で学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Einführung</li> <li>2. Wiederhlg. verschiedener Art</li> <li>3. Tagesablauf, Termine</li> <li>4. Familie</li> <li>5. Einladung</li> <li>6. Freundschaft/Geschenke</li> <li>7. Wohnung</li> <li>8. Wegbeschreibung</li> <li>9. Studium</li> <li>10. Berufsausbildung</li> <li>11. Schulsystem</li> <li>12. Sommertest</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Lernziel Deutsch (W. Hieber) Sanshusha-Verlag		Mitarbeit, Test	

03年度以降	ドイツ語 III (会話)	担当者	H.J. トロル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Fortsetzung des ersten Semesters in gleicher Form im Herbstsemester...</p> <p>Hörübungen vermehrt Hören und Sprechen freie Referate</p>		<p>Das zweite Semester orientiert sich mehr nach dem Buch. Dazu kommt mehr Video-Arbeit.</p> <p>Zusätzliches Material in Form von Kopien.</p> <p>Referate, freie Gespräche</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Lernziel Deutsch (W. Hieber) Sanshusha-Verlag		Mitarbeit, Test	

03年度以降	ドイツ語 III (会話)	担当者	H. シュッテレ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahres. Ziel ist, Sprechen und Hören zu fördern sowie in allgemeinen Kommunikationssituationen angemessen und ohne Angst reagieren zu können.</p> <p>Als Kommunikationsanlässe dienen dabei Hör- und Lesetexte, Sprachspiele und -rätsel, Lieder, kurze Filmszenen und Bilder zu verschiedenen Themen.</p> <p>Die Studenten sind außerdem dazu aufgefordert, eigene Themenwünsche einzubringen!!!</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Kennenlernen, Vorstellung bzw. Festlegung der Themen</li> <li>2. Thema 1</li> <li>3. Thema 2</li> <li>4. ...</li> <li>5. ...</li> <li>6. ...</li> <li>7. ...</li> <li>8. ...</li> <li>9. ...</li> <li>10. ...</li> <li>11. ...</li> <li>12. Auswertung des Kurses</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Kopien		Regelmäßige und aktive Teilnahme, Mindestens eine Präsentation mit Partner vor der Klasse	

03年度以降	ドイツ語 III (会話)	担当者	H. シュッテレ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
Fortsetzung der Themen des Sommersemesters		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Vorstellung bzw. Festlegung der Themen</li> <li>2. ...</li> <li>3. ...</li> <li>4. ...</li> <li>5. ...</li> <li>6. ...</li> <li>7. ...</li> <li>8. ...</li> <li>9. ...</li> <li>10. ...</li> <li>11. ...</li> <li>12. Auswertung</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Kopien		Regelmäßige und aktive Teilnahme, Mindestens eine Präsentation mit Partner vor der Klasse	

03 年度以降	ドイツ語 III (会話)	担当者	T. マイヤー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahrs. Anhand verschiedener Gespraechssituationen (Interview, Diskussion, Rollenspiel etc.) solen diverse Redemittel eingeuebt werden. Dabei sind Themenvorschlaege von Seiten der Studenten jederzeit willkommen und werden nach Moeglichkeiten beruecksichtigt. Ausserdem sind Uebungen vorgesehen, die den muendlichen Aufgaben der ZD-Pruefung dienen koennen.</p>		<p>初回の授業で説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Wenn erforderlich, werden Kopien ausgeteilt.</p>		<p>Die Notengebung wird von der Groesse des Kurses abhaengen und zu Beginn des Semesters mit den Teilnehmern besprochen.</p>	

03 年度以降	ドイツ語 III (会話)	担当者	T. マイヤー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahrs. Anhand verschiedener Gespraechssituationen (Interview, Diskussion, Rollenspiel etc.) solen diverse Redemittel eingeuebt werden. Dabei sind Themenvorschlaege von Seiten der Studenten jederzeit willkommen und werden nach Moeglichkeiten beruecksichtigt. Ausserdem sind Uebungen vorgesehen, die den muendlichen Aufgaben der ZD-Pruefung dienen koennen.</p>		<p>初回の授業で説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Wenn erforderlich, werden Kopien ausgeteilt.</p>		<p>Die Notengebung wird von der Groesse des Kurses abhaengen und zu Beginn des Semesters mit den Teilnehmern besprochen.</p>	

03年度以降	ドイツ語 III (作文)	担当者	H.J. トロル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Wir werden uns verschiedenen Arten von Schreibübungen widmen, von einfachen persönlichen Mitteilung bis hin zu offiziellen Briefen, vor allem aber werden wir dabei auch den grammatischen Gebrauch der Sprache vertiefen.</p> <p>Regelmäßige Hausaufgaben sind zu machen, um den Fortschritt zu sichern.</p> <p>Wir orientieren uns an einem Lehrbuch, aber auch auf Wünsche und Fragen der Studenten kann ich eingehen.</p> <p>Schreiben soll Spaß machen...</p>		<p>Der Ablauf des Jahresplanes wird zu Semesterbeginn besprochen, dabei orientiere ich mich auch am Gesamtlevel der Teilnehmer.</p> <p>Freude und Interesse am Schreiben müssen die Teilnehmer mitbringen, regelmäßige Teilnahme ist erforderlich.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Y. Fukuda/H. Troll 『表現と作文』 (Verlag 白水社)		Hausaufgaben und End-Semestertests	

03年度以降	ドイツ語 III (作文)	担当者	H.J. トロル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
Fortsetzung des Sommersemesters ab September (Herbstsemester)		Fortsetzungen aus dem ersten Semester	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Y. Fukuda/H. Troll 『表現と作文』 (Verlag 白水社)		Hausaufgaben und End-Semestertests	

03年度以降	ドイツ語Ⅲ（作文）	担当者	T. マイヤー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahrs. Vorgesehen ist das Erarbeiten und Einueben von strukturellen und stilistischen Merkmalen verschiedener Textsorten. Falls Interesse von Seiten der Teilnehmer besteht, kann auch Zeit fuer kreatives Schreiben eingeraeumt werden. Ausserdem sind Uebungen zum Aufgabenteil „Schriftlicher Ausdruck“ der ZD-Pruefung geplant.</p>		<p>初回の授業で説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Wenn erforderlich, werden Kopien ausgeteilt.</p>		<p>Zur Benotung werden gelegentlich Hausaufgaben zur Korrektur eingesammelt.</p>	

03年度以降	ドイツ語Ⅲ（作文）	担当者	T. マイヤー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahrs. Vorgesehen ist das Erarbeiten und Einueben von strukturellen und stilistischen Merkmalen verschiedener Textsorten. Falls Interesse von Seiten der Teilnehmer besteht, kann auch Zeit fuer kreatives Schreiben eingeraeumt werden. Ausserdem sind Uebungen zum Aufgabenteil „Schriftlicher Ausdruck“ der ZD-Pruefung geplant.</p>		<p>初回の授業で説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Wenn erforderlich, werden Kopien ausgeteilt.</p>		<p>Zur Benotung werden gelegentlich Hausaufgaben zur Korrektur eingesammelt.</p>	

03年度以降	上級ドイツ語（会話）	担当者	M.鮎貝
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
Dieser Kurs soll Gelegenheit geben, Hörverstehen zu schulen und die vielfältigen Möglichkeiten des mündlichen Ausdrucks zu erproben. Je größer das Vokabular, desto besser die Kommunikationsmöglichkeit. Es sind daher auch Übungen zur Wortschatzerweiterung geplant. Das Thema der Woche soll jeweils durch ein Kurzreferat eines Teilnehmers oder einer Teilnehmerin eingeführt werden.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Einführung, Vorstellung</li> <li>2. Neuigkeiten aus Deutschland</li> <li>3. Referat. Aktuelles Thema</li> <li>4. Referat. Reisepläne, Reiseroute</li> <li>5. Neuigkeiten aus Deutschland</li> <li>6. Haustiere. Nehmen Sie Haustiere mit auf die Reise?</li> <li>7. Referat. Tagesnachrichten</li> <li>8. Referat. Märchenfiguren</li> <li>9. Neuigkeiten aus Deutschland</li> <li>10. Referat. Aktuelles Thema</li> <li>11. Referat. Wochennachrichten</li> <li>12. Hörtest und Zusammenfassung</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
JUMA, Kopien und "Neuigkeiten aus Deutschland '05", Asahi Verlag		Regelmäßige Teilnahme, Referate, Hörtest am Ende des Semesters	

03年度以降	上級ドイツ語（会話）	担当者	M.鮎貝
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
(= Fortsetzung des Sommersemesters) Nach dem Kurzreferat wird in Gruppen= oder Partnerarbeit zu dem jeweiligen Thema Stellung genommen. Die Themenauswahl (zur Orientierung s. nebenstehende Kursplanung) kann je nach Interesse der Teilnehmer erweitert werden. Zur Verfügung stehen Kassetten, CD, Videos und ein Film.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Ereignisse in den Sommerferien</li> <li>2. Ausgewählte Fabeln</li> <li>3. Referat. Verhalten sich die Tiere in den Fabeln wie Menschen?</li> <li>4. Vorstellung eines Lieblingsbuches</li> <li>5. Referat. Mögen Sie Poppmusik? Texte der Popsongs</li> <li>6. Referat. Neuigkeiten aus Deutschland</li> <li>7. Referat. Neuigkeiten aus Deutschland</li> <li>8. u. 9. Film und Diskussion</li> <li>10. Referat. Neuigkeiten aus Deutschland</li> <li>11. Referat. Wer war Bertolt Brecht?</li> <li>12. Hörtest und Zusammenfassung</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
JUMA, Kopien und "Neuigkeiten aus Deutschland '05", Asahi Verlag		Regelmäßige Teilnahme, Referate, Hörtest am Ende des Semesters	

03年度以降	上級ドイツ語（会話）	担当者	T. カーラー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
In dieser Klasse werden wir in Gruppen (4-5 Personen pro Gruppe) Texte erstellen, und diese Schritt für Schritt lernen und alle 3 Wochen vor der Klasse vortragen.		Zu Beginn des Semesters werden wir diskutieren, in welcher Form (d. h. in welchem Rahmen) die Texte geschrieben werden sollen, es stehen Möglichkeiten wie Theaterstück, Alltagsgespräch etc. offen. Danach werden die Texte in den Gruppen geschrieben, korrigiert und eingeübt. In einem Rhythmus von ca. 3 Wochen gibt es Aufführungen vor der Klasse.	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Die Texte im Sommersemester werden in der Klasse erstellt.		Test Ende Semester	

03年度以降	上級ドイツ語（会話）	担当者	T. カーラー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
Aufbauend auf das Sommersemester werden wir Grammatikprobleme beim Satzbau analysieren, um genauere Sätze schreiben zu können.		Anhand der Analyse der im Sommersemester geschriebenen Texte werden spezifische Probleme angesprochen, das können Adjektivendungen, Wortstellung, etc. sein. Zu den jeweiligen Problemen werden Übungen verteilt, um besser mit der Fragestellung und den Lösungen vertraut zu werden.	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Texte werden kopiert und verteilt.		Test Ende Semester	

03年度以降	上級ドイツ語 (作文)	担当者	K. O. バイスヴェンガー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In diesem Kurs für fortgeschrittene Studenten des 3. und 4. Studienjahres steht das Erarbeiten von Schreibtechniken für verschiedene Textsorten im Mittelpunkt. Dafür sollen strukturelle und stilistische Merkmale erarbeitet und eingeübt werden. Bei Bedarf dienen konkrete Übungen zum Erlernen von Schreibtechniken als Vorbereitung.</p> <p>In einigen Stunden sind auch Übungen aus dem Aufgabenbereich „Schriftlicher Ausdruck“ der ZD-Prüfung (oder anderen Prüfungen für fortgeschrittene Sprachkenntnisse) geplant. Ziel ist es, Musterprüfungen zu bearbeiten.</p>		<p>Die Themen richten sich nach den Interessen der Teilnehmer. Falls gewünscht, kann auch Zeit für das kreative Schreiben eingeräumt werden.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Kopien		Grundlage für die Benotung sind regelmäßige Teilnahme und regelmäßige Ausführung der Hausarbeiten, von denen zwei benotet werden.	

03年度以降	上級ドイツ語 (作文)	担当者	K. O. バイスヴェンガー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In diesem Kurs für fortgeschrittene Studenten des 3. und 4. Studienjahres steht das Erarbeiten von Schreibtechniken für verschiedene Textsorten im Mittelpunkt. Dafür sollen strukturelle und stilistische Merkmale erarbeitet und eingeübt werden. Bei Bedarf dienen konkrete Übungen zum Erlernen von Schreibtechniken als Vorbereitung.</p> <p>In einigen Stunden sind auch Übungen aus dem Aufgabenbereich „Schriftlicher Ausdruck“ der ZD-Prüfung (oder anderen Prüfungen für fortgeschrittene Sprachkenntnisse) mit dem Ziel geplant, Musterprüfungen zu bearbeiten.</p>		<p>Die Themen richten sich nach den Interessen der Teilnehmer. Falls gewünscht, kann auch Zeit für das kreative Schreiben eingeräumt werden.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Kopien		Grundlage für die Benotung sind regelmäßige Teilnahme und regelmäßige Ausführung der Hausarbeiten, von denen zwei benotet werden.	



03年度以降	中世ドイツ語 I	担当者	I. アルブレヒト
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Ziel dieses Unterrichts ist es, an Textbeispielen vom 12. Jahrhundert bis zum Frühneuhochdeutschen einen Überblick über die Entwicklung der deutschen Sprache und Literatur zu vermitteln.</p> <p>Alte Texte im Original zu lesen ist reizvoll und durchaus nicht so schwierig. Wir werden auch historische und kulturgeschichtliche Hintergrundinformationen zu den Texten suchen und gegebenenfalls Ausschnitte aus Verfilmungen der Texte ansehen.</p> <p>Diese Lehrveranstaltung wird gemeinsam mit den Studenten des Magisterkurses durchgeführt. Das bedeutet NICHT, dass der Unterricht schwierig ist. Erfahrungsgemäss haben Studenten mit guten Deutschkenntnissen keine Probleme zu folgen!</p>		<p>Die Festlegung der Texte und die Schwerpunktsetzung bei den Themen erfolgt nach Rücksprache mit den Teilnehmern unter Berücksichtigung individueller Interessen und Bedürfnisse. Zur Auswahl stehen unter vielen anderen Möglichkeiten das Nibelungenlied, Tristan und Isolde, Parzival, Meier Helmbrecht, Gedichte von Walther von der Vogelweide, Tischzuchten, Tierbeschreibungen, Reiseberichte.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Kopien		Regelmaessige aktive Teilnahme, Abschlusstest	

03年度以降	中世ドイツ語 II	担当者	I.アルブレヒト
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
Siehe oben		Siehe oben	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Kopien		Regelmaessige aktive Teilnahme, Abschlusstest	

03年度以降	通訳特殊演習 I	担当者	矢羽々崇
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>★第1回授業でレベル確認試験を行い、場合によっては試験にもとづいて選抜を行います。希望者はかならず参加してください。参加人数はおおよそ20名を上限とします。</p> <p>★Zertifikat Deutsch もしくは独検2級「程度」のドイツ語力を持っていることを前提にします。それ以上に、「やる気」を持っている学生を歓迎します。</p> <p>通訳という実践的な場面を想定しながら、基礎トレーニングの方法を学び、実際の場面を練習しながら、ドイツ語能力の全体的な向上を目指します。</p>		<p>第1回授業で指示します。</p> <p>基本的な練習として：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シャドウイング（「影」のようになぞる練習）</li> <li>・エコー・トレーニング（「こだま」のように反復）</li> <li>・クイック・レスポンス（短文の日独、独日翻訳）</li> <li>・早口言葉</li> </ul> <p>などを取り入れて、基礎能力向上を目指します。</p> <p>さらに、皆さんの先輩が学生として実際に体験した「日独スポーツ少年団同時交流」などでのアテンド通訳の基本的なシーンやテキストをもとに実践的な練習します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
コピーを配布します。		授業への参加度をもとに判断します。	

03年度以降	通訳特殊演習 II	担当者	矢羽々崇
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>★第1回授業でレベル確認試験を行い、場合によっては試験にもとづいて選抜を行います。希望者はかならず参加してください。参加人数はおおよそ20名を上限とします。</p> <p>★Zertifikat Deutsch もしくは独検2級「程度」のドイツ語力を持っていることを前提にします。</p> <p>通訳という実践的な場面を想定しながら、基礎トレーニングの方法を学び、実際の場面を練習しながら、ドイツ語能力の全体的な向上を目指します。</p>		<p>第1回授業で指示します。</p> <p>春学期同様に、基本的な練習として：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シャドウイング</li> <li>・エコー・トレーニング</li> <li>・クイック・レスポンス</li> <li>・早口言葉</li> </ul> <p>などを取り入れて、基礎能力向上を目指します。</p> <p>さらに、獨協でのドイツ大使などのあいさつ（入学式、記念式典など）、地方自治体レベルでの交流でのあいさつなどのテキストをもとに、実践的な練習をします。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
コピーを配布します。		授業への参加度をもとに判断します。	

05年度以降 03年度以降	ドイツ語学概論 I ドイツ語学概論 a	担当者	柿沼 義孝
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目標： ドイツ語は世界でおよそ 1 億の人々によって話されている。諸君がドイツ語を勉強するにあたって、英語のほかに、さらに第二の外国語を習得し、新しい言語文化圏への冒険を試みようとする事は、この世界に対してあたらしい視点を開くことでもある。この講義では、ドイツ語の世界と歴史を通して眺めることで、これからの言語、思想、文化の専門研究のための知的ベースを築き上げてほしい。</p> <p>講義概要： 春学期では、これから新しくドイツ語を学びつつある諸君とともに、そして他方、今までドイツ語を学んできた諸君と、ドイツ語のいろいろな姿を観察し、そのおおよその全体像を把握していこうと思う。名づけて、「ドイツ語の森——散策コース」。和気あいあいと、楽しみながら散歩をして、ドイツ語がどのようなものなのか見てみよう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本ではどのようにドイツ語が学ばれてきたか。いま、なぜドイツ語か。</li> <li>2. ドイツ語の文字とその歴史</li> <li>3. ドイツ語って格変化と人称変化ばかりで...</li> <li>4. ドイツ語の疑問に答える</li> <li>5. 昔のドイツ語はどんなだった？</li> <li>6. 英語や他の言語との結びつきは？</li> <li>7. 南の人のドイツ語は北の人にはわかりにくいのです</li> <li>8. 書き言葉はいつごろつくられたのか</li> <li>9. ドイツにはどんな地名や人の名があるか</li> <li>10. 現代ドイツ語ってどういう特徴があるの？</li> <li>11. ドイツ語の森の散歩を振り返って</li> <li>12. 予備日</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：特に指定しない。 参考文献：入門のために：カール＝ディーター・ビュンディング 千石喬川島敦夫訳：『言語学入門』（白水社） 黒田龍之介：『はじめての言語学』（講談社現代新書） その他第 1 回目の講義で指示</p>		<p>春学期の筆記試験と 2000 字程度のレポートによる 受講者に対する要望：講義を「聴く」のではなく、学生諸君も一緒に講義に参加してもらい、ドイツ語に関する事柄を考えていきましょう。</p>	

05年度以降 03年度以降	ドイツ語学概論 II ドイツ語学概論 b	担当者	柿沼 義孝
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目標： ドイツ語は世界でおよそ 1 億の人々によって話されている。諸君がドイツ語を勉強するにあたって、英語のほかに、さらに第二の外国語を習得し、新しい言語文化圏への冒険を試みようとする事は、この世界に対してあたらしい視点を開くことでもある。この講義では、ドイツ語の世界と歴史を通して眺めることで、これからの言語、思想、文化の専門研究のための知的ベースを築き上げてほしい。</p> <p>講義概要： 秋学期は、いささかしんどいかもしいかもしれないが、春学期のドイツ語の森の散歩で観察した、さまざまな言語現象をさらに深く掘り下げるための、いわば、研究、調査用のアイテムを探し求めてドイツ語の森を探検する。名づけて、「ドイツ語の森——探検・征服コース」。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語はどうやって研究するの（言語研究の方法 1）</li> <li>2. 言語における点と線（言語研究の方法 2）</li> <li>3. グリムってあのグリム童話の？（言語研究の歴史 1）</li> <li>4. ドイツの文法学者たち（言語研究の歴史 2）</li> <li>5. ドイツ語研究 1. 語彙と形態</li> <li>6. " 2. 文の構造</li> <li>7. " 3. ことばの意味（1）</li> <li>8. " 4. ことばの意味（2）</li> <li>9. " 5. 道具としての言語（語用論）</li> <li>10. " 6. 音声と音韻（音声学と音韻論）</li> <li>11. 日本語とドイツ語を参照する（対照言語学的研究）</li> <li>12. ことばと文化（まとめ）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：特に指定しない。 参考文献：入門のために：カール＝ディーター・ビュンディング 千石喬川島敦夫訳：『言語学入門』（白水社） 黒田龍之介：『はじめての言語学』（講談社現代新書） その他授業中に紹介する。</p>		<p>秋学期の筆記試験と 2000 字程度のレポートによる 受講者に対する要望：講義を「聴く」のではなく、学生諸君も一緒に参加してもらい、ドイツ語に関する事柄を考えていきましょう。</p>	

05年度以降 03年度以降	ドイツ文学概論Ⅰ ドイツ文学概論 a	担当者	工藤達也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>1)ドイツ語で書かれた文学で代表的なものを取り上げ読んでみる。翻訳のあるものを紹介するので、できるだけ多くの文学テクストを読んでほしい。</p> <p>2)文学を通してその背景にあるドイツ語圏の歴史的社会的背景も探る。文学を、専門領域に限定せずに様々な学問領域を横断して論じる。</p> <p>3)ドイツ語圏というヨーロッパの一地域にある文学を学ぶことを通して、文学に代表される「書く」という行為の普遍性を考えてみる。書き手として作家とはどんな存在なのかを理解する。</p> <p>講義概要</p> <p>春学期はドイツ語圏文学の通史として中世から19世紀までの文学の概略を紹介する。その際ゲーテを中心に据える。その際、必ずゲーテの『若きウェルテルの悩み』は読むことになる。堅苦しい話だけでは学生の関心が続かないので、視聴覚教材を用いる。文学を音楽にしたもの、映像化したものを原作との関係から論じていく。</p>		<p>1. 導入 「作家」とはなにか？</p> <p>2. 中世からルネッサンス・宗教改革まで(1)</p> <p>3. 中世からルネッサンス・宗教改革まで(2)</p> <p>4. バロックから啓蒙主義(1)</p> <p>5. バロックと啓蒙主義(2)</p> <p>6. シュトルム・ウント・ドランクとゲーテ</p> <p>7. 『ウェルテル』について</p> <p>8. 古典主義</p> <p>9. 初期ロマン主義</p> <p>10. 後期ゲーテについて</p> <p>11. ナショナリズムと文学</p> <p>12. 反動と抵抗(リアリズム)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。</p> <p>参考文献：必要に応じその都度指示する。</p>		<p>講義で扱ったテーマに関するレポート、または試験により評価。詳細は授業中に指示する。</p>	

05年度以降 03年度以降	ドイツ文学概論Ⅱ ドイツ文学概論 b	担当者	工藤達也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>1)ドイツ語で書かれた文学で代表的なものを取り上げ読んでみる。翻訳のあるものを紹介するので、できるだけ多くの文学テクストを読んでほしい。</p> <p>2)文学を通してその背景にあるドイツ語圏の歴史的社会的背景も探る。文学を、専門領域に限定せずに様々な学問領域を横断して論じる。</p> <p>3)ドイツ語圏というヨーロッパの一地域にある文学を学ぶことを通して、文学に代表される「書く」という行為の普遍性を考えてみる。書き手として作家とはどんな存在なのかを理解する。</p> <p>講義概要</p> <p>秋学期はドイツ語圏文学の通史として19世紀から現代までの文学の概略を紹介する。その際ゲーテが、ある時代の終わりとして、この講義の始まりに置かれる。秋学期の講義は「文学」および「作家」の終焉をテーマにする。その際、必ずカフカの短編(『変身』など)は読むことになる。「文学の終焉」という堅苦しいテーマだけでは学生の関心が続かないので、視聴覚教材を用いる。文学を音楽にしたもの、映像化したものを原作との関係、および現代社会における原作および作家性の消失から論じる。</p>		<p>1. 導入 「文学の終焉」について</p> <p>2. 世紀末</p> <p>3. ユーゲンツェンシュティール／表現主義</p> <p>4. 第一次大戦／ダダイズム</p> <p>5. ヴァイマル共和国時代(1)</p> <p>6. ヴァイマル共和国時代(2)</p> <p>7. 新即物主義など</p> <p>8. ナチスの台頭と亡命文学(1)</p> <p>9. ナチスの台頭と亡命文学(2)</p> <p>10. 第二次大戦後の文学／冷戦下の文学(1)</p> <p>11. 第二次大戦後の文学／冷戦下の文学(2)</p> <p>12. 現在の文学の諸相</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。</p> <p>参考文献：必要に応じその都度指示する。</p>		<p>講義で扱ったテーマに関するレポート、または試験により評価。詳細は授業中に指示する。</p>	

05年度以降 03年度以降	ドイツ語学各論Ⅰ ドイツ語学各論 a	担当者	諏訪 功
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
ドイツ語中級文法を概観するとともに、基本的な文法用語を学ぶ。		テキストをもとに第一課から順に第二十六課まで進む。各課に20問前後の練習問題がついているが、これは4年生、3年生、2年生の順に、受講者名簿にしたがって当てて行く。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
「中級ドイツ文法 ー内容から表現へー」エンゲル・早川・幸田共著 第三書房 1997年4版		出席、試験による	

05年度以降 03年度以降	ドイツ語学各論Ⅱ ドイツ語学各論 b	担当者	諏訪 功
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
ドイツ語中級文法を概観するとともに、基本的な文法用語を学ぶ。		テキストをもとに第一課から順に第二十六課まで進む。各課に20問前後の練習問題がついているが、これは4年生、3年生、2年生の順に、受講者名簿にしたがって当てて行く。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
「中級ドイツ文法 ー内容から表現へー」エンゲル・早川・幸田共著 第三書房 1997年4版		出席、試験による	

05年度以降 03年度以降	ドイツ文学各論Ⅰ ドイツ文学各論 a	担当者	小島康男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>どちらかといえば平均的日本人には苦手な概念とも思われる「ブラック・ユーモア」になぜドイツ語圏の人々がこだわるのかを考える時間。</p> <p>日本にもブラックユーモアに関心を抱き、それは「人間が、人間であることによって否応なしにもたされた醜さをすべて暴き立てられ、鏡のごとく自分の醜さに対面させられ、叫ぼうがわめこうがどうしようが、それを自らの笑いによって証明させられて認識せざるを得ないという、いわば厳しい自己認識手段」(筒井康隆)であるという発想のもとに創作活動をする作家もいる。</p> <p>その意味でもこの概念が持つ意味を考え直してみるのには興味あるテーマではあるまいか。受講者の問題意識を高める講義をめざしたい。</p>		<p>一応講義形式で授業を進める予定ではあるが、各授業時間の終わりに、その内容について意見・質問・感想などを受講者を書いてもらい、場合によっては次の時間の討議内容にしたい。</p> <p>ヴィルヘルム・ブッシュ(風刺漫画)をはじめ、ヴェーデキント、ヤードル、アルトマン、モルゲンシュテルン、カール・ファレンティン、ペーター・ビクセル、カフカらの文芸作品などを資料にする予定。</p> <p>(折にふれてビデオ機器も使用する予定)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>教材は&gt;Schwarzer Humor&lt;(Reclam 1987)などからコピーして配布する。</p> <p>参考文献は授業中に指示する。</p>		<p>普段の小レポートと期末に提出予定のレポートなどにより総合的に評価をする。</p>	

05年度以降 03年度以降	ドイツ文学各論Ⅱ ドイツ文学各論 b	担当者	小島康男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に準じる。</p>		<p>春学期に準じる。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>春学期に準じる。</p>		<p>春学期に準じる。</p>	

03 年度以降	ドイツ語講読(語学)	担当者	A. リプスキ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In diesem Kurs wollen wir kurze Texte lesen, die sich mit dem Thema Sprache beschäftigen und zu verschiedenen Textsorten gehören (wissenschaftliche Texte, Zeitungsartikel, Artikel aus Wörterbüchern, humoristische Texte....).</p> <p>Zu den Texten werden verschiedene Aufgaben gestellt:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Analyse der Textstruktur</li> <li>- Fragen zum Inhalt</li> <li>- Zusammenfassung</li> <li>- Wortschatzaufgaben usw.</li> </ul> <p>Ziel des Unterrichts ist es, Strategien zu entwickeln, um deutsche Texte schneller verstehen zu können. Dabei wollen wir auch immer überlegen, welcher Lesestil (globales Lesen, selektives Lesen oder detailliertes Lesen) für welche Aufgabe und für welches Leseziel geeignet ist.</p>		<p>In der ersten Stunde sprechen wir darüber, an welchen Themen die Kursteilnehmer besonders interessiert sind. Zur Auswahl stehen Texte zu Themen wie: aktuelle Tendenzen der deutschen Sprache, Fremdwörter, Dialekte und regionale Varianten, Werbesprache, Sprachvergleich oder Sprachgeschichte.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
コピーを配布する。		Mitarbeit im Unterricht, Hausaufgaben, 1 Test.	

03 年度以降	ドイツ語講読(語学)	担当者	A. リプスキ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In diesem Kurs wollen wir kurze Texte lesen, die sich mit dem Thema Sprache beschäftigen und zu verschiedenen Textsorten gehören (wissenschaftliche Texte, Zeitungsartikel, Artikel aus Wörterbüchern, humoristische Texte....).</p> <p>Zu den Texten werden verschiedene Aufgaben gestellt:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Analyse der Textstruktur</li> <li>- Fragen zum Inhalt</li> <li>- Zusammenfassung</li> <li>- Wortschatzaufgaben usw.</li> </ul> <p>Ziel des Unterrichts ist es, Strategien zu entwickeln, um deutsche Texte schneller verstehen zu können. Dabei wollen wir auch immer überlegen, welcher Lesestil (globales Lesen, selektives Lesen oder detailliertes Lesen) für welche Aufgabe und für welches Leseziel geeignet ist.</p>		<p>Die Themen werden in Absprache mit den Kursteilnehmern ausgewählt.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
コピーを配布する。		Mitarbeit im Unterricht, Hausaufgaben, 1 Test.	

03年度以降	ドイツ語講読（語学）	担当者	永岡 敦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義は比較的平易なテキストを媒介にして、1. 文法知識の徹底と強化、2. 将来に通じる読解力、訳出力の養成を図ります。併せてドイツ語検定2級合格を視野に入れて、種々の注意を喚起します（従って、すでに2級を取得している人は初回の講義の様子を見て履修するかどうか決めて下さい）。</p> <p>春semesterにおいては上述の1. に重きを置きます。すなわち典型的と目される文例を選択し、これを対象に冠飾句の付け替え、語順の入れ替え、そして時制、態の変換等を反復的に徹底演習します。これらは、たいてい直接の指名によって口頭（ないしは板書）での解答を求めることとなりますから、受講者の皆さんは突然の指名にも応えられるよう常に緊張感をもって出席して下さい。</p>		<p>受講者の人数と、前年度までの文法知識の集積度に左右されるため、シラバスの執筆段階でペースを定めることはできません。</p> <p>数回、経験則に基づく標準的な進捗で講義を行い、受講者の「レベル」を把握した上で改めて講義時に告知します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはプリントにて配布。          独和辞典及び文法の資料（手持ちの参考書等）必携。</p>		<p>出席重視。最終講義時にペーパーテスト実施。正当な理由無く、連続して3回以上欠席した場合は名簿から削除することがあるので注意。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（語学）	担当者	永岡 敦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋semesterでは引き続き文法上の演習を繰り返しつつも、重点は上述の2. に移行させます。というのも、テキストの概要を把握すること自体は可能でも、これを「もともと日本語で書かれていた」かのように他人に理解してもらうのは、なかなか容易なことではありません。個々の文と文との論理関係を的確に訳文に反映させることが必要です。授業ではこの点を重視して、単なる「逐語訳の堆積」からの脱却を図ります。</p>		<p>春semester中の受講者の有りよう（＝ 受講態度や、私の発した設問に対する正答率）、また春semester終了時に実施したペーパーテストの結果を踏まえ、適切に対処します。</p> <p>配布するテキストの難度を上げる場合もあり。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>前期に同じ。</p>		<p>前期に同じ。</p>	



03年度以降	ドイツ語講読(語学)	担当者	金井 満
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義の目的は、ドイツ語基礎科目で身につけた文法と読解力を、あまりふれる機会がなかった専門的な分野においてさらに磨きをかけ、文献を読むということの本来の目的である内容理解、解釈ができるようにすることにある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Menschliche Sprache</li> <li>2. Gramatik – Wozu?</li> <li>3. Satz und Abweichung を精読する。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Heringer, Hans Jürgen: Wort für Wort. Ernst Klett, Stuttgart 1978(プリント配布)</p>		<p>学期末の筆記試験、平常点および授業への出席状況・参加度を総合的に評価する。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読(語学)	担当者	金井 満
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義の目的は、ドイツ語基礎科目で身につけた文法と読解力を、あまりふれる機会がなかった専門的な分野においてさらに磨きをかけ、文献を読むということの本来の目的である内容理解、解釈ができるようにすることにある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Syntaktische Operationen und Beziehungen</li> <li>2. Satzglieder</li> <li>3. Semantische Operatoren を精読する。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Heringer, Hans Jürgen: Wort für Wort. Ernst Klett, Stuttgart 1978(プリント配布)</p>		<p>学期末の筆記試験、平常点および授業への出席状況・参加度を総合的に評価する。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読(文学)	担当者	山路 朝彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「新約聖書を読む」</p> <p>(講義目的)          欧米の文学を読む際に、ギリシャ神話(悲劇)とともにキリスト教についての知識は必須である。したがって、<u>春学期</u>は「新約聖書」の中から有名なエピソードを読み、キリスト教に関する最低限の知識を得ることを講義目的とする。</p> <p>(講義概要)          1)聖書物語講読:内容への導入として下記の「子供のための聖書(Kinder-Bibel)」を読み、内容を把握する。</p> <p>2)聖書講読:導入で用いた個所に該当する「福音書」の節を読む。聖書には独特の簡潔な文体があり、講読は容易ではないが、それらに慣れると共に、さらには、有名なフレーズ(多くの文学作品・講演・日常会話でも引用される)に親しむ。</p> <p>3)その他、新約聖書のエピソードが描かれた宗教画を見て、各主題(例:受胎告知、磔刑など)の描かれ方も見てみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 受胎告知</li> <li>2 生誕</li> <li>3 洗礼者ヨハネ</li> <li>4 福音・山上の垂訓</li> <li>5 たとえ話</li> <li>6 奇跡</li> <li>7 最後の晩餐</li> <li>8 審問</li> <li>9 磔刑</li> <li>10 復活</li> <li>11 昇天</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Irmgard Weth: <i>Neukirchener Kinder-Bibel</i> . Kalenderverlag des Eryiehungsvereins, 2004		選択して受講する科目であるので、評価は厳正に行う。評価を受けるには、出席・授業中の分担・定期試験の成績において一定以上の基準を満たさなければならない。	

03年度以降	ドイツ語講読(文学)	担当者	山路 朝彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「旧約聖書を読む」</p> <p>(講義目的)          欧米の文学を読む際に、ギリシャ神話(悲劇)とともにキリスト教についての知識は必須である。したがって、<u>秋学期</u>は「旧約聖書」の中から有名なエピソードを読み、キリスト教に関する最低限の知識を得ることを講義目的とする。</p> <p>(講義概要)          1)聖書物語講読:内容への導入として下記の「子供のための聖書(Kinder-Bibel)」を読み、内容を把握する。</p> <p>2)聖書講読:導入で用いた個所に該当する「旧約聖書」の節を読む。聖書には独特の簡潔な文体があり、講読は容易ではないが、それらに慣れると共に、さらには、有名なフレーズ(多くの文学作品・講演・日常会話でも引用される)に親しむ。</p> <p>3)その他、旧約聖書のエピソードが描かれた宗教画を見て、各主題(例:アダムとイブ、ノアの箱舟など)の描かれ方も見てみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 天地創造</li> <li>2 失樂園</li> <li>3 カインとアベル</li> <li>4 ノアの箱舟</li> <li>5 バベルの塔</li> <li>6 アブラハムの試練</li> <li>7 出エジプトと十戒</li> <li>8 イスラエルの王たち(ダビデ王)</li> <li>9 イスラエルの王たち(ソロモン王)</li> <li>10 バビロン捕囚</li> <li>11 預言者たち</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Irmgard Weth: <i>Neukirchener Kinder-Bibel</i> . Kalenderverlag des Eryiehungsvereins, 2004		選択して受講する科目であるので、評価は厳正に行う。評価を受けるには、出席・授業中の分担・定期試験の成績において一定以上の基準を満たさなければならない。	

03年度以降	ドイツ語講読（文学）	担当者	酒井 府
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>第二次世界大戦後のドイツの作家たちがドイツの様々な地方、都市について触れている長くても4、5頁の作品集を読みます。その目的は、多くの現代作家についての知識を育てて欲しいことと、様々な文章・文体に触れて欲しいこと、更にドイツの地域について知って欲しいことです。</p>		<p>一度の授業で一頁40行の独文を一頁半程度読み進めたい。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>“Deutsche Orte” Herausgegeben von Klaus Wagenbach: Verlag Klaus Wagenbach Berlin 1991</p>		<p>授業中にせめて二度は担当部分を正確に訳すことと期末試験と出席による。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（文学）	担当者	酒井 府
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に引き続き先を読みます。</p>		<p>一度の授業で一頁40行の独文を一頁半程度読み進めたい。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>“Deutsche Orte” Herausgegeben von Klaus Wagenbach: Verlag Klaus Wagenbach Berlin 1991</p>		<p>授業中にせめて二度は担当部分を正確に訳すことと期末試験と出席による。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読 (文学)	担当者	洲崎 惠三
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>I ドイツ語読解力をつけること。 文意を把握する練習。</p> <p>II トーマス・マン文学入門—— その生涯と作品研究。</p> <p>III ワシントンポスト紙社長夫人アグニス・マイアーの援助なくして、トーマス・マンのアメリカ亡命生活は成り立たなかった。1937年から1955年までの膨大な往復書簡の意義を、編者H.R.Vagetの解題で学び、書簡の一部を読む。</p>		<p>1) ドイツ語テキストを読み、かつ訳す。 文法事項を質問し、説明する。 文意を把握することが肝要。 購読力をつけるため、なるべく毎回少しでもみずから試行錯誤でトライすること、すなわち練習が肝要。 その努力向上を評価する。</p> <p>2) トーマス・マンの生涯と作品について： インターネットによる紹介、 ビデオ映像による紹介、 テキスト読解による理解をめざす。</p> <p>3) 手紙の書き方。 学術論文の読み方書き方——卒論準備の参考。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Thomas Mann / Agnes E. Mayer Briefwecksel. S.Fischer Hans Rudolf Vaget : Einführung テキストはプリント配布。参考文献： 洲崎 惠三『神話とイロニー』溪水社、2002年 トーマス・マン『日記四六一—四八』森川・洲崎訳、紀伊國屋書店</p>		<p>1) 筆記試験：辞書持ちこみで、どれだけ正確に、どれだけ多く文を読めるか、のテスト。 2) テキストの邦訳（全訳でなくても可）提出。 3) 授業にて発表、発音、文法力、読解力をみる。 4) 試行錯誤訳の努力の跡を評価したい。</p>	

03年度以降	ドイツ文学講読 (文学)	担当者	洲崎 惠三
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>I ドイツ語読解力をつけること。 文意を把握する練習。</p> <p>II トーマス・マン文学と、テオドール・W・アドルノ批判哲学入門——その生涯と著作とキーワード（イロニーと非同一性）。</p> <p>III 1943年亡命先のロサンゼルスでトーマス・マンとテオドール・W・アドルノは近所の住人となる。トーマス・マンは『ファウストゥス博士』創作にあたり、現代音楽理論初めアドルノの深い助言を得た。精神の光と影を宿す、現代のファウストとメフィストフェレスの往復書簡の一部を読む。</p>		<p>1) ドイツ語テキストを読み、かつ訳す。 文法事項を質問し、説明する。 文意を把握することが肝要。 購読力をつけるため、なるべく毎回少しでもみずから試行錯誤でトライすること、すなわち練習が肝要。 その努力向上を評価する。</p> <p>2) トーマス・マンとテオドール・W・アドルノの生涯と作品について： インターネットによる紹介、 ビデオ映像による紹介、 テキスト読解による理解をめざす。</p> <p>3) 手紙の書き方。 学術論文の読み方書き方——卒論準備の参考。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Thomas Mann/Theodor W. Adorno : Briefwechsel 1943—1955. S.Fischer Verlag, 2003 テキストはプリントする。参考文献： 洲崎 惠三『神話とイロニー』溪水社、2002年 トーマス・マン『日記四六一—四八』邦訳、紀伊國屋書店 細見和之『アドルノ——非同一性の哲学』講談社 アドルノ『啓蒙の弁証法』徳永恂訳、岩波書店、 『否定弁証法』徳永恂ほか訳、作品社</p>		<p>1) 筆記試験：辞書持ちこみで、どれだけ多く、文を読めるか、のテスト。 2) テキストの邦訳（全訳でなくても可）提出。 3) 授業にて発表、発音、文法力、読解力をみる。 4) 試行錯誤の努力の跡を評価したい。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（文学）	担当者	小島康男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>いわゆる高尚な(と言われる)文学作品ではなく、大衆から喝采を浴びた通俗的な笑劇のテキストを読み、サブカルチャー的観点からその作品の持つ社会的意味を考える。この授業では、19世紀末に大ヒットした笑劇『ペンション・シェラーPension Schöller』を読みつつ、それを百年後の20世紀末に、ヒトラー現象を織り交ぜたハイナー・ミュラーのテキストなどを挿入して新たな風刺的劇作品に改作し、またもや演劇界に衝撃を与えたベルリンの演出家カストルフの『ペンション・シェラー/戦い』と対比してみる。</p>		<p>できるだけテキストの視覚的理解を心がけ、その背後にひそむ諸問題について、受講者全員で考えていく。むろんドイツ語で書かれたテキストを扱うため、ドイツ語を読む訓練を兼ねるが、なによりもそのドイツ語に含まれる問題の源泉を理解してもらいたい。必要に応じて、ビデオ機器も使用しながら、多面的な授業にしたい。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>&gt;Schmiedt, Helmut (Hrsg.) : Bühnenschwänke &lt;(2000)からコピーして配布。 参考文献は講義中に指示する。</p>		<p>普段の授業中の発表と期末のテストまたはレポート提出などにより総合的に評価をする。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（文学）	担当者	小島康男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に準じる予定であるが、テキストを読み終えた時点で別なテーマに転換する可能性もある。</p>		<p>春学期に準じる。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>春学期とテキストが異なる場合には事前に指示する。</p>		<p>春学期に準じる。</p>	

05年度以降 03年度以降	ドイツ文化史概論 I ドイツ文化史概論 a	担当者	渡部重美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： これからドイツ語圏の文化について学んでいこうと思っている学生諸君のために、文化史上の基本概念について説明したり、あるいは、顕著な歴史的・文化史的事象について概観して行く。 この講義が、学生諸君が自分のテーマを見つけ、あるいはすでに持っているテーマを深めるための一助となれば幸いである。</p> <p>講義概要： ドイツ語圏の文化について、一般的な通史の区分に沿って説明・概観して行くが、場合によっては同一テーマのもとに異なる時代を関連付けて論じるなどの寄り道もしたいと思っているので、春学期・秋学期通しての履修が望ましい。 また、できる限り音声、映像資料なども使用したいと思っている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション（講義内容についてのより詳しい説明、評価方法等についての確認など）</li> <li>2 中世の文化 I</li> <li>3 中世の文化 II</li> <li>4 宗教改革の時代 I</li> <li>5 宗教改革の時代 II</li> <li>6 三十年戦争とバロック文化 I</li> <li>7 三十年戦争とバロック文化 II</li> <li>8 啓蒙の時代 I</li> <li>9 啓蒙の時代 II</li> <li>10 啓蒙の時代 III</li> <li>11 啓蒙の時代 IV</li> <li>12 （予備日）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
その都度プリントを配布する。		学期末の筆記試験と授業への参加度（授業中に作業をしてもらったり、あるいは授業の最後に質問・意見などを書いてもらう）による。	

05年度以降 03年度以降	ドイツ文化史概論 II ドイツ文化史概論 b	担当者	渡部重美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 春学期に引き続き、これからドイツ語圏の文化について学んでいこうと思っている学生諸君のために、文化史上の基本概念について説明したり、あるいは、顕著な歴史的・文化史的事象について概観して行く。</p> <p>講義概要： 春学期と同じで、ドイツ語圏の文化について、一般的な通史の区分にそって説明・概観して行くが、場合によっては同一テーマのもとに異なる時代を関連付けて論じるなどの寄り道もしたいと思っているので、春学期・秋学期通しての履修が望ましい。 また、できる限り音声、映像資料なども使用したいと思っている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション（講義内容についてのより詳しい説明、評価方法等についての確認など）</li> <li>2 フランス革命とドイツ、ドイツ・ロマン派 I</li> <li>3 フランス革命とドイツ、ドイツ・ロマン派 II</li> <li>4 フランス革命とドイツ、ドイツ・ロマン派 III</li> <li>5 ブルジョアの時代と反時代的考察 I</li> <li>6 ブルジョアの時代と反時代的考察 II</li> <li>7 世紀末の文化</li> <li>8 ワイマール文化 I</li> <li>9 ワイマール文化 II</li> <li>10 ナチズムの時代と文化 I</li> <li>11 ナチズムの時代と文化 II</li> <li>12 （予備日）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
その都度プリントを配布する。		学期末の筆記試験と授業への参加度（授業中に作業をしてもらったり、あるいは授業の最後に質問・意見などを書いてもらう）による。	

05年度以降 03年度以降	ドイツの思想 I ドイツの思想 a	担当者	船戸 満之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>20世紀のドイツを振り返ると、民衆に大きな影響を及ぼした思想運動は社会主義とナチズムである。この二つの思想の意味を考える手がかりとして、①第一次大戦前後の表現主義文学、②その表現主義の評価をめぐる 30年代に亡命者間で行われた表現主義論争、③論争の主要な論客、思想家ルカーチとブロッホ、④第二次大戦後 1960年代のフランクフルト学派をとりあげる。</p>		<p>テキストに沿って、コメントを加える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表現主義文学</li> <li>2. クラウス・マンとゴットフリートベン</li> <li>3. 同上</li> <li>4. 表現主義論争</li> <li>5. 同上</li> <li>6. エルンスト・ブロッホとゲオルク・ルカーチ</li> <li>7. 同上</li> <li>8. ブロッホ著「エピクロスとカール・マルクス」</li> <li>9. 同上</li> <li>10. ブロッホ著「マルクスにおけるオンムと公民」</li> <li>11. 同上</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
船戸満之著『表現主義論争とユートピア』情況社 2002年		主として学期末試験(テキスト持参)による。そのほか授業後、随時提出を求める簡単なメモを参考にする。	

05年度以降 03年度以降	ドイツの思想 II ドイツの思想 b	担当者	船戸 満之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期に準ずる。		春学期に引き続いて、テキストに沿って、コメントを加える。くわしいプログラムは、第1回の授業で提示する。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
船戸満之著『表現主義論争とユートピア』情況社 2002年		主として学期末試験(テキスト持参)による。そのほか授業後、随時提出を求める簡単なメモを参考にする。	

05年度以降 03年度以降	ドイツの音楽Ⅰ ドイツの音楽a	担当者	木村佐千子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語圏の国々の音楽（いわゆるクラシック音楽）に親しんでいただく授業です。春学期には、中世から18世紀までに書かれた多様な音楽作品を、たくさんの録音資料（主にCD）で聴いていただきます。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴等について概観し、理解を深めていただきたいと思います。</p> <p>注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。</p> <p>個別の作品を何度もじっくり聴く時間も設けたいと思います。楽譜を用いて解説することもありますので、予め了解しておいてください。</p>		<p>毎回ごとにトピックを定めてお話しします。2006年はW. A. モーツァルトの生誕250周年ですので、モーツァルトの音楽を聴く回を複数回もうけたいと思います。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		学期末試験の結果をもとに評価します。また、授業中に感想などを書いてもらいます。	

05年度以降 03年度以降	ドイツの音楽Ⅱ ドイツの音楽b	担当者	木村佐千子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語圏の国々の音楽に親しんでいただく授業です。秋学期には、18世紀終わり頃から現代に書かれた多様な音楽を、たくさんの録音資料（主にCD）で聴いていただきます。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴、作曲の背景等について概観し、理解を深めていただきたいと思います。秋学期の終わりには、ドイツ語圏の国歌や民謡も扱う予定です。</p> <p>秋学期は、春学期の授業内容（18世紀までのドイツ音楽史および音楽用語等）を知っていることを前提に講義を行いますので、なるべく通年で履修してください。</p> <p>注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。</p> <p>個別の作品を何度もじっくり聴く時間も設けたいと思います。楽譜を用いて解説することもありますので、予め了解しておいてください。</p>		<p>毎回ごとにトピックを定めてお話しします。2006年はR. シューマン没後150周年ですので、シューマンの音楽をじっくり聴く回をもうけたいと思います。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		学期末試験の結果をもとに評価します。また、授業中に感想などを書いてもらいます。	



05年度以降 03年度以降	ドイツの美術 I ドイツの美術 a	担当者	青山愛香
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期は、ドイツ・ルネサンスの藝術をアルブレヒト・デューラー、マティアス・グリュネヴァルト、ルーカス・クラナハ、そしてアルブレヒト・アルトドルファーの作品を中心に概観します。</p> <p>中でもドイツ最大の画家/版画家であるアルブレヒト・デューラーを中心に据えてその藝術の造形的特質を考察し、彼の藝術と比較しながら、その他の芸術家たちの特徴も浮き彫りにしてゆきます。</p> <p>講義の中では、毎回主要な作品を自分の目で見、自分の言葉で記述する「ディスクリプション」を行います。学期末には、授業中に書いたディスクリプションを全て提出していただきます。</p>		<p>12回の講義を通じて、アルブレヒト・デューラーの代表作を初期から晩年まで辿り、同時にマティアス・グリュネヴァルト、ルーカス・クラナハ、そしてアルブレヒト・アルトドルファーの代表作を概観します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業の中で、その都度指示します。		試験と提出物	

05年度以降 03年度以降	ドイツの美術 II ドイツの美術 b	担当者	青山愛香
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期は、一西洋美術史における「風景画」という大きなテーマを設定し、この大きな枠組みの中で、ドイツ美術における風景表現について、深く追求します。</p> <p>春学期に引き続き、講義中にディスクリプションを行い、学期末に提出していただきます。</p>		<p>12回の講義を通じて、ドイツ美術における「風景表現」の特質を浮き彫りにします。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業の中でその都度指示します。		試験と提出物	

05年度以降 03年度以降	ドイツの演劇Ⅰ ドイツの演劇 a	担当者	越部 暹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>主としてドイツ現代劇を扱うが、主眼はそれらを文学史・演劇史のように〈通事的〉に語るのではなく、今日の視点から〈共時的〉に、つまり今日の哲学・社会思想史・心理学等の関心事からドイツ（や日本）の演劇の今日における存在意義を問うことにある。</p> <p>講義はビデオ等を多用し、演劇の視聴覚面を重視する。</p> <p>前期は B.ブレヒト劇と H.ミュラー劇を中心に講じるが、1. 彼らが登場する前提事項、2. 彼らの劇作の〈両面価値〉的性格、つまり時・所が替われば別の視点が見えてくる性格——を強調して論じたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：成績評価方法、授業の進め方・受け方など。</li> <li>2 参考文献の指示。ドラマとは何か。ドラマトゥルギーの変遷。</li> <li>3～7 ブレヒトの『三文オペラ』や4大作品の紹介。（ビデオ併用）</li> <li>8 ブレヒトの〈教育劇〉の今日性</li> <li>9 ミュラーの〈教育劇〉の今日性</li> <li>10～11 ミュラー劇の紹介。（ビデオ併用）</li> <li>12 （教場で）レポートの正書・提出を求める。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適時、コピー・プリントを配布する。参考文献については教場で述べる。		最終授業時に、教場で（所定の用紙に）レポートを正書してもらい、提出を求める。また、積極的な授業参加度を評価する。	

05年度以降 03年度以降	ドイツの演劇Ⅱ ドイツの演劇 b	担当者	越部 暹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>主としてドイツ現代劇を扱うが、主眼はそれらを文学史・演劇史のように〈通事的〉に語るのではなく、今日の視点から〈共時的〉に、つまり今日の哲学・社会思想史・心理学等の関心事からドイツ（や日本）の演劇の今日における存在意義を問うことにある。</p> <p>講義はビデオ等を多用し、演劇の視聴覚面を重視する。</p> <p>後期は P. ハントケ劇、B. シュトラウス劇、E. イェリネク劇を中心に講じるが、彼らの劇作の〈展示場〉的性格や〈作者の不在性〉について、詳しく論じたいと思う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：成績評価方法、授業の進め方・受け方など。</li> <li>2 参考文献の指示。ドラマとは何か。ドラマトゥルギーの現在。〈意識の演劇〉など。</li> <li>3～4 初期の P. ハントケ劇の紹介。（数点の映画ビデオ併用）</li> <li>5～8 シュトラウス劇とベルリン〈シャウビューネ〉劇団の紹介。（数点の映画ビデオ併用）</li> <li>9～11 イェリネク劇と彼女の〈コラージュ〉劇の紹介。（ビデオ併用）</li> <li>12 （教場で）レポートの正書・提出を求める。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適時、コピー・プリントを配布する。参考文献については教場で述べる。		最終授業時に、教場で（所定の用紙に）レポートを正書してもらい、提出をもとめる。また、積極的な授業参加度を評価する。	

05年度以降 03年度以降	ドイツ思想・芸術各論Ⅰ ドイツ思想・芸術各論a	担当者	下川 浩
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>今年H・ハイネ没後150周年にあたります。ハイネは日本では「ローライ」の作詞者・抒情詩人として知られています。歌曲の好きな人なら、シューマンやシューベルトがハイネの詩に曲をつけた歌曲集を知っているでしょう。けれどもハイネは、ボンやゲッティンゲンで法律を学び、ベルリンでヘーゲルの哲学講義を聞き、少年時代をフランス革命軍の駐留していたデュッセルドルフで過ごし、その影響を受けた革新的思想家でもあったのです。</p> <p>ハイネ自身の思想は詩の形でも散文作品の形でも著されていますが、この講義では『ドイツ宗教・哲学史考』を採り上げ、ハイネがドイツ人の宗教観・世界観をどのようにとらえていたかを説明します。</p> <p>ゲルマン神話を背景に、ルターがどのようにカトリック教会を批判し、宗教改革を成し遂げ、かつドイツ語の統一に貢献したか、スピノザとレッシングがどのような形でドイツ古典哲学の先駆けとなったか、そしてカント、フィヒテ、シェリング、ヘーゲルらによる「哲学革命」がどのようにして起こったかを、ハイネが哲学的でも宗教的でもない、ハイネ独特のイロニーニッシュなスタイルで論じていることを紹介します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序文</li> <li>2. 第1巻 宗教改革とマルチン・ルター 人民の哲学</li> <li>3. 同 キリスト教と民間信仰</li> <li>4. 同 マルチン・ルターと民間信仰</li> <li>5. 同 唯心論と感覚主義</li> <li>6. 同 宗教改革と思想の自由</li> <li>7. 同 ルターによるドイツ文語の確立</li> <li>8. 同 ルターとドイツ文学</li> <li>9. 第2巻 ドイツ哲学革命の先駆者スピノザとレッシング 現代哲学の父デカルト</li> <li>10. 同 唯物論と観念論</li> <li>11. 同 スピノザ</li> <li>12. 同 レッシング</li> </ol> <p>以上はおおまかな計画であり、若干順序と範囲が狂うことがあることをあらかじめ承知してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Zur Geschite der Religion und Philosophie in Deutschland 『ドイツ宗教・哲学史考』 (少人数であれば、全文のコピーを配布します。)</p>		<p>レポートを書いて、これを自己評価してもらい、それをもとに評価を決めます。</p>	

05年度以降 03年度以降	ドイツ思想・芸術各論Ⅱ ドイツ思想・芸術各論b	担当者	下川 浩
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>今年H・ハイネ没後150周年にあたります。ハイネは日本では「ローライ」の作詞者・抒情詩人として知られています。歌曲の好きな人なら、シューマンやシューベルトがハイネの詩に曲をつけた歌曲集を知っているでしょう。けれどもハイネは、ボンやゲッティンゲンで法律を学び、ベルリンでヘーゲルの哲学講義を聞き、少年時代をフランス革命軍の駐留していたデュッセルドルフで過ごし、その影響を受けた革新的思想家でもあったのです。</p> <p>ハイネ自身の思想は詩の形でも散文作品の形でも著されていますが、この講義では『ドイツ宗教・哲学史考』を採り上げ、ハイネがドイツ人の宗教観・世界観をどのようにとらえていたかを説明します。</p> <p>ゲルマン神話を背景に、ルターがどのようにカトリック教会を批判し、宗教改革を成し遂げ、かつドイツ語の統一に貢献したか、スピノザとレッシングがどのような形でドイツ古典哲学の先駆けとなったか、そしてカント、フィヒテ、シェリング、ヘーゲルらによる「哲学革命」がどのようにして起こったかを、ハイネが哲学的でも宗教的でもない、ハイネ独特のイロニーニッシュなスタイルで論じていることを紹介します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『ドイツ宗教・哲学史考』第3巻 哲学革命 序</li> <li>2. カントとロベスピエール</li> <li>3. カントの『純粹理性批判』</li> <li>4. いわゆるコペルニクスの転回</li> <li>5. ドイツの哲学革命</li> <li>6. フィヒテ哲学の主観的形式</li> <li>7. 無神論論争</li> <li>8. ゲーテとフィヒテ</li> <li>9. シェリングの自然哲学</li> <li>10. 自然哲学と汎神論</li> <li>11. ヘーゲルによる自然哲学の大成</li> <li>12. ドイツの政治革命への見通し</li> </ol> <p>以上はおおまかな計画であり、若干順序と範囲が狂うことがあることをあらかじめ承知してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Zur Geschite der Religion und Philosophie in Deutschland 『ドイツ宗教・哲学史考』 (少人数であれば、全文のコピーを配布します。)</p>		<p>レポートを書いて、これを自己評価してもらい、それをもとに評価を決めます。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読(思想)	担当者	開内 英司
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>教科書版ではない下記の原書の Kant の部分を、学力レベルを絞る目的で選んでみました。</p> <p>原書コピーのため註はなく、内容的、語学的にかなり本格になりますから、基礎学力がかなりしっかりしていないと難しくなります。少し歯が立ちにくいかもしれないものを、じっくり大学院風に楽しんでみようか、という実力派の人向きになります。数人程度の少人数が適当でしょう。</p> <p>いつもでもそうであるように、そしてこれからは特に幾何級数的、累乗的に急速に、世界が変化していつているので、過去を材料としながら、未だ知られざる最新の領域を、内面的にも常に開拓していく必要があります。</p> <p>無限宇宙の未来の壮大に目を向け、崇高な大乘世界で精神、意識の高次元を目指し、歴史永劫の聖なる壮麗な高所に輝かしく展開する、不朽の Wonne の桃源郷、宇宙の最高域、密度の高い最高段階の精神性、内面靈光の超絶の世界に触れてみようという基礎学力のある人、やってみるといいでしょう。</p> <p>内容上、宗教信仰に関わりのある人には不向きになります。</p> <p>進行状況により、随時、補足テキスト利用の可能性あり。</p>		進行状況により、随時、補足テキスト利用の可能性あり。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Kleine Geschichte der abendlandischen Metaphysik.  希望者には自著『フィリップ王子とシンデレラ』(従来すべての宗教と哲学を無用にする目的で書いてみた戯曲作品)を有料配布。</p>		試験と、出席ではない平生の業績。ただし、全体のレベルが十分によければ、テキストの反復暗記試験はしない。	

03年度以降	ドイツ語講読(思想)	担当者	開内 英司
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上		同上	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上		同上	

03年度以降	ドイツ語講読（思想）	担当者	桜井より子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語のテキストを読み、読解力と思考力を養い、レポートを書いて、発表出来るようにする。</p> <p>今年度は環境問題をテーマにします。前期は比較的易しいドイツ語で書かれた教科書版のテキストを使用します。気候、大気、水、土、森林破壊、熱帯雨林、食糧、医療、車社会などの個別のテーマごとに短くまとめられた文章を読みながら、環境問題全般について知り、その視点から物事を考える試みをします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義内容及びテキストの紹介</li> <li>2 Welt und Umwelt</li> <li>3 Klima und Luft</li> <li>4 Wasser und Boden</li> <li>5 Das Oekosystem “Wald”</li> <li>6 Das Waldsterben</li> <li>7 Der Regenwald</li> <li>8 Moeglichkeiten und Grenzen</li> <li>9 Nahrungsmittel</li> <li>10 Medizin</li> <li>11 Der Zwang zur Bewegung</li> <li>12 Der Autoinfarkt</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
R.Jessel/石井寿子著『科学を読もう』朝日出版社 参考文献は授業中に紹介します。		授業に出席して発言し、レポートを提出すること。	

03年度以降	ドイツ語講読（思想）	担当者	桜井より子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語のテキストを読み、読解力と思考力を養い、レポートを書いて、発表出来るようにする。</p> <p>前期に引き続き環境問題をテーマにしますが、後期のみの受講も可能です。</p> <p>後期に使用するドイツ語テキストは、Jost Hermand: Die Graswurzelrevolution – Utopie und Wirklichkeit Gruener Politik です。</p> <p>ドイツは環境問題への取り組みが進んでいて環境先進国といわれていますが、それには何といても緑の党の存在とその影響が大きいといえるでしょう。上記のテキストは1970～80年代のドイツの社会状況を詳細に伝え、緑の党が誕生し、政界に進出したいきさつ、その特長、既存の政党との違い、存在意義、課題や期待などをわかりやすく書いています。日本の事情とも比較しながら読んでいきたいと思います。</p> <p>テキストはコピーを配布します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 前期レポートの返却、発表及び後期の講義内容とテキストの紹介</li> <li>2 テキスト 1～2 ページ</li> <li>3 3～4 ページ</li> <li>4 4～5 ページ</li> <li>5 5～6 ページ</li> <li>6 7～8 ページ</li> <li>7 9～10 ページ</li> <li>8 11～12 ページ</li> <li>9 13～14 ページ</li> <li>10 15～16 ページ</li> <li>11 ビデオ鑑賞</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
J. Hermand: Graswurzelrevolution 日本語の参考文献は授業中に紹介する。		授業に出席して発言し、レポートを提出すること。	

03年度以降	ドイツ語講読（思想）	担当者	小島康男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語圏にはドイツやオーストリアのほかにスイスという国があることを忘れてはならない。この時間には、スイスをキーワードにして、ドイツ・オーストリアと異なるスイス文化の特徴を論じた評論を読んでみよう。</p> <p>ドイツではロマン派時代に幾人かの先駆的女性の活躍が見られたが、その後も社会全体の後進性は否定しがたく、リカルダ・フーフがスイスのチューリヒに行ったのも、ドイツの大学が当時まだ女性に対して門戸を閉ざしていたからに他ならない。その意味で大学に関してはスイスのほうが先進国だったとも言えよう。そういった問題を含み、女性解放の歴史資料の一つとしても読めるフーフの文をみんなで味わってみよう。</p>		<p>単にドイツ語の訳読におおらず、中身をじっくり味わいながら、進んでいく。また、出席者全員で極力コミュニケーションができるような授業にしたい。</p> <p>精一杯の予習をしてから授業に出席してほしい。間違えても一向にかまわないので、とにかく自分なりに納得のいく発表をしてほしい。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>&gt;Ricarda Huch: Frühling in der Schweiz&lt; 『スイスの春』（コピーを配布）</p>		<p>普段の授業中の発表と期末のテストまたはレポート提出などにより総合的に評価をする。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（思想）	担当者	小島康男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>喜劇作家フリードリヒ・デュレンマツ対談集などを手がかりに、スイス人自身が描き出すスイス像を探りたい。</p>		<p>春学期に準じる。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>&gt;F.Dürrenmatt:Dramaturgie des Denkens&lt;などからコピーして配布。 参考文献は授業中に折にふれて指示する。</p>		<p>春学期に準じる。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（思想）	担当者	渡部重美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>大学院「文献研究Ⅰ」との合併科目である。</p> <p>講義目的：将来大学院進学を希望する者、あるいは、すでに大学院博士前期課程レベルのドイツ語読解力を持つ者を対象に、ドイツ語で書かれた文献を読む力をつけることを主目的とする。</p> <p>履修希望者には、第一回目の授業で簡単なドイツ語読解力テストを行い、その結果によって履修を許可する。</p> <p>講義概要：下記文献の訳読を中心にしながら、その内容について意見交換して行く。また、テーマ的に関連する他の文献について、担当者を決めて内容報告をしてもらうこともある。</p>		<p>第1回～第12回：</p> <p>左記テキストの訳読と、その内容についての意見交換。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Weigl, Engelhard: Schauplätze der deutschen Aufklärung – Ein Städterundgang. Hamburg(Rowohlt Taschenbuch Verlag) 1997. の中の、„5. Berlin: Die geteilte Hauptstadt“。コピーでお渡しします。</p>		<p>毎回の授業への参加度（担当回にきちんと発表・報告ができてきているかどうか、議論に積極的に参加したかどうか、など）によって評価する。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（思想）	担当者	渡部重美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>大学院「文献研究Ⅰ」との合併科目である。</p> <p>講義目的：将来大学院進学を希望する者、あるいは、すでに大学院博士前期課程レベルのドイツ語読解力を持つ者を対象に、ドイツ語で書かれた文献を読む力をつけることを主目的とする。</p> <p>履修希望者には、第一回目の授業で簡単なドイツ語読解力テストを行い、その結果によって履修を許可する。</p> <p>講義概要：下記文献の訳読を中心にしながら、その内容について意見交換して行く。また、テーマ的に関連する他の文献について、担当者を決めて内容報告をしてもらうこともある。</p>		<p>第1回～第12回：</p> <p>左記テキストの訳読と、その内容についての意見交換。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Weigl, Engelhard: Schauplätze der deutschen Aufklärung – Ein Städterundgang. Hamburg(Rowohlt Taschenbuch Verlag) 1997. の中の、„4. Kant: Der Mittelpunkt des Diskurses“。コピーでお渡しします。</p>		<p>毎回の授業への参加度（担当回にきちんと発表・報告ができてきているかどうか、議論に積極的に参加したかどうか、など）によって評価する。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読 (芸術)	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Reisen wir durch die Musikgeschichte!</p> <p>Komponistennamen verbindet man gerne mit Städtenamen: Bach mit Leipzig, Mozart mit Salzburg, Mahler mit Wien. In diesem Lesekurs werden wir uns mit Ausschnitten aus dem Leben von Komponisten in ihren Städten beschäftigen, und zwar von der Renaissance bis in die Moderne. Je nach Interessenlage können einzelne Kapitel mit weiteren Texten über die Komponisten und ihre Werke ergänzt werden. Im Mozart- und Schumann-Jahr 2006 bietet es sich an, diese beiden Komponisten besonders hervorzuheben.</p> <p>Lesen bedeutet nicht Übersetzen. Didaktisches Ziel des Kurses ist es, das globale, selektive und detaillierte Leseverständnis zu üben. Dafür werden spezielle Übungen eingesetzt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Einführung</li> <li>2. Orlando di Lasso (München)</li> <li>3.</li> <li>4. Johann Sebastian Bach (Leipzig)</li> <li>5.</li> <li>6. Die Komponisten um König Friedrich II. von Preussen (Berlin und Potsdam)</li> <li>7.</li> <li>8. Wolfgang Amadeus Mozart (Salzburg)</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11. Carl Maria von Weber (Dresden)</li> <li>12.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kirsten Beisswenger, Asahiko Yamaji, Reisen wir durch die Musikgeschichte! (Hakusuisha)		Regelmäßige Teilnahme, Hausarbeit oder Test	

03年度以降	ドイツ語講読 (芸術)	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Reisen wir durch die Musikgeschichte!</p> <p>Fortsetzung</p> <p>Siehe Einführung zum Sommersemester</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Felix Mendelssohn Bartholdy und Robert Schumann (Düsseldorf)</li> <li>2.</li> <li>3.</li> <li>4. Franz Liszt (Weimar)</li> <li>5.</li> <li>6. Richard Wagner (Zürich)</li> <li>7.</li> <li>8. Gustav Mahler und Arnold Schönberg (Wien)</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11. Komponisten der klassischen Moderne (Donaueschingen)</li> <li>12.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kirsten Beisswenger, Asahiko Yamaji, Reisen wir durch die Musikgeschichte! (Hakusuisha)		Regelmäßige Teilnahme, Hausarbeit oder Test	



03年度以降	ドイツ語講読(芸術)	担当者	前田 智
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Franz Lehár(1870-1948)の「Die lustige Witwe / メリー・ウィドウ」及びJohann Strauß(1825-1899)の「Wiener Blut / ウィーン気質」の両オペレッタを、理解を深めるために映像及び音楽の鑑賞をしつつ、レクラム版などの作品解説やリブレット(台本)、歌詞等を講読する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メリー・ウィドウ (1)</li> <li>2. メリー・ウィドウ (2)</li> <li>3. メリー・ウィドウ (3)</li> <li>4. メリー・ウィドウ (4)</li> <li>5. メリー・ウィドウ (5)</li> <li>6. メリー・ウィドウ (6)</li> <li>7. ウィーン気質 (1)</li> <li>8. ウィーン気質 (2)</li> <li>9. ウィーン気質 (3)</li> <li>10. ウィーン気質 (4)</li> <li>11. ウィーン気質 (5)</li> <li>12. ウィーン気質 (6)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>教材は適時プリントにて配布。 参考文献は授業時に紹介の予定。</p>		<p>出席、発表、レポート、定期試験</p>	

03年度以降	ドイツ語講読(芸術)	担当者	前田 智
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語圏で公演された Andrew Lloyd Webber(1948 - )の「CATS / キャッツ」及び Jim Steinman(1948 - )の「Tanz der Vampire / 吸血鬼の舞踏」の両ミュージカルを映像及び音楽の鑑賞をしつつ、リブレット(台本)、劇場パンフ、歌詞等を講読する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. キャッツ (1)</li> <li>2. キャッツ (2)</li> <li>3. キャッツ (3)</li> <li>4. キャッツ (4)</li> <li>5. キャッツ (5)</li> <li>6. キャッツ (6)</li> <li>7. 吸血鬼の舞踏 (1)</li> <li>8. 吸血鬼の舞踏 (2)</li> <li>9. 吸血鬼の舞踏 (3)</li> <li>10. 吸血鬼の舞踏 (4)</li> <li>11. 吸血鬼の舞踏 (5)</li> <li>12. 吸血鬼の舞踏 (6)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>教材は適時プリントにて配布。 参考文献は授業時に紹介の予定。</p>		<p>出席、発表、レポート、定期試験</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（芸術）	担当者	辻本 勝好
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ニーチェ（1844－1900）の処女作『悲劇の誕生』（Die Geburt der Tragödie aus dem Geiste der Musik1872）のなかからいくつかの章を精選し、それらの原典講読を通じて、彼の格調の高い論文形式の文体（Periode）に慣れるのと同時に、実人生にとっての芸術の意義について考察して行きたい。</p> <p>04年度からの続きですが、読む章は全く異なりますし、同書全体を視野に入れて説明して行きますので、文法の基礎的な知識と人並みの根気さえあれば、文章理解の上で支障をきたす恐れは全然ありません。後は読解力の飛躍的な向上をひたすらめざすのみです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス及びニーチェの略伝紹介。</li> <li>2. 以下は『悲劇の誕生』の原典講読につき、略す。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>原典講読に必要な部分のみプリント配布する。 参考文献：岩波文庫版『悲劇の誕生』</p>		<p>出席状況と平素の学習態度（特に予習の有無）を加味したうえで、筆記試験の成績で評価する。100点満点中10点を出席点とする。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（芸術）	担当者	辻本 勝好
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ニーチェ（1844－1900）の処女作『悲劇の誕生』（Die Geburt der Tragödie aus dem Geiste der Musik1872）のなかからいくつかの章を精選し、それらの原典講読を通じて、彼の格調の高い論文形式の文体（Periode）に慣れるのと同時に、実人生にとっての芸術の意義について考察して行きたい。</p> <p>04年度からの続きですが、読む章は全く異なりますし、同書全体を視野に入れて説明して行きますので、文法の基礎的な知識と人並みの根気さえあれば、文章理解の上で支障をきたす恐れは全然ありません。後は読解力の飛躍的な向上をひたすらめざすのみです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 以下は『悲劇の誕生』の原典講読につき、略す。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>原典講読に必要な部分のみプリント配布する。 参考文献：岩波文庫版『悲劇の誕生』</p>		<p>出席状況と平素の学習態度（特に予習の有無）を加味したうえで、筆記試験の成績で評価する。100点満点中10点を出席点とする。</p>	

03 年度以降	ドイツ語講読 (芸術)	担当者	木村佐千子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>音楽にまつわるドイツ語の文章を読み、読解力の向上を目指すと同時に、音楽についての理解も深めていただきたいと思います。和訳するにあたっては、日本語として通りやすい文章にすることを、みなさんと一緒に考えたいと思います。</p> <p>今年度は、2006 年に没後 150 周年をむかえるロベルト・シューマン (1810~1856) の生涯と作品に関する文献をコピーで配布して読んでいただきます。シューマンが暮らした都市についての文章、作品論、声楽作品の歌詞、シューマン自身が書いた評論などをとりあげる予定です。音楽の専門用語や現代ドイツ語とは異なる 19 世紀特有の言い回しなどが出てきたり、旧字体のアルファベットで書かれた資料を読む場合もありますので、予め了解しておいてください。</p> <p>なお、文中で扱われる音楽に関連した CD 等を授業中にお聴かせします。</p> <p>注意事項：受講者全員に毎週、予習を課します。あてられても答えられないということがないように、充分準備して臨んでください。また、ドイツ語の書籍から注釈 (ヒント) 等のない生の文章をとりだしてきて読みますので、じっくり時間をかけて予習に取り組み、積極的に授業に参加することのできる学生の受講を希望します。</p>		<p>各回 2 ページ程度のドイツ語の文章を読んでいく予定です。文法事項も必要に応じて解説します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは授業中にコピーで配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。</p>		<p>筆記試験の結果に平常点を加えた総合評価。 出席および授業中の発言を重視します。</p>	

03 年度以降	ドイツ語講読 (芸術)	担当者	木村佐千子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>音楽にまつわるドイツ語の文章を読み、読解力の向上を目指すと同時に、音楽についての理解も深めていただきたいと思います。和訳するにあたっては、日本語として通りやすい文章にすることを、みなさんと一緒に考えたいと思います。</p> <p>今年度は、2006 年に没後 150 周年をむかえるロベルト・シューマン (1810~1856) の生涯と作品に関する文献をコピーで配布して読んでいただきます。シューマンが暮らした都市についての文章、作品論、声楽作品の歌詞、シューマン自身が書いた評論などをとりあげる予定です。音楽の専門用語や現代ドイツ語とは異なる 19 世紀特有の言い回しなどが出てきたり、旧字体のアルファベットで書かれた資料を読む場合もありますので、予め了解しておいてください。</p> <p>なお、文中で扱われる音楽に関連した CD 等を授業中にお聴かせします。</p> <p>注意事項：受講者全員に毎週、予習を課します。あてられても答えられないということがないように、充分準備して臨んでください。また、ドイツ語の書籍から注釈等のない生の文章をとりだしてきて読みますので、じっくり時間をかけて予習に取り組み、積極的に授業に参加することのできる学生の受講を希望します。内容的には春学期の続きとなりますので、なるべく通年で履修してください。</p>		<p>各回 2 ページ程度のドイツ語の文章を読んでいく予定です。文法事項も必要に応じて解説します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは授業中にコピーで配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。</p>		<p>筆記試験の結果に平常点を加えた総合評価。 出席および授業中の発言を重視します。</p>	

05年度以降 03年度以降	ドイツ史概論Ⅰ ドイツ史概論 a	担当者	黒田 多美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>歴史を学ぶにあたって重要なのは、単に過去の出来事や人物に関する知識を得ることではなく、現在の問題にどれだけ結び付けて考えられるかということです。</p> <p>春学期は、ドイツの学校では歴史の授業はどのように行われているかという点を出発点に、19世紀初頭から第一次世界大戦の終結までのドイツ史を対象に、歴史の見方を検討していきたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業に関する説明/レポートの書き方など</li> <li>2. ドイツの歴史教育/(video)</li> <li>3. 歴史否定論者の主張</li> <li>4. 歴史否定論者の系譜</li> <li>5. 反ユダヤ主義の伝統</li> <li>6. 国民国家とナショナリズム</li> <li>7. 工業化と社会問題</li> <li>8. 反ユダヤ主義 (反セム主義)</li> <li>9. 第一次世界大戦 (video)</li> <li>10. ドイツ帝国と第一次世界大戦の開戦</li> <li>11. 戦争プロパガンダ</li> <li>12. ドイツ革命とヴァイマル共和国の成立</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
資料はプリント配布		ただ単に講義を聴いているだけの授業は避けたいので、受講生には出来るだけ授業中に課題に答えてもらいます。評価は、課題レポートを予定しています。	

05年度以降 03年度以降	ドイツ史概論Ⅱ ドイツ史概論 b	担当者	黒田 多美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>歴史を学ぶにあたって重要なのは、単に過去の出来事や人物に関する知識を得ることではなく、現在の問題にどれだけ結び付けて考えられるかということです。</p> <p>秋学期は、ドイツ人の第一次世界大戦に対する認識と、実際の歴史的経緯との違いを明らかにしたうえで、ドイツ人の国家意識がナチの台頭とどのように関連していたのかを考察します。さらにナチ体制下での人々の動向を検討したうえで、戦後のドイツ人の歴史意識について考えて見たいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヴェルサイユ条約と戦争責任問題</li> <li>2. 共和国の敵</li> <li>3. ヴァイマル共和国の崩壊とヒトラー政権の誕生</li> <li>4. 国民社会主義ドイツ労働者 (ナチ) 党の発展 1</li> <li>5. 国民社会主義ドイツ労働者 (ナチ) 党の発展 2 (video)</li> <li>6. ナチ体制下の国民</li> <li>7. 受容と抵抗: 「普通の人々」 (video)</li> <li>8. 受容と抵抗: 「普通の人々」 / 抵抗運動 1</li> <li>9. 受容と抵抗: 抵抗運動 2</li> <li>10. 戦後ドイツの歴史意識: 日独比較・・・</li> <li>11. 戦後ドイツの歴史意識: 歴史教科書</li> <li>12. 予備</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
資料はプリント配布		ただ単に講義を聴いているだけの授業は避けたいので、受講生には出来るだけ授業中に課題に答えてもらいます。評価は、課題レポートを予定しています。	

05年度以降 03年度以降	ドイツの歴史Ⅰ ドイツの歴史 a	担当者	増谷 英樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
ナチ時代における「ユダヤ問題の最終解決（絶滅）」にいたるドイツのユダヤと反ユダヤの歴史について詳しく見ていく。		授業計画 1) 反ユダヤ主義とシオニズムの発生 2) ワイマール時代のユダヤの自己意識 3) ヒトラーとナチズムの発生 4) ナチズムの反ユダヤ政策 5) 戦後ドイツの補償政策 6) 現代ドイツのユダヤ教徒	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト・参考文献は授業中に紹介		レポートないし試験により評価	

05年度以降 03年度以降	ドイツの歴史Ⅱ ドイツの歴史 b	担当者	増谷 英樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
「ユダヤ的反ユダヤ的ウィーンの歴史」勝れてユダヤ的で極めて反ユダヤ的であるウィーンを理解することを目標とする。		1) ウィーン最初のユダヤ教徒 2) 第一次ゲットーの成立 3) 第二次ゲットーの運命 4) 「宮廷ユダヤ」の時代 5) ヨーゼフ 2 世の「寛容令」 6) 1848 年革命とユダヤ教徒 7) 世紀末文化とユダヤの人々 8) ウィーン反ユダヤ主義 9) アイヒマンの「ウィーンモデル」 10) 「絶滅政策」への加担 11) 戦後ウィーンのユダヤ教徒	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト・参考文献は授業中に紹介		レポートないし試験により評価	

05年度以降 03年度以降	ドイツの社会・事情 I ドイツの社会・事情 a	担当者	H.H. Gätke
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
Politisches System und staatlicher Aufbau der Bundesrepublik Deutschland, geografische und historische Grundinformationen, politische Begriffe, Verfassung und staatliche Grundprinzipien, Organisation und Funktion staatlicher Organe, Wahl- und Parteiensystem		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Vorbesprechung: Unterrichtsmodalitäten, Lehrmaterial</li> <li>2. Begriffsklärung: Staat – Volk – Nation</li> <li>3. – “ - : Bündnis – Staatenbund</li> <li>4. – “ - : Bundesstaat – Zentralstaat</li> <li>5. Staatssymbole: Flagge – Wappen – Hymne</li> <li>6. Verfassung (Grundgesetz)</li> <li>7. Staatliche Grundprinzipien</li> <li>8. Republik – parlamentarische Demokratie</li> <li>9. Rechtsstaat – Sozialstaat</li> <li>10. Föderalismus</li> <li>11. Deutsche Einheitsbestrebungen (historischer Abriß)</li> <li>12. Zusammenfassung, Fragestunde</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Material wird zum Semesterbeginn verteilt		Regelmäßige Teilnahme, aktive Mitarbeit, Test am Semesterende	

05年度以降 03年度以降	ドイツの社会・事情 II ドイツの社会・事情 b	担当者	H.H. Gätke
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
Politisches System und staatlicher Aufbau der Bundesrepublik Deutschland, geografische und historische Grundinformationen, politische Begriffe, Verfassung und staatliche Grundprinzipien, Organisation und Funktion staatlicher Organe, Wahl- und Parteiensystem		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Besprechung der Testergebnisse, Vorbesprechung (Unterrichtsmodalitäten, Lehrmaterial)</li> <li>2. Staatsorgane I: Staatsgewalt Legislative (Bundestag)</li> <li>3. Staatsorgane II: Staatsgewalt Exekutive (Regierung)</li> <li>4. Staatsorgane III: Staatsgewalt Judikative (Gerichte)</li> <li>5. Gewaltenteilung horizontal – vertikal</li> <li>6. Gesetzgebungskompetenzen des Bundes und der Länder</li> <li>7. Staatsorgane IV: Bundespräsident – Bundesrat</li> <li>8. Wahlsystem I</li> <li>9. Wahlsystem II</li> <li>10. Parteiensystem</li> <li>11. Europa - BRD – Bundesländer (geografisch)</li> <li>12. Zusammenfassung, Fragestunde</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Material wird zum Semesterbeginn verteilt		Regelmäßige Teilnahme, aktive Mitarbeit, Test am Semesterende	

05年度以降 03年度以降	ドイツの地誌・民俗 I ドイツの地誌・民俗 a	担当者	大串 紀代子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語圏における文化、歴史、時事問題等を幅広く理解する上で、地誌に関する知識は不可欠である。それは、単に地理的条件を知るだけでなく、それらと闘い、共生し、相互に影響しあってきた文化の諸形態を把握することに重点がある。</p> <p>春期にはドイツ語圏、ドイツ、オーストリア、スイスでの諸地域を取り扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヨーロッパの中のドイツ語圏</li> <li>2. ドイツの地理的条件：北部、中央部、南部</li> <li>3. ドイツの山、河川、湖沼</li> <li>4. 同上</li> <li>5. オーストリアの地理的条件：東部、西部</li> <li>6. オーストリアの山、河川、湖沼</li> <li>7. 同上</li> <li>8. スイスの地理的条件：北部、中央部、南部</li> <li>9. スイスの山、河川、湖沼</li> <li>10. 同上</li> <li>11. 地理的条件と産業</li> <li>12. 地理的条件と家屋構造</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント、ビデオ等。		小レポート、プレゼン。	

05年度以降 03年度以降	ドイツの地誌・民俗 II ドイツの地誌・民俗 b	担当者	大串 紀代子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語圏における習俗や慣習は非常に多様である。文化的、歴史的に多様であるだけでなく、地理的条件にも影響を受けている。</p> <p>秋期には、ゲルマン、ケルト、ローマの習俗の残像もかいま見ながらキリスト教文化のなかで様々に育まれてきた民間習俗、特に人間と宇宙、人間と自然、人間と事物との諸様相を探る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 民俗学、民間習俗とは。</li> <li>2. 教会暦と農事暦</li> <li>3. 民俗的「時間と空間」のありかた。</li> <li>4. 季節の習俗。夏季：5月、6月。</li> <li>5. 同上。7月、8月</li> <li>6. 同上。9月、10月。</li> <li>7. 季節の習俗。冬季。11月。12月。</li> <li>8. 同上。12月。12夜。</li> <li>9. 同上。1月、2月。</li> <li>10. 同上。3月。4月。</li> <li>11. 自然界の死と再生。</li> <li>12. 人間の生、老、死。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布。OHP,ビデオ。		小レポート、プレゼン。	

05年度以降 03年度以降	ドイツの政治・対外関係 I ドイツの政治・対外関係 a	担当者	古田善文
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期の講義では、ドイツ語圏諸国（ドイツ、オーストリア、スイス）の「政治・選挙・行政システム」、「代表的諸政党」の特質を比較検討します。政治と言うと何やら堅いイメージをもつかかもしれませんが、この授業では補助教材やビデオ資料を駆使して、わかりやすい講義の実現につとめます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 年間計画、講義目標、評価方法等についての説明</li> <li>2 ドイツ連邦共和国の政治・選挙・行政システム</li> <li>3 オーストリア、スイスの政治・選挙・行政システム</li> <li>4 ドイツ語圏の諸政党の歴史と現状：社会民主主義政党(1)</li> <li>5 ドイツ語圏の諸政党の歴史と現状：社会民主主義政党(2)</li> <li>6 ドイツ語圏の諸政党の歴史と現状：保守政党(1)</li> <li>7 ドイツ語圏の諸政党の歴史と現状：保守政党(2)</li> <li>8 ドイツ語圏の諸政党の歴史と現状：緑の党</li> <li>9 ドイツ語圏の諸政党の歴史と現状：自由民主党他</li> <li>10 ドイツ語圏の諸政党の歴史と現状：ドイツの極右政党とネオナチ勢力</li> <li>11 ドイツ語圏の諸政党の歴史と現状：オーストリアとスイスの極右政党</li> <li>12 前期のまとめ（予備日）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献表、講義レジュメを配布します。		学期末に筆記試験を実施します。なお、出席は原則として毎回チェックします。	

05年度以降 03年度以降	ドイツの政治・対外関係 II ドイツの政治・対外関係 b	担当者	古田善文
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期は、ドイツ、オーストリアの戦後政治の流れを、「国際関係」という枠組みのなかで考察する予定です。</p> <p>春学期、秋学期ともテーマによっては日本の事例との比較を行う予定ですので、参加者は日頃から新聞を読む習慣をつけておくようにして下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 連合国の戦後構想とドイツの敗戦(1)</li> <li>2 連合国の戦後構想とドイツの敗戦(2)</li> <li>3 連合国占領の比較研究(1)：ドイツにおける戦後変革の諸相</li> <li>4 連合国占領の比較研究(2)：日本における戦後変革の諸相</li> <li>5 欧州冷戦と分断国家の成立(1)</li> <li>6 欧州冷戦と分断国家の成立(2)</li> <li>7 永世中立国オーストリアの誕生</li> <li>8 「ベルリンの壁」建設と東ドイツの苦悩</li> <li>9 ブラント政権からコール政権まで：再統一への道程(1)</li> <li>10 ブラント政権からコール政権まで：再統一への道程(2)</li> <li>11 欧州連合と 21 世紀のドイツ（シュレーダー政権からメルケル政権へ）</li> <li>12 後期のまとめ（予備日）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献表、講義レジュメを配布します。		学期末に筆記試験を実施します。なお、出席は原則として毎回チェックします。	



05年度以降 03年度以降	ドイツの経済 I ドイツの経済 a	担当者	大重 光太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツの経済・社会システムは伝統的に「社会的市場経済」と特徴付けられてきた。それは、アメリカやイギリスなどの市場中心の経済のあり方とは異なる、社会保障や福祉に重点をおいたあり方を特徴づけるものであった。こうしたドイツ固有のあり方を理解することが第一の目標である。</p> <p>しかし経済のグローバル化と EU 統合によってドイツの伝統的な特徴は大きく変容している。その動きには、財政赤字、高失業、貧困化と格差拡大、福祉削減など、他の先進諸国と共通する特徴が見られる。現代ドイツの経済・社会システムがこうした問題とどう取り組んでいるのか、その検討を通じてドイツの将来について考察していくこと、これが第二の目標である。</p> <p>具体的には、テーマごとに日本のあり方を念頭に置きながら進める。ドイツの状況を理解するだけでなく、それを素材として、自分たちの社会や経済について考えていく講義としたい。</p> <p>毎回、授業の冒頭に、ドイツやヨーロッパについての最新の動きに触れる。聴講者は、日々のニュースに気をつけてもらいたい。</p>		<p>春学期には身近な領域から出発する。学校教育・職業教育、就職、仕事、仕事と家庭との関係などをテーマとして取り上げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 学校教育</li> <li>3. 職業教育</li> <li>4. 就職</li> <li>5. 仕事と家庭</li> <li>6. 少子化問題、男女共同参画について</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>毎回プリントを配布する。 参考文献は、初回に配布する。</p>		<p>聴講者には、各学期に2回のレポートを課す。 評価は、授業での取り組み、課題レポートを元に行う。</p>	

05年度以降 03年度以降	ドイツの経済 II ドイツの経済 b	担当者	大重 光太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>全体の目的および概要については上記参照。</p> <p>毎回、授業の冒頭に、ドイツやヨーロッパについての最新の動きに触れる。聴講者は、日々のニュースに気をつけてもらいたい。</p>		<p>春学期で扱ったことを踏まえ、秋学期には企業社会から国家へと視野を広げていく。まず企業社会について、企業組織や産業レベルのあり方を考えていく。さらに国家の経済政策について、日本とドイツの共通点と違いを考えていく。最後に、グローバル化と新自由主義という大きな流れのなかでの、両者の今後の展望について考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 企業レベルでの組織の日独比較</li> <li>3. 産業レベルでの組織の日独比較</li> <li>4. 経済政策の日独比較</li> <li>5. 経済のグローバル化のなかでの日本とドイツ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>毎回プリントを配布する。 参考文献は、初回に配布する。</p>		<p>聴講者には、各学期に2回のレポートを課す。 評価は、授業での取り組み、2回のレポートを元に行う。</p>	

05年度以降 03年度以降	ドイツの法律 I ドイツの法律 a	担当者	滝沢 誠
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>明治維新政府は、ヨーロッパ大陸諸国（とりわけ、ドイツ及びフランス）の法制度を輸入し、近代化を遂げてきました。しかし、第二次世界大戦後は、英米法、とりわけ、アメリカ法の影響を強く受けながらも、わが国の法制度の基本概念、規定等は、一部の法領域の例外はあるものの、依然として、大陸法（とりわけ、ドイツ法）の影響を強く受けています。</p> <p>ところで、わが国の法制度の基礎となった外国の法制度を展望することは、わが国の法解釈・理解、さらには、わが国の法制度において解決できない問題を解決する指針を提供することもあります。外国法を学ぶ必要性が見出せるものと思われまます。</p> <p>他方で、法制度は、社会から浮遊したものではなく、社会のあり方と密接に結びついていますので、ドイツの法制度の理解は、ドイツ社会・文化の理解につながることもあるかと思われまます。</p> <p>そこで、本講義では、わが国及びドイツの法制度、社会及び文化理解の一助のために、日本の法制度を概観しながら、ドイツの法制度及び社会・文化の特徴を模索したいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 比較法の意義・限界</li> <li>2. ボン基本法 連邦制度</li> <li>3. ボン基本法 法治国家</li> <li>4. ボン基本法 基本権</li> <li>5. 民事法 (I)</li> <li>6. 民事法 (II)</li> <li>7. 刑事法 (I)</li> <li>8. 刑事法 (II)</li> <li>9. 司法制度 (I)</li> <li>10. 司法制度 (II)</li> <li>11. 司法制度 (III)</li> <li>12. 大学制度・法学教育</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
村上淳一＝守矢健一／ハンス・ペーター・マルチュケ『ドイツ法入門』改訂第6版（有斐閣、2005年）		科目の性質上、受講生の構成により、評価方法を決めます。	

03年度以降 05年度以降	ドイツの法律 II ドイツの法律 b	担当者	滝沢 誠
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>比較法の意義の一つに、ある法律問題を解決できる法解釈あるいは法制度が存在しないとき、その問題を何らかの方法で解決している外国法を参照することがあります。特に、ドイツにおいては、立法府がこまめに法改正を行い、法運用を規律する特徴が見受けられることから、今日においても、ドイツ法はわが国の法律学に大きな影響を与えていると思われまます。</p> <p>そこで、本講義では、春学期の講義を前提として、わが国及びドイツに共通する新しい法律問題のうち、特に、刑法、刑事訴訟法及び刑事政策に関する最近の問題のいくつかを選び出し、それらがわが国及びドイツにおいてどのように解決されているのかを比較・検討しながら、わが国及びドイツの法制度、社会及び文化の特徴を模索してみたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医事刑法 (I)</li> <li>2. 医事刑法 (II)</li> <li>3. 秘密捜査官、捜査協力者による捜査 (I)</li> <li>4. 秘密捜査官、捜査協力者による捜査 (II)</li> <li>5. 通信傍受、室内会話の秘聴 (I)</li> <li>6. 通信傍受、室内会話の秘聴 (II)</li> <li>7. 資金洗浄罪と刑事弁護 (I)</li> <li>8. 資金洗浄罪と刑事弁護 (II)</li> <li>9. 証人保護 (I)</li> <li>10. 証人保護 (II)</li> <li>11. 性犯罪者の社会内処遇 (I)</li> <li>12. 性犯罪者の社会内処遇 (II)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しません。		科目の性質上、受講生の構成により、評価方法を決めます。	

03年度以降	ドイツ語講読(歴史)	担当者	A.ヴェルナー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Es sollen verschiedene deutsche Texte über die deutsche Geschichte gelesen werden.</p> <p>Es sind leichte, kurze, gut verständliche Texte ganz verschiedener Sorten: Zeitung, Zeitschrift, Internet, Lehrbuch, usw.</p> <p>Im Unterricht sprechen wir (im Prinzip) auf Deutsch über die Form und den Inhalt der Texte.</p> <p>Wichtig ist die Bereitschaft zu aktiver Mitarbeit.</p>		<p>初回の授業で希望を聞いて決めます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>コピーの配布をします。</p>		<p>出席、小発表、レポートなど</p>	

03年度以降	ドイツ語講読(歴史)	担当者	A.ヴェルナー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>同上</p>		<p>同上</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>同上</p>		<p>同上</p>	

03 年度以降	ドイツ語講読(歴史)	担当者	井村 行子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>過去のドイツにも、今日のトルコ系の人々にあたる多数の民族的少数派を抱え込んでいた時代があった。第二帝政期(1871-1918)のポーランド人である。この人々は、18 世紀末、プロイセン、オーストリア、ロシアによって祖国ポーランドが分割された結果、プロイセン国籍を取得し、やがてプロイセンがドイツを統一した結果、ドイツ国籍を取得した。いわば自動的にドイツ国籍をもっているという点で、今日のトルコ人とは異なるが、政治的・社会的な差別を受けながら、自らの権利を拡大するためにさまざまな組織を設立し、運動を展開した点は共通である。</p> <p>ドイツのポーランド人について知ることはドイツの知られざる過去の歴史の一面を知るとどまらず、もし、ある社会の移民や外国人に対する態度が長い時の経過を経て容易に変わらないものであるとするならば、今日のトルコ人の境遇と運命を知るための参考にもなるに違いない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義</li> <li>2. テキストを読む</li> <li>3. "</li> <li>4. "</li> <li>5. "</li> <li>6. "</li> <li>7. "</li> <li>8. "</li> <li>9. "</li> <li>10. "</li> <li>11. "</li> <li>12. 結論とまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>伊藤定良『異郷と故郷』(東大出版会、1987) 伊藤定良『ドイツの長い 19 世紀』(青木書店、2002)</p>		学期末試験の成績による	

03 年度以降	ドイツ語講読(歴史)	担当者	井村 行子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>2004 年 7 月、ドイツ連邦共和国では懸案の移民法が成立した。この法律は 2005 年 1 月 1 日から施行され、移民にドイツ語を中心とする「統合コース」への出席を義務づけると同時に、予防拘禁を含むテロ容疑者の国外追放を容易にする手段を法的に保障するという側面を合わせもっている。</p> <p>EU 圏内にヒトとモノとサービスの自由な移動を保障したシェンゲン条約(1990)も、難民の流入や麻薬の持ち込みを阻止するというもう一つの側面をもっていた。今回の移民法もこの延長線上にあるものと位置づけられる。</p> <p>ドイツの過去の経験に踏まえて基本法に庇護権を書き込んだドイツ国家は、東ドイツはじめ東欧の社会主義体制の崩壊後の 1993 年、亡命者や難民の重みに耐え切れず、ついに第 16 条の修正を行った。フランスと並んで人権大国といわれるドイツは移民や外国人の人権をどのように考え、どこに進もうとしているのだろうか。移民法を手がかりにこの問題に対する答えを探りたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義</li> <li>2. テキストを読む</li> <li>3. "</li> <li>4. "</li> <li>5. "</li> <li>6. "</li> <li>7. "</li> <li>8. "</li> <li>9. "</li> <li>10. "</li> <li>11. "</li> <li>12. 結論とまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>内藤正典『アッラーのヨーロッパ』(東大出版会、1996) 内藤正典『ヨーロッパとイスラーム』(岩波新書、2004)</p>		学期末試験の成績による	

03年度以降	ドイツ語講読（歴史）	担当者	増谷 英樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
ドイツの歴史に関するドイツ語文献を読み、ドイツの歴史をドイツ語で学ぶ。		授業はドイツ語を読むだけでなく、その内容について調べることが要求されます。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはプリントにより提供。		評価は出席、発表、小テスト、試験などによる。	

03年度以降	ドイツ語講読（歴史）	担当者	増谷 英樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
ドイツの歴史に関するドイツ語文献を読み、ドイツの歴史をドイツ語で学ぶ。		授業はドイツ語を読むだけでなく、その内容について調べることが要求されます。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはプリントにより提供。		評価は出席、発表、小テスト、試験などによる。	

03年度以降	ドイツ語講読（社会）	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
Ziel des Unterrichts ist es vor allem, Lesestrategien zu erarbeiten, die es ermöglichen, Freude am Lesen zu bekommen und gesellschaftswissenschaftliche Grundbegriffe zu erwerben.		Die Festlegung der Texte und die Schwerpunktsetzung bei den Themen erfolgt nach Rücksprache mit den Teilnehmern unter Berücksichtigung individueller Interessen und Bedürfnisse in der ersten Unterrichtsstunde. Nicht versäumen!!!	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige aktive Teilnahme, Abschlusstest.	

03年度以降	ドイツ語講読（社会）	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
Siehe oben		Siehe oben	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige aktive Teilnahme, Abschlusstest.	

03 年度以降	ドイツ語講読 (社会)	担当者	大串 紀代子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>EU(欧州連合)は一昨年、15 カ国から 25 カ国に拡大し、深化か拡大か、政治か経済かの論争を続けながら、今後の加盟候補国としてルーマニア、マケドニア、ウクライナなどの名前があがっている。また、欧州憲法、トルコ加盟なども長期的課題として抱えている。</p> <p>ドイツ語圏における現代社会の政治的・経済的・社会的諸相を知る上でも、単にドイツ語圏のみでなく、EU 共同体、ひいてはグローバルな視野で理解する必要がある。</p> <p>この「講読 (社会)」では、ドイツ語圏からのインターネットによる日々の情報を取り扱い、以下の作業を行う。</p> <p>1)情報の正確な理解 2)それぞれの事件や現象の背景の把握 3)日本語での的確な表現 4)大学 HP での発表による一般社会への情報発信</p>		<p>左記作業は大学の授業時間、ゼミスター期間、祝休日、休暇期間等にとらわれず、1 年間を通じて行う。従って「就職活動」や「短期罹病」等は欠席単位取得の理由にはならない。</p> <p>参加条件：</p> <p>1) 現在までに発表されている HP を熟読し、これまでの政治・経済・社会に関する知識を得ておく。</p> <p>2) 基本概念や使用頻度が高い表現や語彙は、ドイツ語原文と対比して自習しておく。</p> <p>3) パソコン操作能力。必要な場合には講習会を開くので、参加すること。</p> <p>4) 単なる翻訳作業だけではなく、一般読者に知識提供のための註も付記する。</p> <p>5) HP 発表前に必ずメールで担当教員のチェックを受ける。</p> <p>6) HP は「獨協大学ドイツ語学科のページ」という性格を持つので、より良いサイト作成のために自主的かつ協力的作業を続ける。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
指定するインターネットのニュース。		作業成果による。	

03 年度以降	ドイツ語講読 (社会)	担当者	大串 紀代子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上。		同上。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上。		同上。	

03年度以降	ドイツ語講読(社会)	担当者	飯沼 隆一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>外国語を学ぶ前提には、その言葉を使う人々の国民性がある程度理解することが含まれると思われま す。この授業ではドイツ人(等)に共通する、もの の考え方感じ方、ひいてはその拠って来る社会のあり 方などを比較文化的な方向から考えてゆきたい。 まず日本人とドイツ人との行き違い、コミュニケ ーション・ギャップなどの話から、ただその現象だ けでなく読解の際に歴史的・思想的背景も探ってみ たい。</p>		<p>まずテキスト①(プリント)を1回に1課分くら いの予定で読み進め、テーマが煮詰まってきた段階 で参考文献の③④に基づいた説明をはさんでいき たいと思います。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>①『日本とドイツの文化』 赤井他(東洋出版) ②『ドイツ人の見た日本人』小塩(朝日出版社)</p>		<p>定期試験、平常評価で決めます。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読(社会)	担当者	飯沼 隆一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>前期で見た表面的な文化の違いにとどまらず、ドイツ (西洋)とわれわれの根本的な違いを、④に基づいてキリ スト教と「個人」の成立との関係、日本の「世間」とは? といった点から解説を加えながらテキストを読む参考 にする。</p>		<p>前期内容を引き続けるのと並んで、ドイツ語圏の アクチュアルな新聞・雑誌の記事などから読めるも のを取り入れていきたいと思います。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>③『かくれた次元』 エドワード・ホール ④『ヨーロッパを見る視角』 阿部謹也</p>		<p>定期試験、平常評価と内容に関する短いレポート 一本程度を考えています。</p>	



03年度以降	ドイツ語講読（社会）	担当者	本橋 右京
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 講読の授業ですが、速く正確な内容理解と、要約練習に重点に置きます。文法的にも基本に立ち戻り、確実な力を養います。</p> <p>講義概要： 昨年ドイツで起きたトピックスで、社会事情を学びます。取り上げるのは、スポーツ、外交、経済、環境、社会、文化の5分野から、9つの話題。</p>		<p>トピックスを列举します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2006年W杯にむけて新生ドイツ代表の成長</li> <li>2. ドイツ体操界の彗星</li> <li>3. フィッシャー外相 ビザ事件で証人喚問</li> <li>4. アクセル・シュプリンガー テレビ業界に参入</li> <li>5. VW 人事部長 横領事件で引責辞任</li> <li>6. EUの粒子状物質規制 ディーゼル車の行方</li> <li>7. 新ローマ教皇にドイツ人のベネディクト16世</li> <li>8. ベルリンの一等地に「墓標の原」</li> <li>9. シラー没後200年 — 国民的作家の魅力と再発見</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
A. Raab&石井寿子：『時事ドイツ語＜‘05年トピックス＞』（朝日出版社）		平常点と定期試験の成績で総合評価します。	

03年度以降	ドイツ語講読（社会）	担当者	本橋 右京
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 重点は、前学期とおなじく、速く正確な内容理解と、要約練習ですが、演説・対話・雑誌記事など多様なテキストに慣れましょう。</p> <p>講義概要： 春学期で取り上げたトピックスに関連するテキストで、社会事情の理解を深めます。</p>		<p>以下、予定を挙げます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Köhler 大統領の演説から <ol style="list-style-type: none"> <li>a. ローマ教皇就任に際し</li> <li>b. Merkel 首相就任に際し</li> </ol> </li> <li>2. 第二外国語の早期学習</li> <li>3. 移民の生活観</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布。		平常点と定期試験の成績で総合評価します。	

03年度以降	卒業論文（卒論指導）	担当者	矢羽々崇
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>4年間の勉強の総仕上げとしての卒論を充実させ、形式的にも内容面でもしっかりした卒論が提出できるようにする。</p> <p>1. まとまった量の論文を書くためには、それに応じたストラテジーが必要である。そのために必要な基本的な考え方や実践法を学ぶ。</p> <p>2. 論文作成においては、個々人の研究・作業はもとより、主査および「卒論指導」担当教員や参加学生同士の対話も重要な要素である。分野を越えた対話を通して、お互いに刺激し合い、卒論のレベル向上を目指す。</p> <p>3. 基礎演習・専門演習で培ってきた社会に出てからも必要になる企画力・研究調査力・プレゼンテーション能力などの、大学レベルでの仕上げを目指す。</p>		<p>第1回 導入</p> <p>第2回 卒論の基本的なリテラシー</p> <p>第3回 論文題目提出のための準備1</p> <p>第4回 論文題目提出のための準備2</p> <p>第5回 文献目録の作成</p> <p>第6回 卒論作成のためのストラテジー1</p> <p>第7回 卒論作成のためのストラテジー2</p> <p>第8回 卒論作成のためのストラテジー3</p> <p>第9回 卒論作成のためのストラテジー4</p> <p>第10-12回 中間報告会</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
必要に応じて指示。		卒業論文の評価と連動して評価される。なお、卒業論文の評価においては、この授業への参加および主査との話し合いの程度、中間報告、提出後の口頭試問の結果がともに考慮される。卒論が提出されない場合、この授業の評価はFとなる。	

03年度以降	卒業論文（卒論指導）	担当者	矢羽々崇
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>4年間の勉強の総仕上げとしての卒論を充実させ、形式的にも内容面でもしっかりした卒論が提出できるようにする。</p> <p>1. まとまった量の論文を書くためには、それに応じたストラテジーが必要である。そのために必要な基本的な考え方や実践法を学ぶ。</p> <p>2. 論文作成においては、個々人の研究・作業はもとより、主査および「卒論指導」担当教員や参加学生同士の対話も重要な要素である。分野を越えた対話を通して、お互いに刺激し合い、卒論のレベル向上を目指す。</p> <p>3. 基礎演習・専門演習で培ってきた社会に出てからも必要になる企画力・研究調査力・プレゼンテーション能力などの、大学レベルでの仕上げを目指す。</p>		<p>第1回 夏休みの成果報告</p> <p>第2回 論文の日本語1</p> <p>第3回 論文の日本語2</p> <p>第4回 論文の日本語3</p> <p>第5回 要約のためのドイツ語1</p> <p>第6回 要約のためのドイツ語2</p> <p>第7回 要約のためのドイツ語3</p> <p>第8回 要約のためのドイツ語4</p> <p>第9-12回 口頭試問</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
必要に応じて指示。		卒業論文の評価と連動して評価される。なお、卒業論文の評価においては、この授業への参加および主査との話し合いの程度、中間報告、提出後の口頭試問の結果がともに考慮される。卒論が提出されない場合、この授業の評価はFとなる。	

02年度以前	英語(上級)	担当者	C. カーペンター
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The main goals of this class is to help students increase their listening skills and their confidence and fluency in discussions in English of common activities and everyday topics. Discussions will be based on listenings done in and out of class. Class work will often include working in pairs and small groups so students should be prepared to interact with their classmates.</p> <p>Students must be prepared to actively participate in classroom discussions class. The teacher will guide and support you in your reading, listening, research, and discussions, but students will do most of the talking in this class.</p>		<p><b>Semester 1</b></p> <p>Week 1: Orientation</p> <p>Weeks 2 – 11: Various listening and discussion topics to be announced.</p> <p>Week 12: Final Assessment</p> <p>※ A more complete and detailed schedule will be given in class. The schedule is always subject to changes and adjustments.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The text and recommended references will be announced in class.		Grades will be based on active participation, quizzes, homework, and tests. (※ <i>Attendance is required.</i> More than 3 days absent in one semester and you cannot pass this class.)	

02年度以前	英語(上級)	担当者	C. カーペンター
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Same as above.</b></p> <p>※ During the second semester the students will record short conversations to be uploaded to the class homepage.</p>		<p><b>Semester 2</b></p> <p>Week 13: Getting re-acquainted</p> <p>Weeks 14 – 23: Various listening and discussion topics to be announced.</p> <p>Week 24: Final Assessment</p> <p>※ A more complete and detailed schedule will be given in class. The schedule is always subject to changes and adjustments.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The text and recommended references will be announced in class.		Grades will be based on active participation, quizzes, homework, and tests. (※ <i>Attendance is required.</i> More than 3 days absent in one semester and you cannot pass this class.)	

02年度以前	英語(上級)	担当者	D. ブラドリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course aims to improve the listening and speaking abilities of intermediate level students of English. We will do a selection of listening exercises and fluency practice activities. The level will be that of general EFL textbooks at the intermediate level. The listening exercises consist of short interviews, public announcements, conversations and other recordings of people speaking naturally. In the fluency activities students exchange information, describe their experiences and participate in discussions. The weekly topics list a range of topics commonly handled at this level. This is a proposed list and not necessarily final. Part of some lessons will be set aside for short presentations by the students. Performance and strength of preparation in the presentations will be reflected in the final grade.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction to the course</li> <li>2 Consolidation activities</li> <li>3 Consolidation activities</li> <li>4 Work – talking about jobs and careers</li> <li>5 Homes – location inside the house</li> <li>6 Directions- giving directions and using maps</li> <li>7 Past (1) – talking about people’s histories</li> <li>8 Travel – making travel arrangements</li> <li>9 Introduction to the UK</li> <li>10 London</li> <li>11 Comparing countries</li> <li>12 Review</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on attendance (33%), class participation (33%) and the presentations (33%). In particular, good attendance is a prerequisite for a final grade.	

02年度以前	英語(上級)	担当者	D. ブラドリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The autumn term will be a continuation of the course begun in the spring. We will proceed with the same approach and style of lesson. The same conditions for grading and presentations will apply.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Consolidation</li> <li>2 Health</li> <li>3 Giving advice</li> <li>4 Past (2) – biographies</li> <li>5 Hypothetical situations – talking about the future</li> <li>6 Hypothetical situations – talking about the past</li> <li>7 Festivals</li> <li>8 Cultural comparison</li> <li>9 Current events – listening to the news</li> <li>10 Discussions – giving opinions</li> <li>11 Discussions – giving opinions</li> <li>12 Review</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on attendance (33%), class participation (33%) and the presentations (33%). In particular, good attendance is a prerequisite for a final grade.	

02年度以前 春学期完結	英語 (CAEL)	担当者	J. スティベンソン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In this class, you will study English intensively using a computer program called ぎゅっと E. As this class requires a lot of study and personal discipline, only students who are serious about improving their English should register.</p> <p>In addition to working through the ぎゅっと E program on your own, you must also do the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Introduce yourself to your teacher and classmates (by email);</li> <li>- Create and submit your own learning plan;</li> <li>- Keep a record of what you learn each week in a journal and complete 2 self-evaluations;</li> <li>- Prepare for and complete quizzes.</li> </ul> <p>Before registering for this course, you should find out more about ぎゅっと E at: &lt;<a href="http://gyuto-e.jp/hkGE_hp/index2.htm">http://gyuto-e.jp/hkGE_hp/index2.htm</a>&gt; There is a demo version of ぎゅっと E at: &lt;<a href="http://ecall-system.jp/gyuto-e/trial-h/start.do">http://ecall-system.jp/gyuto-e/trial-h/start.do</a>&gt; Type in the user name (guest) and password (demo). Feel free to email the instructor at <a href="mailto:jodie@dokkyo.ac.jp">jodie@dokkyo.ac.jp</a> if you have any questions.</p>		<p>This schedule may change. You will receive more detailed information in the first week of the semester.</p> <p>Week:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course outline and introductions</li> <li>2. Submit your study plan, start personal study</li> <li>3. Personal study</li> <li>4. Personal study</li> <li>5. Quiz, personal study</li> <li>6. Personal study, self-evaluation 1</li> <li>7. Personal study</li> <li>8. Personal study</li> <li>9. Personal study</li> <li>10. Personal study</li> <li>11. Quiz, personal study,</li> <li>12. Personal study, self-evaluation 2</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>You do not need to buy a textbook for this class; however, there is a fee to use the Gyu-to E program.</p>		<p>This grading system may change. You will receive more information during the first week of the semester. Self - introduction 10% Quizzes 30% Study plan 20% Journals 30% Self-evaluations 10%</p>	

02年度以前 秋学期完結	英語 (CAEL)	担当者	J. スティベンソン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In this class, you will study English intensively using a computer program called ぎゅっと E. As this class requires a lot of study and personal discipline, only students who are serious about improving their English should register.</p> <p>In addition to working through the ぎゅっと E program on your own, you must also do the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Introduce yourself to your teacher and classmates (by email);</li> <li>- Create and submit your own learning plan;</li> <li>- Keep a record of what you learn each week in a journal and complete 2 self-evaluations;</li> <li>- Prepare for and complete quizzes.</li> </ul> <p>Before registering for this course, you should find out more about ぎゅっと E at: &lt;<a href="http://gyuto-e.jp/hkGE_hp/index2.htm">http://gyuto-e.jp/hkGE_hp/index2.htm</a>&gt; You can try a demo version of ぎゅっと E at: &lt;<a href="http://ecall-system.jp/gyuto-e/trial-h/start.do">http://ecall-system.jp/gyuto-e/trial-h/start.do</a>&gt; Type in the user name (guest) and password (demo). Feel free to email the instructor at <a href="mailto:jodie@dokkyo.ac.jp">jodie@dokkyo.ac.jp</a> if you have any questions.</p>		<p>This schedule may change. You will receive more detailed information in the first week of the semester.</p> <p>Week:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course outline and introductions</li> <li>2. Submit your study plan, start personal study</li> <li>3. Personal study</li> <li>4. Personal study</li> <li>5. Quiz, personal study</li> <li>6. Personal study, self-evaluation 1</li> <li>7. Personal study</li> <li>8. Personal study</li> <li>9. Personal study</li> <li>10. Personal study</li> <li>11. Quiz, personal study</li> <li>12. Personal study, self-evaluation 2</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>You do not need to buy a textbook for this class; however, there is a fee to use the Gyu-to E program.</p>		<p>This grading system may change. You will receive more information during the first week of the semester. Self - introduction 10% Quizzes 30% Study plan 20% Journals 30% Self-evaluations 10%</p>	

02年度以前	英語(上級)	担当者	J. スティベンソン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This class will focus on building your confidence as well as your speaking ability. We will think about the techniques that good speakers and listeners use, and you will practice using some of those techniques each week. You will also learn ways that you can practice on your own to improve your speaking ability.</p> <p>Reflection is an important part of this class. In addition to writing your comments about the lesson in a journal each week, you will also watch videos of your discussions and presentations and think about what you are doing well and what areas you could improve in.</p> <p>To get a good grade in this class, you need to come to class regularly and be active in class. You also need to submit a reflection journal each week, and to complete each project.</p>		<p>This is a guide. The schedule may change.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Course explanation and introduction</li> <li>Techniques of good speakers 1 Project 1</li> <li>Techniques of good speakers 2</li> <li>Techniques of good speakers 4 Project 2</li> <li>Video 1</li> <li>Video 1 Project 3</li> <li>Techniques of good listeners 1</li> <li>Techniques of good listeners 2 Project 4</li> <li>Techniques of good listeners 3</li> <li>Video 2 Project 5</li> <li>Video 2</li> <li>Review Project 6</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
The textbook will be announced in the first lesson.		This is a guide. The grading system may change. Attendance 24% Class participation 12% Projects 24% Reflection journal 24% Presentations 16%	

02年度以前	英語(上級)	担当者	J. スティベンソン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This class will focus on building your confidence as well as your speaking ability. In this semester, we will focus especially on discussion skills. You will learn how to participate in a discussion as a speaker and listener, and also how to lead a discussion.</p> <p>Reflection is also an important part of this class. In addition to writing your comments about the lesson in a journal each week, you will also watch videos of your discussions and presentations and think about what you are doing well and what areas you could improve in.</p> <p>To get a good grade in this class, you need to come to class regularly and be active in class. You also need to submit a reflection journal each week, and to complete each project.</p>		<p>This is a guide. The schedule may change.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction and course explanation</li> <li>Expressing opinions Project 1</li> <li>Asking for opinions</li> <li>Being a good listener I Project 2</li> <li>Discussion 1</li> <li>Being a good listener 2 Project 3</li> <li>Leading discussions 1</li> <li>Leading discussions 2 Project 4</li> <li>Discussion practice</li> <li>Discussion practice Project 5</li> <li>Discussion 2</li> <li>Review Project 6</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
The textbook will be announced in the first lesson.		This is a guide. The grading system may change. Attendance 24% Class participation 12% Projects 24% Reflection journal 24% Presentations 16%	

02年度以前	英語(上級)	担当者	M. ウーラートン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aim of this course is to develop students speaking skills and improve their listening. This class is for lower intermediate level students.</p> <p>For each topic, students will watch 4 short video conversations on DVD and answer listening questions as well as doing a lot of speaking practice. Students will study the useful language for each topic and then develop their own conversations. All of the situations and skills will be useful for students realistic communication needs. The situations are an equal mixture of social, school and business situations. Students will hear English spoken by people from several different countries with many different accents. There will also be a game-based speaking activity for each topic.</p> <p>Students will work with a partner, in small groups or with the whole class.</p> <p>There will be a web site for students to use to do extra work in their own time.</p>		<p>Week 1 – Introduction to the course &amp; student level check</p> <p>Week 2 – Unit 1. Introductions (formal and casual)</p> <p>Week 3 – Unit 1. Introductions (formal and casual)</p> <p>Week 4 – Unit 2. Starting conversations</p> <p>Week 5 – Unit 2. Starting conversations</p> <p>Week 6 – Unit 3. Keeping a conversation going</p> <p>Week 7 – Unit 3. Keeping a conversation going</p> <p>Week 8 – Unit 4. Suggestions and invitations</p> <p>Week 9 – Unit 4. Suggestions and invitations</p> <p>Week 10 – Unit 4. Suggestions and invitations</p> <p>Week 11 – Review Unit 1. Review</p> <p>Week 12 - Review Unit 1. Review</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Ireland, Murphy, Woollerton (2006) <i>The English Course</i> , 2 <sup>nd</sup> Ed. Tokyo: The English Company.		Students will be graded on attendance – 30% (30%); class work – 40% and homework – 30%.	

02年度以前	英語(上級)	担当者	M. ウーラートン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course is a continuation from Semester 1.</p> <p>The aim of this course is to develop students speaking skills and improve their listening. This class is for lower intermediate level students.</p> <p>For each topic, students will watch 4 short video conversations on DVD and answer listening questions as well as doing a lot of speaking practice. Students will study the useful language for each topic and then develop their own conversations. All of the situations and skills will be useful for students realistic communication needs. The situations are an equal mixture of social, school and business situations. Students will hear English spoken by people from several different countries with many different accents. There will also be a game-based speaking activity for each topic.</p> <p>Students will work with a partner, in small groups or with the whole class.</p> <p>There will be a web site for students to use to do extra work in their own time.</p>		<p>Week 1 – Semester 2 starting activities</p> <p>Week 2 – Unit 5. Likes &amp; dislikes; emotions &amp; feelings</p> <p>Week 3 – Unit 5. Likes &amp; dislikes; emotions &amp; feelings</p> <p>Week 4 – Unit 5. Likes &amp; dislikes; emotions &amp; feelings</p> <p>Week 5 – Unit 6. Making &amp; responding to requests</p> <p>Week 6 – Unit 6. Making &amp; responding to requests</p> <p>Week 7 – Unit 7. Giving &amp; responding to opinions</p> <p>Week 8 – Unit 7. Giving &amp; responding to opinions</p> <p>Week 9 – Unit 8. Asking for, giving &amp; listening to advice</p> <p>Week 10 – Unit 8. Asking for, giving &amp; listening to advice</p> <p>Week 11 – Review Unit 2. Review</p> <p>Week 12 - Review Unit 2. Review</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Ireland, Murphy, Woollerton (2006) <i>The English Course</i> , 2 <sup>nd</sup> Ed. Tokyo: The English Company.		Students will be graded on attendance – 30% (30%); class work – 40% and homework – 30%.	

02年度以前	英語(上級)	担当者	M. フッド
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>At the end of this term, students will be able to:</p> <p>Communicate in English about a variety of interesting cultural, political, and social topics;</p> <p>Express their own ideas about these topics;</p> <p>Engage other students to elicit their ideas on these topics.</p> <p>This course is designed to develop students productive vocabulary, listening comprehension, and confidence in using English in a variety of situations.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Each week, we will discuss a different topic, many of which will be chosen by students who will lead the discussion. At several times throughout the term, students will make presentations on their topics. There will also be frequent vocabulary quizzes and tasks to be completed outside of class.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>There are no textbooks for this class. Materials will be available at <a href="http://mikehoodenglish.com">mikehoodenglish.com</a></p>		<p>Grades will be determined based on participation, presentations, quizzes, and homework assignments.</p>	

02年度以前	英語(上級)	担当者	M. フッド
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This term, we will continue practicing and developing the skills learned in the first term</p> <p>At the end of this term, students will be able to:</p> <p>Conduct library research independently;</p> <p>Support their own ideas in spoken English</p> <p>Present their ideas effectively to their classmates.</p>		<p>Each week, we will discuss a different topic, many of which will be chosen by students who will lead the discussion. At several times throughout the term, students will make presentations on their topics. There will also be frequent vocabulary quizzes and tasks to be completed outside of class.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>There are no textbooks for this class. Materials will be available at <a href="http://mikehoodenglish.com">mikehoodenglish.com</a></p>		<p>Grades will be determined based on participation, presentations, quizzes, and homework assignments.</p>	



02年度以前	英語(上級)	担当者	T.Fotos
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course is for intermediate to more advanced level English students. The actual content and difficulty of the lessons will be decided after a level test and short interviews of the prospective students have been administered in the first couple of class meetings.</p> <p>The stress will be on speaking and listening. There will be some outside research required of the students on topics ranging from business to world events. Presentations or speeches will be expected of all students in addition to the usual requirements of actively participating in the small group discussions and doing one's assignments in a timely and careful manner.</p> <p>Some video may be used to supplement the regular handouts and student-selected topics.</p> <p>It is expected that those in the course will devote some time outside of class to practicing English. Just attending the lessons won't do the trick. Any seniors enrolled in the course will have to do extra assignments and reports to compensate for absences due to job-hunting activities.</p>		<p>Week 1 Explanation meeting, level test, and student self-introductions.</p> <p>Weeks 2 –10 There will be various topics to be covered that will be announced during the course.</p> <p>Week 11 Last set of student presentation and review.</p> <p>“ 12 Final one-to-one interview for the term</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook is planned at this time. There will be handouts and student—decided research topics that will be used.		There will be continuous assessment and advice to the students. Presentations are important as well as doing one's best in class activities.	

02年度以前	英語(上級)	担当者	T. Fotos
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
Please refer to the explanation for the spring semester.		<p>Week 1 Introduction if necessary. Last summer presentation.</p> <p>Weeks 2 – 10 Various topics will be studied with appropriate handouts that will be announced during the semester.</p> <p>Week 11 Last student presentation and review.</p> <p>“ 12 Final one-to-one interviews</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Refer to the spring semester.		Refer to the spring semester.	

02年度以前	英語(上級)	担当者	笠原 誠也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>各ユニットごとに文法上のテーマが決まっており、そのテーマに沿って構文を作成してもらおうという趣向のテキストを使用する。構文は概して平易であるため、英作に特に長じていなくても作業に特に支障を来たすことはないことと思う。基本英文法の確認を頻繁に行いつつ英作の作業を進めるため、既習文法の復習も兼ねることができる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動詞</li> <li>2. 形容詞・副詞</li> <li>3. 助動詞 (1)</li> <li>4. 助動詞 (2)</li> <li>5. 助動詞 (3)</li> <li>6. How</li> <li>7. What</li> <li>8. 主語 it</li> <li>9. 主語 I</li> <li>10. 主語 you</li> <li>11. 総復習</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
小中秀彦編著『話すための英語構文 139』 青踏社		出席、小テスト、試験による	

02年度以前	英語(上級)	担当者	笠原 誠也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>各ユニットごとに文法上のテーマが決まっており、そのテーマに沿って構文を作成してもらおうという趣向のテキストを使用する。構文は概して平易であるため、英作に特に長じていなくても作業に特に支障を来たすことはないことと思う。基本英文法の確認を頻繁に行いつつ英作の作業を進めるため、既習文法の復習も兼ねることができる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動詞・副詞・前置詞</li> <li>2. To 不定詞、動詞の原型</li> <li>3. 動名詞</li> <li>4. 分詞</li> <li>5. 否定詞</li> <li>6. 冠詞</li> <li>7. 接続詞</li> <li>8. 副詞句</li> <li>9. 前置詞・名詞</li> <li>10. If</li> <li>11. 総復習</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
小中秀彦編著『話すための英語構文 139』 青踏社		出席、小テスト、試験による	

02年度以前	英語(上級)	担当者	佐々木 恵理
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業ではさまざまな社会問題について学びながら、「何を感じ、考え、それを自分のことばでどう表現するか」に重点を置きたいと思います。どのようにすれば問題を解決できるのかについて、自分の意見をもてるようになることが最終的な目標です。もちろん英語の授業なので、語彙を増やし、文法の確認をしながら読解力をつけてゆきます。</p> <p>毎回テキストを精読し、適宜、練習問題を解いてゆきます。春学期でテキストの前半6項目（授業計画に各項目の仮訳をつけてみたので参照のこと）を読み終える予定です。テーマごとに具体的な説明を加え、新聞記事を読んだりビデオを見たりして理解を深めたいと思います。受講人数にもよりますが、発表や小レポートも考えています。</p>		<p>1 初回のガイダンス Chapter 1: Peeping on the Royal Family (イギリスの王室を覗き見する)</p> <p>2 Exercise</p> <p>3 Chapter 2: America's Gun Culture (アメリカの銃社会)</p> <p>4 Exercise</p> <p>5 Chapter 3: Sexual Harassment (セクシュアル・ハラスメント)</p> <p>6 Exercise</p> <p>7 Chapter 4: Magic's Fight Against AIDS (エイズと闘うマジック・ジョンソン)</p> <p>8 Exercise</p> <p>9 Chapter 5: Racism and Rodney King (人種差別とロドニー・キング事件)</p> <p>10 Exercise</p> <p>11 Chapter 6: Murder or Mercy Killing? (殺人、それとも安楽死?)</p> <p>12 Exercise</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><i>Freedom, Rights and Responsibility</i> Norma Reveler、根間弘海著（金星堂）</p>		<p>試験、平常点（発表など）、および出席による。ただし、総授業数の3分の1を欠席すると自動的にFの評価となる。遅刻は30分しか認めないのですぐに申し出ること。</p>	

02年度以前	英語(上級)	担当者	佐々木 恵理
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業ではさまざまな社会問題について学びながら、「何を感じ、考え、それを自分のことばでどう表現するか」に重点を置きたいと思います。どのようにすれば問題を解決できるのかについて、自分の意見をもてるようになることが最終的な目標です。もちろん英語の授業なので、語彙を増やし、文法の確認をしながら読解力をつけてゆきます。</p> <p>毎回テキストを精読し、適宜、練習問題を解いてゆきます。秋学期でテキストの後半6項目（授業計画に各項目の仮訳をつけてみたので参照のこと）を読み終える予定です。テーマごとに具体的な説明を加え、新聞記事を読んだりビデオを見たりして理解を深めたいと思います。受講人数にもよりますが、発表や小レポートも考えています。</p>		<p>1 初回のガイダンス Chapter 7: Dealing Drugs (麻薬取引)</p> <p>2 Exercise</p> <p>3 Chapter 8: Steroids in Sports (スポーツ界のステロイド使用)</p> <p>4 Exercise</p> <p>5 Chapter 9: Violence on Television (テレビの中の暴力シーン)</p> <p>6 Exercise</p> <p>7 Chapter 10: The Abortion Debate (中絶問題)</p> <p>8 Exercise</p> <p>9 Chapter 11: Greenpeace Protests (グリーンピースの抗議行動)</p> <p>10 Exercise</p> <p>11 Chapter 12: A Fight for Human Rights (人権獲得への闘い)</p> <p>12 Exercise</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><i>Freedom, Rights and Responsibility</i> Norma Reveler、根間弘海著（金星堂）</p>		<p>試験、平常点（発表など）、および出席による。ただし、総授業数の3分の1を欠席すると自動的にFの評価となる。遅刻は30分しか認めないのですぐに申し出ること。</p>	

02年度以前	英語(上級)	担当者	佐藤 保																																																																								
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>																																																																									
<p>できる限り身近な内容のものを選んだので、技術に専門でない人にも容易に理解できます。</p> <p>担当教員自身も文科系出身である (Master of Arts) が、技術翻訳には 20 年以上の経験を持っており、実務翻訳就職希望者 (part-time, permanent job いづれの場合も) の相談には、大いに応じたいと思っています (例えば、昼休み (308 教室) や、時には課外 (居酒屋、等) で)。</p>		<table border="0"> <tr><td>1.</td><td>MINIATURIZATION</td><td>10</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>11</td></tr> <tr><td>2.</td><td>WHY IS TEMPERTURE RISING?</td><td>12</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>13</td></tr> <tr><td>3.</td><td>WHAT MAKES AN ATMOSPHERE?</td><td>14</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>15</td></tr> <tr><td>4.</td><td>THE SURFACE OF THE SEA</td><td>16</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>17</td></tr> <tr><td>5.</td><td>HOW TO REMOVE SALT FROM SEAWATER</td><td>18</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>19</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>20</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>21</td></tr> <tr><td>6.</td><td>THE PURPOSES OF TVA</td><td>22</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>23</td></tr> <tr><td>7.</td><td>INDUSTRIAL POLLUTION</td><td>24</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>25</td></tr> <tr><td>8.</td><td>BATTERY AND CURRENT FLOW</td><td>26</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>27</td></tr> <tr><td>9.</td><td>BELL SYSTEM</td><td>28</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>29</td></tr> <tr><td>10.</td><td>THE OPERATION OF THE ELECTRIC EYE</td><td>30</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>31</td></tr> <tr><td>11.</td><td>ULTRASONICS</td><td>32</td></tr> <tr><td>12.</td><td>Etc.</td><td></td></tr> </table>		1.	MINIATURIZATION	10		Exercise	11	2.	WHY IS TEMPERTURE RISING?	12		Exercise	13	3.	WHAT MAKES AN ATMOSPHERE?	14		Exercise	15	4.	THE SURFACE OF THE SEA	16		Exercise	17	5.	HOW TO REMOVE SALT FROM SEAWATER	18		Exercise	19			20		Exercise	21	6.	THE PURPOSES OF TVA	22		Exercise	23	7.	INDUSTRIAL POLLUTION	24		Exercise	25	8.	BATTERY AND CURRENT FLOW	26		Exercise	27	9.	BELL SYSTEM	28		Exercise	29	10.	THE OPERATION OF THE ELECTRIC EYE	30		Exercise	31	11.	ULTRASONICS	32	12.	Etc.	
1.	MINIATURIZATION	10																																																																									
	Exercise	11																																																																									
2.	WHY IS TEMPERTURE RISING?	12																																																																									
	Exercise	13																																																																									
3.	WHAT MAKES AN ATMOSPHERE?	14																																																																									
	Exercise	15																																																																									
4.	THE SURFACE OF THE SEA	16																																																																									
	Exercise	17																																																																									
5.	HOW TO REMOVE SALT FROM SEAWATER	18																																																																									
	Exercise	19																																																																									
		20																																																																									
	Exercise	21																																																																									
6.	THE PURPOSES OF TVA	22																																																																									
	Exercise	23																																																																									
7.	INDUSTRIAL POLLUTION	24																																																																									
	Exercise	25																																																																									
8.	BATTERY AND CURRENT FLOW	26																																																																									
	Exercise	27																																																																									
9.	BELL SYSTEM	28																																																																									
	Exercise	29																																																																									
10.	THE OPERATION OF THE ELECTRIC EYE	30																																																																									
	Exercise	31																																																																									
11.	ULTRASONICS	32																																																																									
12.	Etc.																																																																										
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>																																																																									
<p>科学技術英語の基礎 (南雲堂)</p> <p>実務翻訳ガイド 2006 年度版 (アルク社)</p>		<p>(平常点) 5 点 × □ (回) = □ 点</p> <p>(定期試験) 15 点 × 6 (問) = 90 点</p>																																																																									

02年度以前	英語(上級)	担当者	佐藤 保																																																																														
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>																																																																															
同上		<table border="0"> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>33</td></tr> <tr><td>1.</td><td>ELECTRIC FUNACE</td><td>34</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>35</td></tr> <tr><td>2.</td><td>TELEVISION – HOW THE PICTURE IS TELECAST</td><td>36</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>37</td></tr> <tr><td>3.</td><td>ELECTRONIC COMPUTERS</td><td>38</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>39</td></tr> <tr><td>4.</td><td>THE BRAIN IN SPACE</td><td>40</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>41</td></tr> <tr><td>5.</td><td>ROCKETS</td><td>42</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>43</td></tr> <tr><td>6.</td><td>ORBIT OF A SATELLITE</td><td>44</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>45</td></tr> <tr><td>7.</td><td>IMP SATELLITES AND SOLAR WIND</td><td>46</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>47</td></tr> <tr><td>8.</td><td>AN ELECTRONIC HIGHWAY</td><td>48</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>49</td></tr> <tr><td>9.</td><td>MULTIDIRECTIONALLY STRETCHABLE PAPER</td><td>50</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>51</td></tr> <tr><td>10.</td><td>PLASTICS</td><td>52</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>53</td></tr> <tr><td>11.</td><td>ARTIFICIAL FIBERS</td><td>54</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>55</td></tr> <tr><td>12.</td><td>TENSILE STRENGTH</td><td>56</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>57</td></tr> <tr><td></td><td>ELECTRICITY IN THE HOME</td><td>58</td></tr> </table>			Exercise	33	1.	ELECTRIC FUNACE	34		Exercise	35	2.	TELEVISION – HOW THE PICTURE IS TELECAST	36		Exercise	37	3.	ELECTRONIC COMPUTERS	38		Exercise	39	4.	THE BRAIN IN SPACE	40		Exercise	41	5.	ROCKETS	42		Exercise	43	6.	ORBIT OF A SATELLITE	44		Exercise	45	7.	IMP SATELLITES AND SOLAR WIND	46		Exercise	47	8.	AN ELECTRONIC HIGHWAY	48		Exercise	49	9.	MULTIDIRECTIONALLY STRETCHABLE PAPER	50		Exercise	51	10.	PLASTICS	52		Exercise	53	11.	ARTIFICIAL FIBERS	54		Exercise	55	12.	TENSILE STRENGTH	56		Exercise	57		ELECTRICITY IN THE HOME	58
	Exercise	33																																																																															
1.	ELECTRIC FUNACE	34																																																																															
	Exercise	35																																																																															
2.	TELEVISION – HOW THE PICTURE IS TELECAST	36																																																																															
	Exercise	37																																																																															
3.	ELECTRONIC COMPUTERS	38																																																																															
	Exercise	39																																																																															
4.	THE BRAIN IN SPACE	40																																																																															
	Exercise	41																																																																															
5.	ROCKETS	42																																																																															
	Exercise	43																																																																															
6.	ORBIT OF A SATELLITE	44																																																																															
	Exercise	45																																																																															
7.	IMP SATELLITES AND SOLAR WIND	46																																																																															
	Exercise	47																																																																															
8.	AN ELECTRONIC HIGHWAY	48																																																																															
	Exercise	49																																																																															
9.	MULTIDIRECTIONALLY STRETCHABLE PAPER	50																																																																															
	Exercise	51																																																																															
10.	PLASTICS	52																																																																															
	Exercise	53																																																																															
11.	ARTIFICIAL FIBERS	54																																																																															
	Exercise	55																																																																															
12.	TENSILE STRENGTH	56																																																																															
	Exercise	57																																																																															
	ELECTRICITY IN THE HOME	58																																																																															
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>																																																																															
同上		同上																																																																															

02 年度以前	英語(上級)	担当者	松岡 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本コースでは、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人に伝えることを目的としたライティングの練習を行う。</li> <li>2) 従って、書いたものは必ずクラスで発表する。</li> <li>3) このため、書くことに加えて、プレゼンテーション(発表)の技術も並行して学習する。</li> <li>4) 授業はプロジェクト形式(個人とグループ)で行い、コースを通して3つの課題に取り組む予定。</li> <li>5) ITをフルに活用できるように、授業はコンピュータ室で行う。</li> </ol> <p>nbmatsuoka@ybb.ne.jp</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コース紹介: Writing と Presentation</li> <li>2. Presentationの構成と方法 / PowerPointの使い方</li> <li>3. Project 1: Why Not Marry Me? (個人: 準備)</li> <li>4. Project 1: Why Not Marry Me? (個人: 発表)</li> <li>5. Project 2: News Casting (グループ: 準備)</li> <li>6. Project 2: News Casting (グループ: 準備)</li> <li>7. Project 2: News Casting (グループ: 発表)</li> <li>8. Project 3: Why Not Take Our Summer Plan? (グループ: 準備)</li> <li>9. Project 3: Why Not Take Our Summer Plan? (グループ: 準備)</li> <li>10. Project 3: Why Not Take Our Summer Plan? (グループ: 発表)</li> <li>11. Project 3: Why Not Take Our Summer Plan? (グループ: 発表)</li> <li>12. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布		プレゼンテーション(3回)で評価	

02 年度以前	英語(上級)	担当者	松岡 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本コースは、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) English 121-a Composition の講義目的を引き継ぎ、</li> <li>2) それをさらに応用、発展させるものである。</li> <li>3) コースを通して2つの課題に取り組む予定である。</li> <li>4) また、並行して、個人が英文ブログを作り、英語を書くことを日常化していくと同時に、WEB上の国際交流を行う。</li> </ol> <p>nbmatsuoka@ybb.ne.jp</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後期の授業予定、前期の復習</li> <li>2. Project 4: How Do Foreigners See Japan? (グループ: 準備: 企画)</li> <li>3. Project 4: How Do Foreigners See Japan? (グループ: 準備: 取材)</li> <li>4. Project 4: How Do Foreigners See Japan? (グループ: 準備: 編集)</li> <li>5. Project 4: How Do Foreigners See Japan? (グループ: 準備: リハ)</li> <li>6. Project 4: How Do Foreigners See Japan? (グループ: 発表)</li> <li>7. Project 4: How Do Foreigners See Japan? (グループ: 発表)</li> <li>8. Project 5: My Future Plan (個人: 準備)</li> <li>9. Project 5: My Future Plan (個人: 準備)</li> <li>10. Project 5: My Future Plan (個人: 発表)</li> <li>11. Project 5: My Future Plan (個人: 発表)</li> <li>12. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布		プレゼンテーション(2回)とブログ・レポートで評価	

02 年度以前	英語(上級)	担当者	石月 正伸
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、英語の必要不可欠な文法事項を再確認する必要性を感じている、TOEIC のスコアが、400～500 の学生を対象としています。</p> <p>授業では主として次の2つのことをします</p> <p>①「文法の復習とともに、1 センテンスレベルの英文が確実に書けるように配慮した」テキストを用いて、文法事項の再確認と、英文の構造を理解しながらセンテンスを組み立てる(書く)練習をします。英文は、どれも BASIC なものばかりです。</p> <p>②テキストと平行して、(日本語文を含む) 課題作文を書く練習(提出+添削+書き直し)を数回します。その際、センテンス自体の良し悪しよりも、内容の良し悪しに重点をおく、英語の表現力不足を内容で補うという書き方を前提とします。また、レポートには、レポート点の対象になるものとならないものがありますが、レポートのできの良し悪しが、評価に直接反映されることはありませんので心配無用です。あくまでも練習です。</p> <p>詳しくは、ガイダンスで述べます。</p>		<p>テキストと平行して、作文指導や課題作文の評価などを行います。</p> <p>以下の内容は、大まかな進行予定です。進行状況にズレが生ずる可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 第1章</li> <li>3 作文指導(+プリント)</li> <li>4 第2章</li> <li>5 第3章</li> <li>6 第4章</li> <li>7 第5章</li> <li>8 第1回テスト(範囲: 1～4) + 作文指導</li> <li>9 第6章</li> <li>10 第7章</li> <li>11 第8章</li> <li>12 まとめ+第2回テスト(範囲: 5～8)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
山内・赤楚・北林著『文法から攻める英作文のための15章』、英宝社		レポート点 + 授業時の発表点 + 授業時のテスト 評価に対応する欠席限度回数を次の通りとします: AA・A: 2回 B: 3回 C: 4回	

02 年度以前	英語(上級)	担当者	石月 正伸
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業方針は春学期と同じです。テキストは春学期の続きです。課題作文に関しては、春学期の内容を踏まえ、更にそれを発展させることを目指します</p>		<p>テキストと平行して、作文指導や課題作文の評価などを行います。</p> <p>以下の内容は、大まかな進行予定です。進行状況にズレが生ずる可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 第9章</li> <li>3 作文指導(+プリント)</li> <li>4 第10章</li> <li>5 第11章</li> <li>6 第12章</li> <li>7 第13章</li> <li>8 第1回テスト(範囲: 9～12) + 作文指導</li> <li>9 第14章</li> <li>10 第15章</li> <li>11 作文指導(+プリント)</li> <li>12 まとめ+第2回テスト(範囲: 13～15)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
山内・赤楚・北林著『文法から攻める英作文のための15章』、英宝社		レポート点 + 授業時の発表点 + 授業時のテスト 評価に対応する欠席限度回数を次の通りとします: AA・A: 2回 B: 3回 C: 4回	

02年度以前	英語(上級)	担当者	大田原 眞澄
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>インターネット上で読める Newsweek の international edition から、日本の学生にも興味を持てる、そして内容も英語の文章もさほど難しくない最新の記事を選んで読んでいきます。できれば受講生の関心を考慮して毎週の課題を決めていきたいと思しますので、積極的に要望を出してください。政治経済だけでなく、スポーツ・芸術・健康・科学など現代世界の新鮮なニュースに英語で接するおもしろさを味わえたらと願っています。</p> <p>下記サイト参照  <a href="http://www.msnbc.msn.com/id/3037881/site/newsweek/">http://www.msnbc.msn.com/id/3037881/site/newsweek/</a></p>		<p>最初に“The New Rich-Rich Gap”という記事のプリントを読みます。その後は2～3週間にひとつのペースで読み進めます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
		定期試験と出席、小テストで評価。	

02年度以前	英語(上級)	担当者	大田原 眞澄
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>インターネット上で読める Newsweek の international edition から、日本の学生にも興味を持てる、そして内容も英語の文章もさほど難しくない最新の記事を選んで読んでいきます。できれば受講生の関心を考慮して毎週の課題を決めていきたいと思しますので、積極的に要望を出してください。政治経済だけでなく、スポーツ・芸術・健康・科学など現代世界の新鮮なニュースに英語で接するおもしろさを味わえたらと願っています。</p> <p>下記サイト参照  <a href="http://www.msnbc.msn.com/id/3037881/site/newsweek/">http://www.msnbc.msn.com/id/3037881/site/newsweek/</a></p>		<p>2～3週間に1記事のペースで読み進めます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
		定期試験と出席、小テストで評価。	

02年度以前	英語(上級)	担当者	堀 いづみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>文を作るための基礎的な授業です。身の回りの事柄について、自分の考えを適切に表現できるようになることが目的です。</p> <p>そこで、授業では、次の2つのことを中心に行います。</p> <p>①テーマに沿って適した表現方法を身につけること。②英作文でよく使用される構文を知ること。(この構文は、次回の授業で小テストとして出されます。)</p>		<p>1. 英作文の構造について</p> <p>2～11. テーマに沿った文の練習及び小テスト</p> <p>12. まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Write What You Mean (成美堂)		授業参加度、小テスト、学期末試験によります。	

02年度以前	英語(上級)	担当者	堀 いづみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>文を作るための基礎的な授業です。身の回りの事柄について、自分の考えを適切に表現できるようになることが目的です。</p> <p>そこで、授業では、次の2つのことを中心に行います。</p> <p>①テーマに沿って適した表現方法を身につけること。②英作文でよく使用される構文を知ること。(この構文は、次回の授業で小テストとして出されます。)</p>		<p>1.～11. テーマに沿った文の練習及び小テスト</p> <p>12. まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Write What You Mean (成美堂)		授業参加度、小テスト、学期末試験によります。	



02年度以前	英語(上級)	担当者	高木 亜希子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英文で自己表現をするにあたり、英語の論理構造を踏まえ、英文をパラグラフ単位で書く力を養成します。英文を書くことに慣れるために身近な話題を題材とし、アイデアのまとめ方、下書き、改訂、校正とステップを踏んでライティング能力を身につけていきます。</p> <p>クラスメートの下書きを読み合うことで、より良い英文の完成を目指すとともに、ペア活動やグループ活動を多く取り入れ、多様な視点を学びます。</p> <p>皆さんの意見を授業になるべく取り入れ、興味のある話題について伸び伸びと英文を書いてもらうことで、楽しく英語で自己表現する力を身につけてほしいと考えます。</p>		<p>取り上げる題材は、受講者の皆さんと相談して決定する予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. About me</li> <li>2. Career consultant</li> <li>3. A dream come true</li> <li>4. Invent</li> <li>5. It changed my life</li> <li>6. Exciting destination</li> <li>7. Research interview</li> <li>8. The power interview</li> <li>9. Personal goals</li> <li>10. Architect</li> <li>11. My role models</li> <li>12. Be a reporter</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
「Writing from Within」 (Cambridge University Press)		出席、授業態度、ライティング課題、Journal で総合評価。	

02年度以前	英語(上級)	担当者	高木 亜希子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期で学習した英文による自己表現能力を発展させ、様々な形で自分の意見を発信することで、他者と積極的にコミュニケーションする能力を育成します。</p> <p>コンピューターを活用し、実生活に役立つスキルを身につけながら、クラスメートのみならず、世界の人々と英語でコミュニケーションを行います。また、書いた意見を人に伝えるために、パワーポイントを用いてプレゼンテーションをしたり、英文ホームページの作成を行います。</p> <p>コンピューターソフトの使用経験の有無は問わず、基礎から指導しますので、心配しないで受講してください。</p>		<p>下記の項目を取り上げる予定ですが、具体的な内容や進度については、受講生の皆さんと相談して決定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英文メールの書き方</li> <li>2. チャット</li> <li>3. メーリングリスト</li> <li>3. グリーティングカード</li> <li>4. E-pal 交流</li> <li>5. PowerPoint を用いたプレゼンテーション</li> <li>6. 英文ホームページ作成</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜プリントを配布。		出席、授業態度、課題、Journal で総合評価。	

春学期完結	上級ドイツ語特殊演習 ドイツ思想・芸術特殊講読 ドイツ史・社会特殊講義 ドイツ史・社会特殊講読	担当者	H. ルップ
講義目的、講義概要		授業計画	
H. ルップ先生の授業科目は、それぞれの初回授業で説明があります。		〃	
テキスト、参考文献		評価方法	
〃		〃	

**2006年度**

# **外国語学部共通科目シラバス**

**(2003年度以降入学生用)**

【2002年度以前入学生用】の外国語学部共通科目は  
『全学共通授業科目シラバス』に掲載しています

学則別表 (2003年度以降入学者)

科目群	科目	単位
外国語学部共通科目	総合講座	2
	情報科学概論a	2
	情報科学概論b	2
	情報科学各論	2
	経済原論a	2
	経済原論b	2
	社会心理学a	2
	社会心理学b	2

○ 本表は、2003年度入学者から適用する。

# 外国語学部共通科目（2003年度以降入学生用）

※ほとんどの科目はオンライン抽選が行われます。  
各学科の「授業時間割表」で抽選方法や定員などを確認してください。

## 目次

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
07690	総合講座	青山 愛香	春	水3	2	1	経・法	1
07691	総合講座	木村 佐千子	秋	水3	2	1	経・法	1
00220	情報科学概論a	呉 浩東	春	金1	2	1	経・法	2
00221	情報科学概論b	呉 浩東	秋	金1	2	1	経・法	2
	情報科学各論(入門)	各担当教員			2	1	経・法	3
00138		長崎 等	春	月1				
00058		金子 憲一	春	月4				
00068		金子 憲一	春	月5				
00074		田中 雅英	春	火1				
00093		田中 雅英	春	火2				
00208		内田 俊郎	春	木4				
00253		松山 恵美子	春	金2				
	情報科学各論(初級—表計算入門)	各担当教員			2	1	経・法	4
00044		金子 憲一	春	月3				
00109		田中 雅英	春	火3				
09040		二宮 哲	春	水1				
00184		内田 俊郎	春	木2				
00255		松山 恵美子	春	金3				
00141		長崎 等	秋	月1				
00070		金子 憲一	秋	月5				
00076		田中 雅英	秋	火1				
00019		呉 浩東	秋	水2				
00193		内田 俊郎	秋	木2				
09037		内田 俊郎	秋	木3				
00231		松山 恵美子	秋	金2				
00201	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	金井 満	春	火2	2	1	経・法	5
00202	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	金井 満	秋	火2	2	1	経・法	5
	情報科学各論(初級—HTML入門)	各担当教員			2	1	経・法	6
00021		呉 浩東	春	水2				
00195		内田 俊郎	春	木3				
00060		金子 憲一	秋	月4				
00096		田中 雅英	秋	火2				
00131		二宮 哲	秋	水1				
00210		内田 俊郎	秋	木4				
00239	情報科学各論(中級—表計算応用1)	松山 恵美子	秋	金3	2	1	経・法	7
09305	情報科学各論(中級—表計算応用1)	松山 恵美子	春	金4	2	1	経・法	7
09308	情報科学各論(中級—表計算応用2)	松山 恵美子	秋	金4	2	1	経・法	8
00048	情報科学各論(中級—HTML応用1)	金子 憲一	秋	月3	2	1		9
00111	情報科学各論(中級—HTML応用1)	田中 雅英	秋	火3	2	1		10
00156	情報科学各論(中級—データベース1)	長崎 等	春	月2	2	1		11
00158	情報科学各論(中級—データベース2)	長崎 等	秋	月2	2	1		11
00172	情報科学各論(中級—プログラミング論1)	呉 浩東	春	月2	2	2	言	12
00191	情報科学各論(中級—プログラミング論2)	呉 浩東	秋	月2	2	2	言	12
00087	経済原論a	野村 容康	春	火1	2	1	経・法	13
00088	経済原論b	野村 容康	秋	火1	2	1	経・法	13
00055	社会心理学a	田口 雅徳	春	火4	2	1		14
00056	社会心理学b	田口 雅徳	秋	火4	2	1		14

03年度以降	総合講座	担当者	青山 愛香 (コーディネータ)
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期は、「都市と藝術」と題して、ヨーロッパならびにアジアを代表する都市と、その都市を中心に展開した藝術について考察します。</p> <p>9名の講師がオムニバス形式で、幅広い時代の芸術作品を紹介します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 青山愛香 (本学専任講師) はじめに</li> <li>2 青山愛香 「ニュルンベルク」</li> <li>3 諏訪功 (一橋大学名誉教授) 「ウィーン①」</li> <li>4 増谷英樹 (本学特任教授) 「ウィーン②」</li> <li>5 加藤磨珠枝 (東京藝術大学非常勤講師) 「ローマ」</li> <li>6 K. O. パイスヴェンガー (本学助教授) 「ドレスデン①」</li> <li>7 酒井府 (本学名誉教授) 「ミュンヘン①」</li> <li>8 片山まび (大阪市立東洋陶磁美術館) 「東アジアの都市」</li> <li>9 I. アルブレヒト (本学教授) 「ドナウ河流域の都市」</li> <li>10 酒井府 「ミュンヘン②」</li> <li>11 佐藤直樹 (国立西洋美術館主任研究官) 「ドレスデン②」</li> <li>12 青山愛香 まとめ</li> </ol> <p>※ 講師の都合により日程に変更がある場合があります</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中に指示する。		学期末試験に平常点を加味した総合評価	

03年度以降	総合講座	担当者	木村 佐千子 (コーディネータ)
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ーヨーロッパの都市や地域と音楽ー</p> <p>この総合講座では、各回に1つのヨーロッパの都市や地域に焦点をあて、その都市や地域の概要を知っていただくと同時に、その地にまつわる音楽に親しんでいただきたいと思います。</p> <p>この講座は、オムニバス形式で行われます。各回の担当者が、とりあげる都市や地域とその地にまつわる音楽について、映像資料や録音資料、生演奏を用いて、なるべく分かりやすくお話しします。担当者の専門によって、都市論が中心になったり、文学や民俗に重点が置かれたり、音楽史的なことを中心にお話ししたり、変化に富む講義内容となる予定です。それにより、受講者のみなさんの視野が広がるよう願っています。</p> <p>注意事項：授業中に音楽をお聴かせしますので、絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講者の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。もちろん、質問等での発言は歓迎です。積極的な参加を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本学ドイツ語学科専任講師 木村佐千子 「ヴェネツィア」</li> <li>2 ヴァイオリン奏者 (本学卒業生) 樋口ゆみ 「ヨーロッパのヴァイオリン音楽」 (お話と演奏) (小講堂で実施する予定)</li> <li>3 木村佐千子 「ヴィーン」</li> <li>4 本学ドイツ語学科助教授 Kirsten Beißwenger 「ドレスデン」</li> <li>5 本学ドイツ語学科教授 渡部重美 「ヴァイマル」</li> <li>6 渡部重美 「ベルリン」</li> <li>7 本学フランス語学科非常勤講師 松橋麻利 「パリ」</li> <li>8 本学ドイツ語学科教授 下川浩 「デュッセルドルフとハンブルク ～ハイネ＝シューマン没後 150年に寄せて」</li> <li>9 木村佐千子 「スペイン」</li> <li>10 東京藝術大学名誉教授 角倉一朗 「ライブツィヒ」</li> <li>11 東京音楽大学教授 岡田敦子 「ペテルブルク～ロシアにおける西洋音楽の導入と、西洋音楽のロシア化」 (お話とピアノ演奏) (小講堂で実施する予定)</li> <li>12 木村佐千子 「ロンドン」</li> </ol> <p>※各回のタイトルは、大雑把な内容をお伝えするための仮のものです。 ※内容や担当者は変更となる場合があります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		学期末試験の結果に平常点を加味した総合評価。各回の終わりに意見・感想を記してもらいます。	

03 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するというのではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。これは、情報が多大で多様な価値をもつ情報社会に生きる個人としてもっとも重要な能力である。</p> <p>本講義では、(1) 情報に関する基本的な概念、(2) コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、(3) 情報システムに関する基礎的な素養、(4) 情報社会に関する基礎的な理解などを修得の目標とする。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムとの関係を概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に、情報の符号化、コンピュータ内のデータ表現、プログラム構造、アルゴリズムについて学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の概要と目標</li> <li>2 情報とは何か 情報の性質、情報の形態、情報の発達</li> <li>3 コンピュータの歴史と特徴 計算機械の変遷とコンピュータの世代論</li> <li>4 数の体系と基数変換 2進数と16進数、基数変換、2進数の演算</li> <li>5 コンピュータの論理回路とデータ表現</li> <li>6 コンピュータの構成要素(1) 中央処理装置(CPU)とメインメモリ</li> <li>7 コンピュータの構成要素(2) 2次記憶装置と周辺措置</li> <li>8 コンピュータ・ソフトウェアの概略 ソフトウェアの役割、体系と種類</li> <li>9 オペレーティングシステム(OS) OSの基礎概念、OSの役割と原理</li> <li>10 コンピュータ言語 コンピュータ言語の分類と目的</li> <li>11 基本データ構造 配列構造、木構造、リスト構造、スタック構造</li> <li>12 アルゴリズム</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
山田啓一 『情報科学』 西日本法規出版		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。	

03 年度以降	情報科学概論 b	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するというのではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。これは、情報が多大で多様な価値をもつ情報社会に生きる個人としてもっとも重要な能力である。</p> <p>本講義では、(1) 情報に関する基本的な概念、(2) コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、(3) 情報システムに関する基礎的な素養、(4) 情報社会に関する基礎的な理解などを修得の目標とする。</p> <p>本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ファイルの構造 ファイルの種類と構造</li> <li>2 データベース データベースの概要、データベースの種類</li> <li>3 データベース管理システム(DBMS) DBMSの目的と構成</li> <li>4 データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化</li> <li>5 コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式</li> <li>6 インターネット インターネットの仕組み、通信規約TCP/IP、DNS</li> <li>7 インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど</li> <li>8 インターネットと社会 セキュリティ、暗号システム、電子認証</li> <li>9 マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、応用システム</li> <li>10 情報検索 情報検索の方法と演習</li> <li>11 言語処理における情報技術(演習)</li> <li>12 ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
山田啓一 『情報科学』 西日本法規出版 随時必要な資料を指示する。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。	

03年度以降	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。</p> <p><b>注意</b></p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>情報科学各論(初級・中級)科目群のいずれかをすでに履修済みの場合は、本科目を履修してはならない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作</li> <li>2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション</li> <li>3 日本語入力とタイピング</li> <li>4 インターネット—ブラウザ・メール・検索</li> <li>5 情報倫理</li> <li>6 ワードプロセッサとは</li> <li>7 文書の作成(1)</li> <li>8 文書の作成(2)</li> <li>9 文書の作成(3)</li> <li>10 文書への画像の挿入</li> <li>11 レポートの作成</li> <li>12 総合演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅰ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	



03年度以降	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p><b>注意</b></p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成</li> <li>3 表の編集、グラフの装飾、印刷</li> <li>4 計算式の利用</li> <li>5 ネットワークからのデータの収集・整理</li> <li>6 関数の利用(1)</li> <li>7 関数の利用(2)</li> <li>8 関数の利用(3)</li> <li>9 プレゼンテーション(1)－作成 (MS-POWERPOINTとは)</li> <li>10 プレゼンテーション(2)－作成(データの活用・まとめ)</li> <li>11 プレゼンテーション(3)－発表</li> <li>12 総合演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p><b>注意</b></p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成</li> <li>3 表の編集、グラフの装飾、印刷</li> <li>4 計算式の利用</li> <li>5 ネットワークからのデータの収集・整理</li> <li>6 関数の利用(1)</li> <li>7 関数の利用(2)</li> <li>8 関数の利用(3)</li> <li>9 プレゼンテーション(1)－作成 (MS-POWERPOINTとは)</li> <li>10 プレゼンテーション(2)－作成(データの活用・まとめ)</li> <li>11 プレゼンテーション(3)－発表</li> <li>12 総合演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降	情報科学各論（初級－プレゼンテーション）	担当者	金井 満
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一步踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要：</p> <p>この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアであるPowerpointを使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。</p> <p>ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. Powerpoint の基本操作 1</li> <li>3. Powerpoint の基本操作 2</li> <li>4. Powerpoint の基本操作 3</li> <li>5. 効果的なスライドとは</li> <li>6. プレゼンテーションの注意点</li> <li>7. プレゼンテーションの練習</li> <li>8. 個人プレゼンテーションの準備</li> <li>9. 個人プレゼンテーション</li> <li>10. 個人プレゼンテーション</li> <li>11. 個人プレゼンテーション</li> <li>12. 総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03年度以降	情報科学各論（初級－プレゼンテーション）	担当者	金井 満
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一步踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要：</p> <p>この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアであるPowerpointを使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。</p> <p>ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. Powerpoint の基本操作 1</li> <li>3. Powerpoint の基本操作 2</li> <li>4. Powerpoint の基本操作 3</li> <li>5. 効果的なスライドとは</li> <li>6. プレゼンテーションの注意点</li> <li>7. プレゼンテーションの練習</li> <li>8. 個人プレゼンテーションの準備</li> <li>9. 個人プレゼンテーション</li> <li>10. 個人プレゼンテーション</li> <li>11. 個人プレゼンテーション</li> <li>12. 総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03年度以降	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p><b>注意</b></p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2 WWW と LAN</li> <li>3 情報の単位と情報通信</li> <li>4 ハイパーテキストと HTML</li> <li>5 インターネットと情報倫理</li> <li>6 ページの構造と HTML</li> <li>7 ホームページの作成－テキスト</li> <li>8 ホームページの作成－イメージ</li> <li>9 ホームページの作成－リンク</li> <li>10 ホームページの作成－テーブル・その他</li> <li>11 ホームページの作成－完成</li> <li>12 ファイルの転送とページの更新</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p><b>注意</b></p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2 WWW と LAN</li> <li>3 情報の単位と情報通信</li> <li>4 ハイパーテキストと HTML</li> <li>5 インターネットと情報倫理</li> <li>6 ページの構造と HTML</li> <li>7 ホームページの作成－テキスト</li> <li>8 ホームページの作成－イメージ</li> <li>9 ホームページの作成－リンク</li> <li>10 ホームページの作成－テーブル・その他</li> <li>11 ホームページの作成－完成</li> <li>12 ファイルの転送とページの更新</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降	情報科学各論（中級一表計算応用1）	担当者	松山恵美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel の機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程において、計算式、関数、書式設定、コピーなど、同じ一連の操作を繰り返す必要がある場合、その処理内容を記録させることで、次回からボタンをクリックするだけで、即時に実行することが可能となる。</p> <p>簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で自動的に作成される VBA（Visual Basic for Application）プログラムの基礎を理解することを目標とする。</p> <p>初回の授業に、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスと Excel の復習</li> <li>2 マクロ機能とは</li> <li>3 関数と計算式を使ったマクロの作成（1）</li> <li>4 関数と計算式を使ったマクロの作成（2）</li> <li>5 マクロ用ボタンとマクロの連携</li> <li>6 第1回目課題作成</li> <li>7 VBA の利用—簡単なゲームの作成（1）</li> <li>8 VBA の利用—簡単なゲームの作成（2）</li> <li>9 第2回目課題作成</li> <li>10 最終課題作成（1）</li> <li>11 最終課題作成（2）</li> <li>12 最終課題作成（3）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
第1回目の授業で指示する。		平常点 50%（出席および課題提出）、定期試験 50%で総合評価をおこなう。	

03年度以降	情報科学各論（中級一表計算応用1）	担当者	松山恵美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期と同様。		春学期と同様。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期と同様。		春学期と同様。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	情報科学各論（中級一表計算応用2）	担当者	松山恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は情報科学各論（中級一表計算応用1）の単位を取得した学生を対象として行うものとする。</p> <p>情報科学各論（中級一表計算応用1）で学習した記録マクロから、VBA（Visual Basic for Application）をもう一歩踏み込んで理解することを目的とする。</p> <p>最終的には、情報科学各論（中級一表計算応用1）で作成したマクロをプログラミングすることで、汎用性のあるものへと完成させていく。</p> <p>初回の授業に、必ず出席すること。</p>		<p>1 ガイダンスと Excel マクロ機能の復習</p> <p>2 VBA とは（1）</p> <p>3 プログラミングの技法（1）</p> <p>4 プログラミングの技法（2）</p> <p>5 マクロ用ボタンとの連携</p> <p>6 第1回目課題作成</p> <p>7 プログラミングの技法（3）</p> <p>8 プログラミングの技法（4）</p> <p>9 第2回目課題作成</p> <p>13 最終課題作成（1）</p> <p>14 最終課題作成（2）</p> <p>12 最終課題作成（3）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の授業で指示する。		平常点 50%（出席および課題提出）、定期試験 50%で総合評価をおこなう。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級－HTML応用1）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTMLを用いたホームページ作成技術を習得した人（FTPの理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>講義の概要</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとイントロダクション</li> <li>2 HTMLとFTPの復習（1）</li> <li>3 HTMLとFTPの復習（2）</li> <li>4 インタラクティブなページ（HTMLとCGI）</li> <li>5 JavaScript（1）</li> <li>6 JavaScript（2）</li> <li>7 JavaScript（3）</li> <li>8 JavaScript（4）</li> <li>9 CGIの利用（1）</li> <li>10 CGIの利用（2）</li> <li>11 CGIの利用（3）</li> <li>12 鑑賞・報告会</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示、紹介する。プリントの配布（Web上も含む）も行う。		授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席は重視する。最低限のルールやマナー（禁飲食等）を守れない場合は、即時失格とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	情報科学各論（中級－HTML応用1）	担当者	田中 雅英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は情報科学各論(初級)「HTML入門」に続く中級コースである。HTML入門を受講済みあるいは同等の知識を有する学生を対象に、単にHTML言語の更なる発展を目指すのではなく、CGIやJavaScriptにまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目指とするのではなく、その過程においてコンピュータやネットワークの理解を含め、その積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブな双方向のコミュニケーションを図ることにより、情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。</p> <p>なお、この授業計画はあくまで一つの目安であり、途中での変更も十分にありえる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスと復習</li> <li>2. Webページのネットへのアップロード等</li> <li>3. プログラミングの考え方</li> <li>4. JavaScript1</li> <li>5. JavaScript2</li> <li>6. JavaScript3</li> <li>7. JavaScript4</li> <li>8. CGI</li> <li>9. 情報の収集 1</li> <li>10. 情報の収集 2</li> <li>11. 応用</li> <li>12. その他</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜指示する。		授業中に指示する課題と平常点で評価する。	

03 年度以降	情報科学各論（中級－データベース 1）	担当者	長崎 等
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は表計算ソフトウェア（Excel）の基礎をマスターした学生を対象として、Excel を利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する。</p> <p>高度情報化社会といわれる現代においては、昔と違い膨大な量の情報がうずまいている。そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である。その方法論的な答えの一つとしてデータベースがある。</p> <p>データベースの基本的な考え方や利用の仕方について、比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い、学習するのが本講義の目的である。</p> <p>&lt;受講者への要望&gt;  情報科学各論（初級－表計算入門）を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第 1 回目の授業には必ず出席すること。  遅刻は厳禁とします。また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習</li> <li>2 表計算の復習（1）</li> <li>3 表計算の復習（2）及びデータベースの基本概念について</li> <li>4 並べ替え</li> <li>5 集計</li> <li>6 レコードの抽出</li> <li>7 条件検索 1</li> <li>8 条件検索 2</li> <li>9 データベース関数</li> <li>10 クロス集計とピボットテーブル</li> <li>11 まとめ</li> <li>12 実習試験</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
1 回目の授業で指示します。		出席及びレポート課題、さらに実習試験によって評価します。	

03 年度以降	情報科学各論（中級－データベース 2）	担当者	長崎 等
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は「データベース 1」を履修済みの学生を対象として、Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、データベースをデザインし実際に作成をおこなってもらう。そういった演習を通じてデータベースの概念や設計に対する理解を深める。</p> <p>&lt;受講者への要望&gt;  情報科学各論（中級）「データベース 1」を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第 1 回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 データベースの概念と機能</li> <li>2 Access の基本操作</li> <li>3 テーブル</li> <li>4 テーブルと結合</li> <li>5 クエリ（1）</li> <li>6 クエリ（2）</li> <li>7 テーブル設計 1 （ハイレベルエンティティ分析）</li> <li>8 テーブル設計 2 （関係データ分析）</li> <li>9 テーブル設計 3 （テーブル作成）</li> <li>10 クエリ設計 1 （外部スキーマの設計）</li> <li>11 クエリ設計 1 （クエリの作成）</li> <li>12 プレゼンテーション</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『30H で理解できるアクセス 2003』， 実教出版 『図解雑学データベース』， ナツメ出版		出席及びレポート課題によって評価します。	



03 年度以降	情報科学各論(中級ープログラミング論 1)	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼ぶ。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにする。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指す。</p> <p>初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic.NET を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつかのプログラムの設計について講義および実習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説</li> <li>2 プログラミング言語の発展史</li> <li>3 開発ツールとしての Visual Basic.NET の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ</li> <li>4 Visual Basic の基本操作 フォーム、コントロール、プロパティ設定</li> <li>5 簡単なプログラムの作成 基本的なプログラミングの手順、プログラムの動作の確認する</li> <li>6 イベント駆動型プログラム</li> <li>7 文字の表示と計算プログラム 変数定義、演算、関数、メソッドの使い方</li> <li>8 選択構造をもつプログラム (1) 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング</li> <li>9 選択構造をもつプログラム (2) 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計</li> <li>10 繰り返しあるプログラムの作成 (1) 回数指定による繰り返し、For~Next 文</li> <li>11 繰り返しあるプログラムの作成 (2) 条件指定による繰り返し</li> <li>12 総合練習 総合問題、まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 最初の講義で指示する。</li> <li>(2) 随時必要な資料を指示する。</li> </ol>		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

03 年度以降	情報科学各論(中級ープログラミング論 2)	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義は、上記「プログラミング論 1」既習または基礎的なプログラムの作成知識を理解していることが前提にし、より発展的なプログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り返し替えプログラミングの技能を身に付くことを目的とする。</p> <p>ここでは、Visual Basic.NET というプログラミング言語を使って、Windows 環境でさまざまな機能を生かすためにプログラムの作成の考え方をはじめ、文系の方に役立つ文字列の処理、図形・画像の処理、ファイル操作などに学ぶ。さらに、問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用なプログラムの設計法まで述べる。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 プログラムの構造化 Sub プロシージャ、Function プロシージャ</li> <li>2 配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方</li> <li>3 文字列の処理プログラム (1) 簡単な翻訳プログラムの作成</li> <li>4 文字列の処理プログラム (2) 文字列の照合と置き換え</li> <li>5 図形の描画 さまざまな図形を描画するプログラムの作成</li> <li>6 文字列の表示</li> <li>7 画像の描画 画像の呼び出し方、画像の移動とコピー</li> <li>8 ファイル操作 (1) シーケンシャルアクセス：データの読み書き</li> <li>9 ファイル操作 (2) ランダムファイルとランダムアクセス</li> <li>10 応用的なテクニック アルゴリズム：探索とソート</li> <li>11 再帰というプログラミング手法</li> <li>12 総合練習 総合問題、まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
随時必要な資料を指示する。		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

03年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p><b>講義目的</b> 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学の目的と方法</li> <li>2. 家計の行動①</li> <li>3. 家計の行動②</li> <li>4. 家計の行動③</li> <li>5. 企業の行動①</li> <li>6. 企業の行動②</li> <li>7. 企業の行動③</li> <li>8. 不完全競争の理論</li> <li>9. 市場の理論①</li> <li>10. 市場の理論②</li> <li>11. 厚生経済学の基本定理</li> <li>12. 市場の失敗</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として試験の成績で評価する。出席を考慮する場合もある。	

03年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p><b>講義目的</b> 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マクロ経済学の体系</li> <li>2. 国民所得の諸概念</li> <li>3. 消費と貯蓄の理論</li> <li>4. 投資の理論</li> <li>5. 国民所得決定の理論</li> <li>6. 生産物市場の分析</li> <li>7. 金融市場の分析</li> <li>8. IS-LM 分析</li> <li>9. インフレとデフレ</li> <li>10. 財政赤字と日本経済</li> <li>11. 開放マクロ経済</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として試験の成績で評価する。出席を考慮する場合もある。	

03年度以降	社会心理学 a	担当者	田口 雅徳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>個人の行動や認知過程は少なからず、個人をとりまく他者、環境、文化などに影響される。社会心理学は、こうした社会に生きる個人の認知や行動を研究する学問分野といえる。本講義では、近年の社会心理学の研究動向を踏まえながら、1. 他者認知, 2. 自己認知, 3. 自己呈示と自己開示, 4. 社会的行動と集団の影響, 5. 対人コミュニケーションなどのテーマについて論じていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. 社会心理学とは？</li> <li>3. 他者認知：印象形成</li> <li>4. 他者認知：印象の記憶</li> <li>5. 他者認知：性格の認知</li> <li>6. 他者認知：第1印象の影響力</li> <li>7. 自己認知：自己意識</li> <li>8. 自己認知：自覚理論と没個性化</li> <li>9. 自己認知：自己知識</li> <li>10. 自己認知：自己評価</li> <li>11. 自己認知：他者理解と自己理解</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>			
<p>テキストはとくに使用しない。必要な資料は授業において配布する。参考文献は授業の中で紹介する。</p>		<p>出席と授業での発表、試験により総合的に評価する</p>	

03年度以降	社会心理学 b	担当者	田口 雅徳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義の目的と概要は春学期を参照のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期のまとめと秋学期のガイダンス</li> <li>2. 対人魅力①</li> <li>3. 対人魅力②</li> <li>4. 自己呈示と魅力</li> <li>5. 対人援助①</li> <li>6. 対人援助②</li> <li>7. 他者への攻撃①</li> <li>8. 他者への攻撃②</li> <li>9. コミュニケーションの心理①</li> <li>10. コミュニケーションの心理②</li> <li>11. コミュニケーションの心理③</li> <li>12. コミュニケーションの心理④</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>			
<p>テキストはとくに使用しない。必要な資料は授業において配布する。参考文献は授業の中で紹介する。</p>		<p>出席と授業での発表、試験により総合的に評価する</p>	

シラバス ドイツ語学科

---

2006年4月1日発行

獨協大学教務部

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電話 048-946-1664

※この冊子は、再生紙を使用しています。



DOKKYO UNIVERSITY